

本調査研究の概要

1 調査研究目的

指定保育士養成施設における保育実習については、習得した知識・技能を基礎とし、それらを総合的に実践することが求められている。卒業後に保育現場で定着を図る観点等から、効果的な実習方法を検討することが求められている。効果的な実習の成果は、保育士養成施設の教育の向上に寄与するとともに、保育現場での保育の質向上にも反映できるものである。

このため保育実習に関する有効な実施方法・内容や好事例を収集し、実習の効果的な実施方法に関する考察、提言を行い、保育士養成施設における実習指導の質の向上を図ることを目的とする。

2 調査研究事業の内容

本調査研究事業は、3つの調査研究を実施している。下記に各調査の詳細を示す。

(1) 指定保育士養成施設の在学学生を対象とした質問紙調査（学生調査）

【調査の内容】

指定保育士養成施設の在学学生を対象に、保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲそれぞれにおける、実習前と実習後の学生の意識の変化や学びの深まりの過程等について調査。

<質問項目>：①フェイスシート、②実習における学びについて、③保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲについて（事前事後指導、実習日誌、訪問指導、実習施設の保育士の指導等に関する項目）、④指導実習について⑤自身の成長について⑥授業の学びの中で、実習に役立ったと思われる学びについて（自由記述）

【調査の方法】

対象校の担当教員の下、授業時間内に実施。回答後、調査票は対象者が封筒に入れ、封をした後その場で回収した。

【調査対象】

指定保育士養成施設に在学している1,092名を対象。内訳は四年制大学7校（493名）、短期大学4校（496名）、専修学校2校（103名）。対象者はすべて卒業学年学生である。

【調査時期】

2017年12月～2018年2月

(2) 保育実習の好事例調査および事例集作成（好事例調査）

【調査の内容】

実習に係る取組み（教育課程、指導・支援体制、事前・事後指導、指導方法・マニュアル、評価、訪問指導、実習先との連携等）に関する事例について調査。

【調査方法】

実地に出向いて調査およびヒアリングによる調査。

【調査対象】

指定保育士養成施設（四年制大学、短期大学）及び、某自治体、某県保育士養成協議会計12施設

【調査時期】

2018年2月上旬～2月下旬

(3) 保育実習の標準的な実施方法の検討（標準的な実施方法調査）

【調査の内容】

実習に係る取り組み（教育課程、指導・支援体制、事前・事後指導、指導方法・マニュアル、評価、訪問指導、実習先との連携等）に関する事項、特に本会が2005年に策定した「保育実習指導のミニマムスタンダード」および2017年策定のミニマムスタンダードとの整合性を図り、本研究の学生への質問紙調査、好事例調査を総合的に検討する。

【調査方法】

グループインタビューによる調査および先行研究の調査。「平成28年度指定保育士養成施設における教育の質の確保と向上に関する調査研究事業」、「平成17年度効果的な保育実習のあり方に関する研究～保育実習指導のミニマムスタンダード～」等全国を対象とした先行研究の結果、また、本研究の学生への質問紙調査と好事例調査を総合的に検討する。

【調査対象】

指定保育士養成施設、保育実習施設の保育実習指導担当者、有識者 計20名

【調査時期】

2017年12月～2018年1月

3 倫理的配慮

(1) 質問紙調査について

指定保育士養成施設に在学する学生に対し、無記名式で実施をした。研究の目的や意義、研究結果の公表方法、研究に関する質問や意見の連絡方法等と併せて倫理的配慮事項について依頼文の中に次の内容を明記した。回答は個人の自由意志に基づき実施されること、同意をしない場合においても回答者が不利益を被ることはないこと、さらに質問紙の回答が返送されたことによって本調査への同意が得られたとすることを明記した。また得られた回答データはすべて統計的に処理し、個人や所属が特定される形で結果を公表することはないこと、回答データは特定のUSBメモリーに保存のうえ、質問紙とともに施錠できるロッカー等に保存し、業務終了後、一定期間経過後に溶解処理にて破棄すること等も明記した。

(2) ヒアリングおよびグループインタビューについて

研究の目的と意義、研究方法、研究への参加協力は自由意志であり、拒否する権利があること、またプライバシー及び個人情報の保護とその取扱いについて、さらに研究結果の公表方法、研究に関する質問や意見の連絡方法等について文章等で説明をし同意を得た。得られたデータの取扱いについて、研究期間中本会で用意した専用のUSBメモリーに保存し、個人のパソコンへの保存はしないこととした。また研究事業終了後は、研究のために使用したデータ、資料等は全て本会で保存をし、各研究者はデータを保存しているUSBメモリーを速やかに返却することとした。さらに、各研究者の手元に残っているデータ、資料のコピー等は速やかに削除することとした。その他、本研究を実施するにあたり、研究上知り得た情報は本研究の目的以外に使用しないこととし、研究期間終了後も同様のこととした。

第1部 指定保育士養成施設の在学学生を対象とした質問紙調査（学生調査）

I. 質問紙調査の概要

1. 調査の目的・方法

（1）調査の目的

本調査の目的は、保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲそれぞれにおける、実習前と実習後の学生の意識の変化や学びの深まりの過程などを質問紙調査から捉え、効果的な保育実習の実施方法を探ることである。

（2）調査の方法

1) 調査対象者

保育士養成課程の学科を有する四年制大学、短期大学、専門学校の卒業学年学生を対象とした。以下、内訳を示す。

四年制大学	7校	493名	
短期大学	4校	496名	
専門学校	2校	103名	
合計		1,092名	（男性52名、女性1,033名、未記入7名）

2) 調査時期

2017年12月～2018年2月に実施した。

3) 調査方法と手続き

質問紙調査票により、回答を求めた。対象校の担当教員の説明の下、授業時間内に実施した。調査票を配布し、倫理的配慮として、研究目的と調査方法の概要、結果の処理方法及び成果の発表におけるプライバシーの保護、研究協力の任意性及び協力を拒否することで成績等に不利益が生じないことについて説明し、了解を得た後、回答を促した。回答後、調査票は対象者が封筒に入れて封をした後、その場で回収を行った。

4) 調査内容

調査内容は以下の通りである。

【設問1】フェイスシート

学年、性別、年齢、保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実習に行った時期と、実習先の種別について。

【設問2】実習における学びについて

実習における学び（実習態度、園・施設の役割、子どもの理解、保育内容・環境、保育の計画・記録、保育士役割 35項目）について、身についた実習時期を「実習が始まる前までに身についた」

「保育実習Ⅰ（保育所）において身についた」「保育実習Ⅰ（施設）において身についた」「保育実習ⅡまたはⅢにおいて身についた」「まだ身につけていない」の中から選択するよう回答を求めた。

【設問3～5】 保育所実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲについて

各実習における事前事後の授業における理解について、実習日誌について（指導者の日誌の指導に対する満足度、作成時間、負担感、日誌を通しての学びの深まり）、訪問指導について（実習指導担当者、指導内容、指導時間、指導に対する満足度）、実習施設の保育士の指導について（実習指導担当者、指導内容、指導時間、指導に対する満足度）。

【設問6】 指導実習について

責任実習・部分実習の内容と学びについて。計画を立案した実践の頻度や方法、計画を立案し実践したことを通しての学び（7項目）など。

【設問7】 自身の成長について

入学時と全ての実習を終えた現在の自分自身の保育士になりたい意欲、保育士としての適性などに関する16項目。

【設問8】 授業の学びの中で、実習に役に立ったと思われる学びについて（自由記述）

5) 分析方法

数量的データについては統計ソフト SPSS（IBM 社）を使用し、自由記述については文字データ化し、適宜カテゴリーに分類して使用した。

Ⅱ. 全体の傾向と学校種別の検討

1. フェイスシート結果

(1) 調査対象者の概要

1) 学年と性別

調査対象者の学年と性別については以下のとおりである。

図表 1-2-1 回答者の学校種別による学年と性別（人数）（未回答7名）

学校種別			性別		合計
			男性	女性	
専門学校・ 短期大学	学年	2年	20	509	529
		3年	0	67	67
	合計		20	576	596
四年制大学	学年	4年	32	457	489
		合計	32	457	489
合計			52	1033	1085

2) 年齢

調査対象者（1,092名）の平均年齢は、20.95（ $SD=1.77$ ）歳であり、年齢の幅は19歳～49歳であった。

（2）保育実習を行った時期

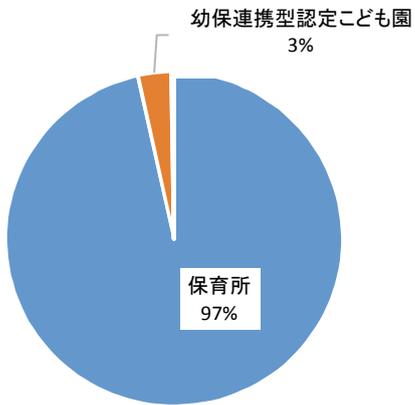
保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（施設）、保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲの実習を行った時期については図表1-2-2のとおりであった。実習時期は7月～9月、2月～3月に集中しており、受け入れ施設の実習生へ対する指導の繁忙期とも受け取れる。

図表 1-2-2 各保育実習の実施時期（人数）

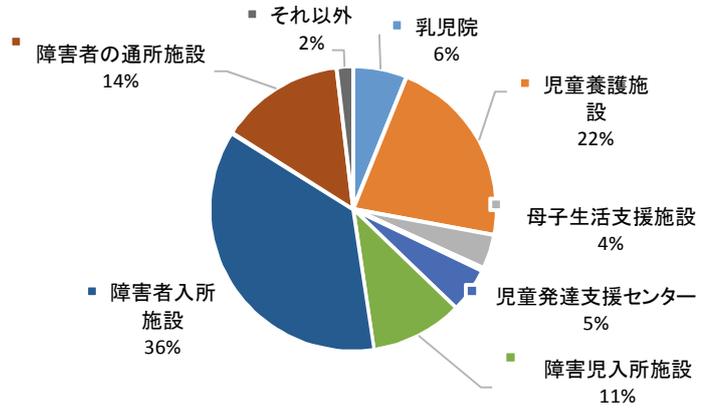
実習		時期	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
			月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
保育実習Ⅰ （保育所）	学年	1年	0	1	3	0	3	3	71	7	0	89	305	6
		2年	0	6	38	1	3	1	1	3	0	17	365	25
		3年	0	0	0	1	38	0	0	0	0	2	4	0
		4年	0	0	0	0	69	0	0	0	0	0	0	0
保育実習Ⅰ （施設）	学年	1年	0	0	0	1	1	0	0	0	0	56	98	66
		2年	0	1	14	88	198	32	1	0	0	90	41	10
		3年	0	14	27	27	87	23	4	57	12	2	74	34
		4年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
保育実習Ⅱ	学年	1年	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
		2年	0	1	68	50	88	99	161	1	0	1	6	1
		3年	0	11	9	3	93	25	59	6	0	3	49	2
		4年	0	10	12	1	40	94	0	2	0	0	0	0
保育実習Ⅲ	学年	1年	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
		2年	1	0	9	2	33	20	1	0	0	0	0	0
		3年	0	0	0	0	10	1	1	0	0	0	23	6
		4年	0	8	15	4	28	13	0	1	0	0	0	0

(3) 保育実習を行った施設種別

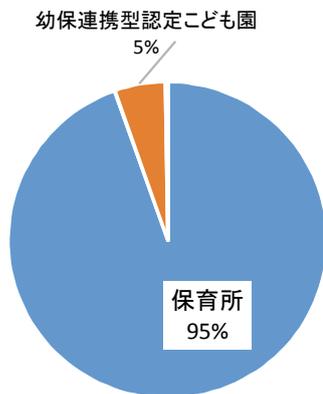
各保育実習を行った施設種別は以下のとおりである。



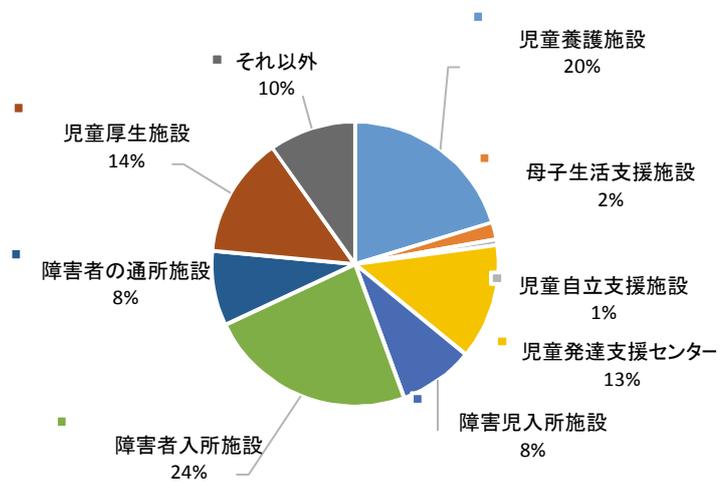
図表1-2-3 保育実習Ⅰ（保育所）実習先



図表1-2-4 保育実習Ⅰ（施設）実習先



図表1-2-5 保育実習Ⅱ 実習先



図表1-2-6 保育実習Ⅲ 実習先

2. 実習における学びについて

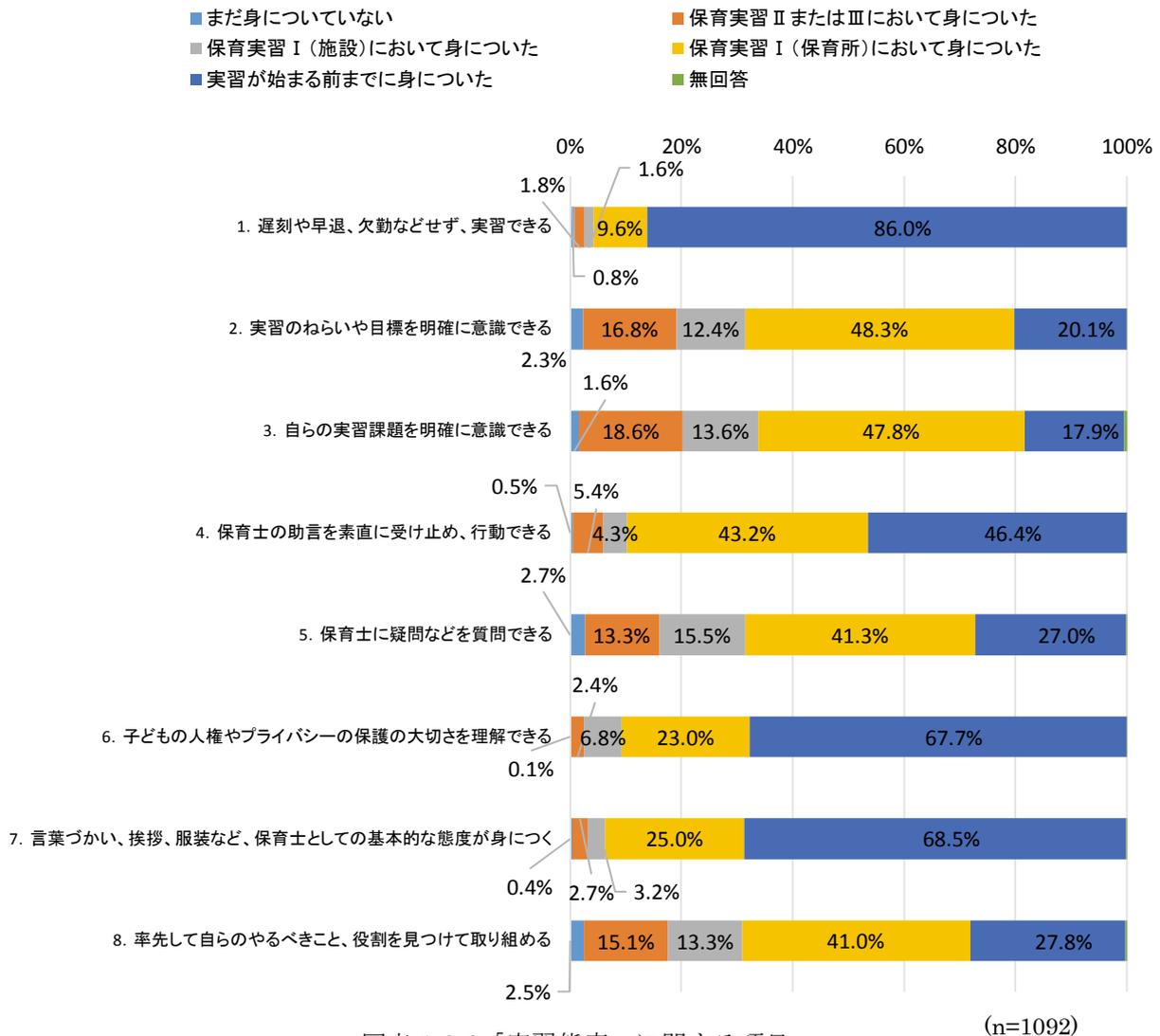
実習における学びに関する項目は、厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知の「指定保育士養成施設の指定及び運営基準について」に定められている保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの教科目の教授内容、保育所保育指針等を参考にして作成したものである。項目の構成は、「実習態度」「園・施設の役割・子どもの理解」「保育内容・環境」「保護者支援」「保育の計画・記録」「保育士役割」という大項目からなっている。

(1) 全体傾向

1) 実習態度に関する項目

図表 1-2-7 「実習態度」に関する項目

項目	まだ身につけていない		保育実習ⅡまたはⅢにおいて身についた		保育実習Ⅰ（施設）において身についた		保育実習Ⅰ（保育所）において身についた		実習が始まる前までに身についた		無回答		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
実習態度	1. 遅刻や早退、欠勤などせず、実習できる	9	0.8%	20	1.8%	18	1.6%	105	9.6%	939	86.0%	1	0.1%
	2. 実習のねらいや目標を明確に意識できる	25	2.3%	184	16.8%	135	12.4%	527	48.3%	220	20.1%	1	0.1%
	3. 自らの実習課題を明確に意識できる	18	1.6%	203	18.6%	148	13.6%	522	47.8%	195	17.9%	6	0.5%
	4. 保育士の助言を素直に受け止め、行動できる	6	0.5%	59	5.4%	47	4.3%	472	43.2%	507	46.4%	1	0.1%
	5. 保育士に疑問などを質問できる	30	2.7%	145	13.3%	169	15.5%	451	41.3%	295	27.0%	2	0.2%
	6. 子どもの人権やプライバシーの保護の大切さを理解できる	1	0.1%	26	2.4%	74	6.8%	251	23.0%	739	67.7%	1	0.1%
	7. 言葉づかい、挨拶、服装など、保育士としての基本的な態度が身につく	4	0.4%	30	2.7%	35	3.2%	273	25.0%	748	68.5%	2	0.2%
	8. 率先して自らのやるべきこと、役割を見つけて取り組める	27	2.5%	165	15.1%	145	13.3%	448	41.0%	304	27.8%	3	0.3%



図表 1-2-8 「実習態度」に関する項目

「1. 遅刻や早退、欠勤などせず、実習できる」「6. 子どもの人権やプライバシーの保護の大切さを理解できる」「7. 言葉づかい、挨拶、服装など、保育士としての基本的な態度が身につく」といった項目で、6割以上の学生が、「実習が始まる前に身についた」と回答していた。これらの実習態度は、多くの学生が保育実習前の学びや自身の生活態度によって身につけていることが示唆された。また、「まだ身についていない」と回答した学生がすべての項目で5%以下であり、実習を通して学びが身につけていることが示された。他方で、「2.実習のねらいや目標を明確にできる」「3.自らの実習課題を明確に意識できる」といった項目は、「実習が始まるまでに身についた」と回答した学生は2割程度であり、他の実習態度に関する項目と回答傾向が異なっていた。

(2) 園・施設の役割・子どもの理解に関する項目

図表 1-2-9 「園・施設の役割・子どもの理解」に関する項目

項目	まだ身につけていない		保育実習ⅡまたはⅢにおいて身についた		保育実習Ⅰ(施設)において身についた		保育実習Ⅰ(保育所)において身についた		実習が始まる前までに身についた		無回答	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
9. 園・施設が担っている子どもや保護者に対する役割や機能を理解できる	26	2.4%	201	18.4%	186	17.0%	505	46.2%	169	15.5%	5	0.5%
10. 一人ひとりの子どもをよく観察し、子どもの特徴や興味・関心を理解できる	25	2.3%	218	20.0%	125	11.4%	557	51.0%	164	15.0%	3	0.3%
11. 園・施設が作成する保育の記録を通して、子どもの特徴や興味・関心を理解できる	74	6.8%	258	23.6%	158	14.5%	477	43.7%	118	10.8%	7	0.6%
12. 一人ひとりの子どもの発達過程を理解できる	82	7.5%	330	30.2%	137	12.5%	442	40.5%	97	8.9%	4	0.4%
13. 子どもの発達状態に応じた援助やかかわりができる	96	8.8%	374	34.2%	136	12.5%	402	36.8%	80	7.3%	4	0.4%
14. 分け隔てなく子どもと接することができる	23	2.1%	105	9.6%	63	5.8%	399	36.5%	496	45.4%	6	0.5%
15. 保育士の動きや連携の様子をよく観察し、保育士の実践の意図を理解できる	49	4.5%	311	28.5%	123	11.3%	461	42.2%	145	13.3%	3	0.3%

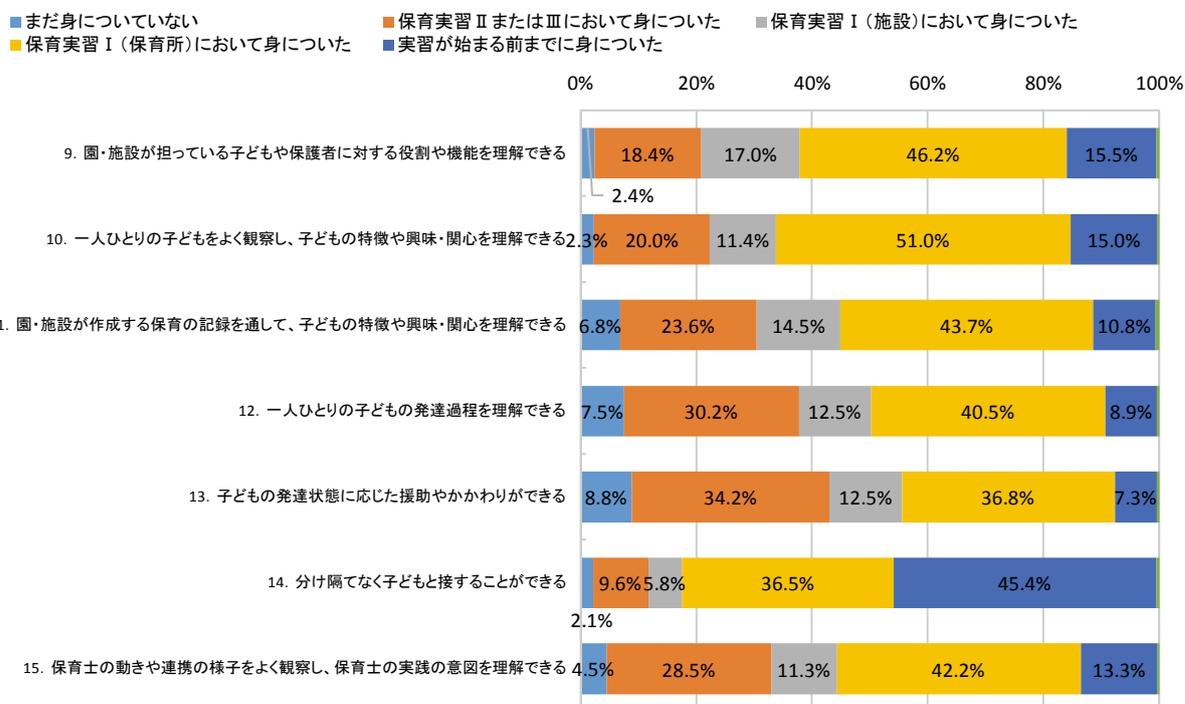


図 1-2-10 「園・施設の役割・子どもの理解」に関する項目

(n=1092)

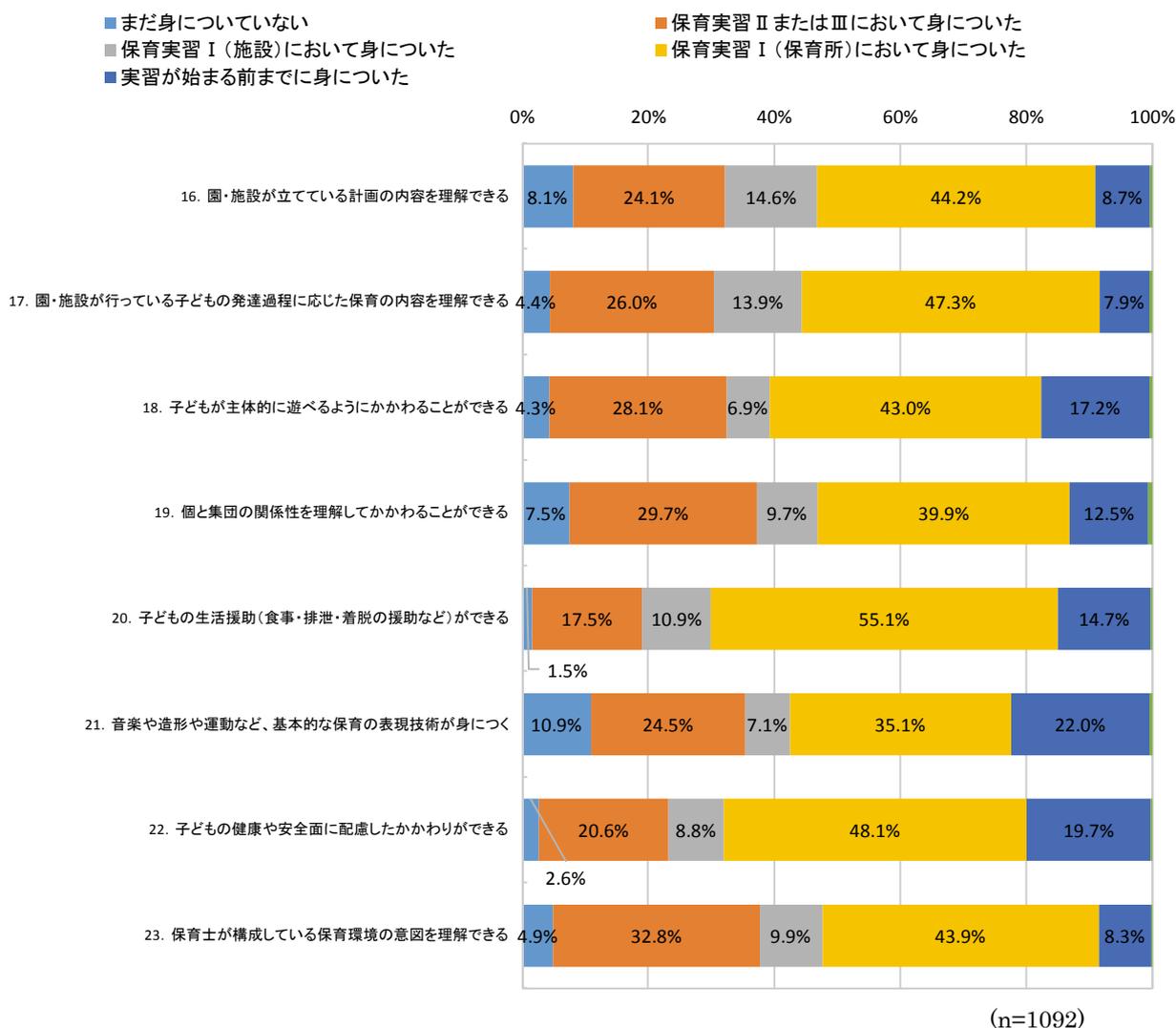
「9. 園・施設が担っている子どもや保護者に対する役割や機能を理解できる」「10. 一人ひとりの子どもをよく観察し、子どもの特徴や興味・関心を理解できる」「14. 分け隔てなく子どもと接することができる」は、「実習が始まるまでに身についた」「保育実習Ⅰ（保育所）（施設）において身についた」までの値を合計すると、7割以上の学生の回答が見られた。すなわち、これらの項目は、多くの学生が保育実習Ⅱ・Ⅲの開始前には身についたと認識していることが示唆された。

他方、「12. 一人ひとりの子どもの発達過程を理解できる」「13. 子どもの発達状態に応じた援助やかかわりができる」といった発達理解や発達に応じた援助に関する項目は、保育実習Ⅱ・Ⅲにおいて身についたという回答が3割を超え、保育実習Ⅰの経験や学内での学びを踏まえて身についたと捉えている学生が相対的に多いことが示唆された。

（3）保育内容・環境に関する項目

図表 1-2-11 「保育内容・環境」に関する項目

項目	まだ身につけていない		保育実習ⅡまたはⅢにおいて身についた		保育実習Ⅰ（施設）において身についた		保育実習Ⅰ（保育所）において身についた		実習が始まる前までに身についた		無回答		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
保育内容・環境	16. 園・施設が立てている計画の内容を理解できる	88	8.1%	263	24.1%	159	14.6%	483	44.2%	95	8.7%	4	0.4%
	17. 園・施設が行っている子どもの発達過程に応じた保育の内容を理解できる	48	4.4%	284	26.0%	152	13.9%	517	47.3%	86	7.9%	5	0.5%
	18. 子どもが主体的に遊べるようにかかわることができる	47	4.3%	307	28.1%	75	6.9%	470	43.0%	188	17.2%	5	0.5%
	19. 個と集団の関係性を理解してかかわることができる	82	7.5%	324	29.7%	106	9.7%	436	39.9%	136	12.5%	8	0.7%
	20. 子どもの生活援助（食事・排泄・着脱の援助など）ができる	16	1.5%	191	17.5%	119	10.9%	602	55.1%	161	14.7%	3	0.3%
	21. 音楽や造形や運動など、基本的な保育の表現技術が身につく	119	10.9%	267	24.5%	77	7.1%	383	35.1%	240	22.0%	6	0.5%
	22. 子どもの健康や安全面に配慮したかかわりができる	28	2.6%	225	20.6%	96	8.8%	525	48.1%	215	19.7%	3	0.3%
	23. 保育士が構成している保育環境の意図を理解できる	54	4.9%	358	32.8%	108	9.9%	479	43.9%	91	8.3%	2	0.2%



図表 1-2-12 「保育内容・環境」に関する項目

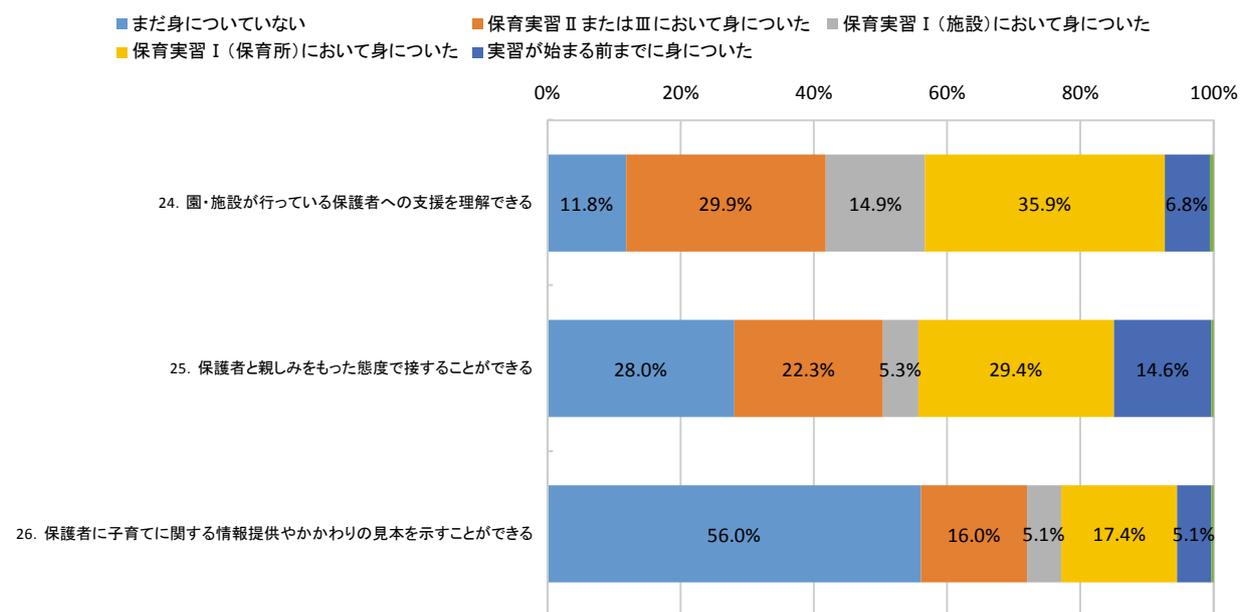
「16. 園・施設が立てている計画の内容を理解できる」「17. 園・施設が行っている子どもの発達過程に応じた保育の内容を理解できる」「23. 保育士が構成している保育環境の意図を理解できる」では、「実習が始まるまでに身についた」と回答した学生が 10%以下であり、机上の学びよりも実際の実習を通してこれらの内容を学んでいることが伺えた。また、「18. 子どもが主体的に遊べるようにかかわることができる」「21. 音楽や造形や運動など、基本的な保育の表現技術が身につく」では、保育実習（施設）において身についたと回答した学生が少なかった。さらに、「21. 音楽や造形や運動など、基本的な保育の表現技術が身につく」では、「まだ身についていない」と回答した学生が 10%を超えていた。「実習が始まるまでに身についた」と回答した者が 20%以上いることと合わせて考えると、各個人の持つ得意、不得意の意識が影響していると考えられた。

(4) 保護者支援に関する項目

図表 1-2-13 「保護者支援」に関する項目

項目	まだ身についていない		保育実習ⅡまたはⅢにおいて身についた		保育実習Ⅰ(施設)において身についた		保育実習Ⅰ(保育所)において身についた		実習が始まる前までに身についた		無回答		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
保護者支援	24. 園・施設が行っている保護者への支援を理解できる	129	11.8%	327	29.9%	163	14.9%	392	35.9%	74	6.8%	7	0.6%
	25. 保護者と親しみをもった態度で接することができる	306	28.0%	244	22.3%	58	5.3%	321	29.4%	159	14.6%	4	0.4%
	26. 保護者に子育てに関する情報提供やかかわりの見本を示すことができる	611	56.0%	175	16.0%	56	5.1%	190	17.4%	56	5.1%	4	0.4%

(n=1092)



図表 1-2-14 「保護者支援」に関する項目

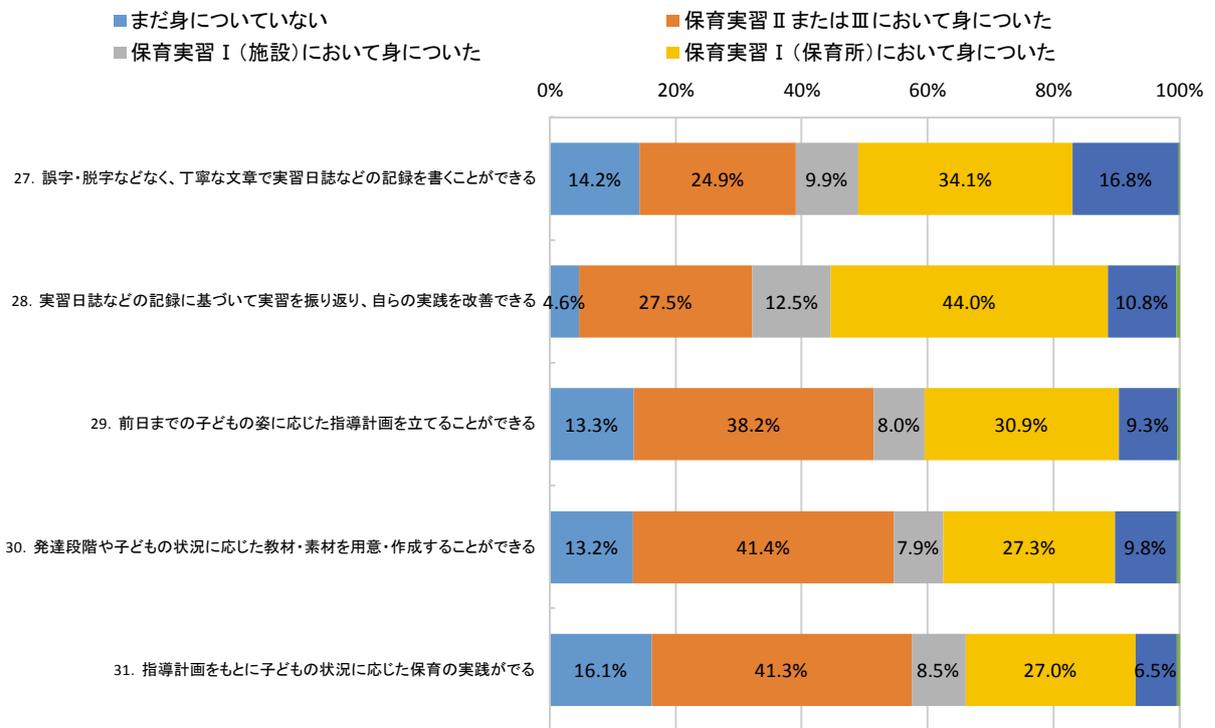
(n=1092)

「24. 園・施設が行っている保護者への支援を理解できる」「25. 保護者と親しみをもった態度で接することができる」「26. 保護者に子育てに関する情報提供やかかわりの見本を示すことができる」といった保護者支援に関する項目では、「まだ身についていない」と回答した学生が1割を超えていた。特に項目 26 という保護者へ情報提供や行動見本を示す項目では、身についていないと回答した学生が5割を超え、実習を通して習得できていないと認識している学生が多いことが示された。

(5) 保育の計画・記録に関する項目

図表 1-2-15 「保育の計画・記録」に関する項目

項目	まだ身につけていない		保育実習ⅡまたはⅢにおいて身についた		保育実習Ⅰ（施設）において身についた		保育実習Ⅰ（保育所）において身についた		実習が始まる前までに身についた		無回答		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
保育の計画・記録	27. 誤字・脱字などなく、丁寧な文章で実習日誌などの記録を書くことができる	155	14.2%	272	24.9%	108	9.9%	372	34.1%	183	16.8%	2	0.2%
	28. 実習日誌などの記録に基づいて実習を振り返り、自らの実践を改善できる	50	4.6%	300	27.5%	136	12.5%	481	44.0%	118	10.8%	7	0.6%
	29. 前日までの子どもの姿に応じた指導計画を立てることができる	145	13.3%	417	38.2%	87	8.0%	337	30.9%	102	9.3%	4	0.4%
	30. 発達段階や子どもの状況に応じた教材・素材を用意・作成することができる	144	13.2%	452	41.4%	86	7.9%	298	27.3%	107	9.8%	5	0.5%
	31. 指導計画をもとに子どもの状況に応じた保育の実践ができる	176	16.1%	451	41.3%	93	8.5%	295	27.0%	71	6.5%	6	0.5%



図表 1-2-16 「保育の計画・記録」に関する項目

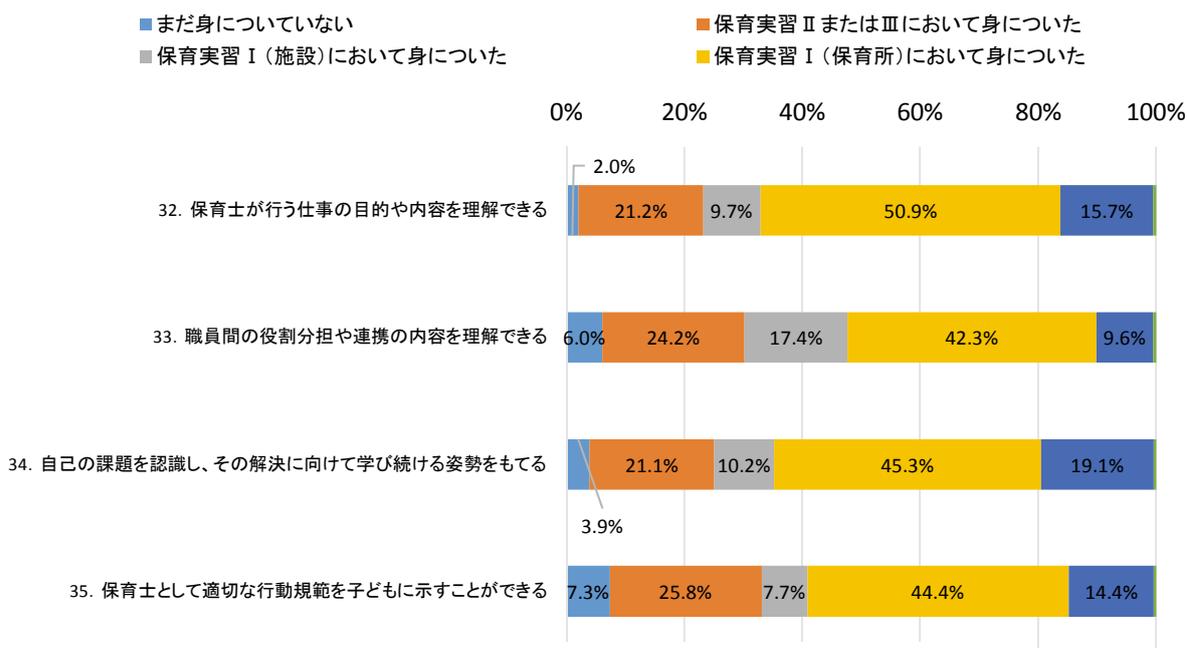
(n=1092)

「29. 前日までの子どもの姿に応じた指導計画を立てることができる」「30. 発達段階や子どもの状況に応じた教材・素材を用意・作成することができる」「31. 指導計画をもとに子どもの状況に応じた保育の実践ができる」では、保育実習ⅡまたはⅢにおいて身についたと回答した割合が保育実習Ⅰ（保育所）より高くなっていた。保育実習ⅡまたはⅢでは、多くの学生が責任実習を経験するため、教材準備や指導計画の立案・実践に関するこれらの項目の値が高いことが示唆される。また、実習日誌に関する項目 28 を除き、「まだ身につけていない」と回答した学生が 10%以上いることが示され、他の項目に比べて相対的に割合が高かった。

（6）保育士役割に関する項目

図表 1-2-17 「保育士役割」に関する項目

項目	まだ身につけていない		保育実習ⅡまたはⅢにおいて身についた		保育実習Ⅰ（施設）において身についた		保育実習Ⅰ（保育所）において身についた		実習が始まる前までに身についた		無回答		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
保育士役割	32. 保育士が行う仕事の目的や内容を理解できる	22	2.0%	231	21.2%	106	9.7%	556	50.9%	171	15.7%	6	0.5%
	33. 職員間の役割分担や連携の内容を理解できる	66	6.0%	264	24.2%	190	17.4%	462	42.3%	105	9.6%	5	0.5%
	34. 自己の課題を認識し、その解決に向けて学び続ける姿勢をもてる	43	3.9%	230	21.1%	111	10.2%	495	45.3%	209	19.1%	4	0.4%
	35. 保育士として適切な行動規範を子どもに示すことができる	80	7.3%	282	25.8%	84	7.7%	485	44.4%	157	14.4%	4	0.4%



図表 1-2-18 「保育士役割」に関する項目

(n=1092)

保育士としての役割や倫理に関する項目は総じて、「まだ身につけていない」と回答した学生が少なく、養成校での実習を通して学べることができたと認識している学生が多いことが示唆された。

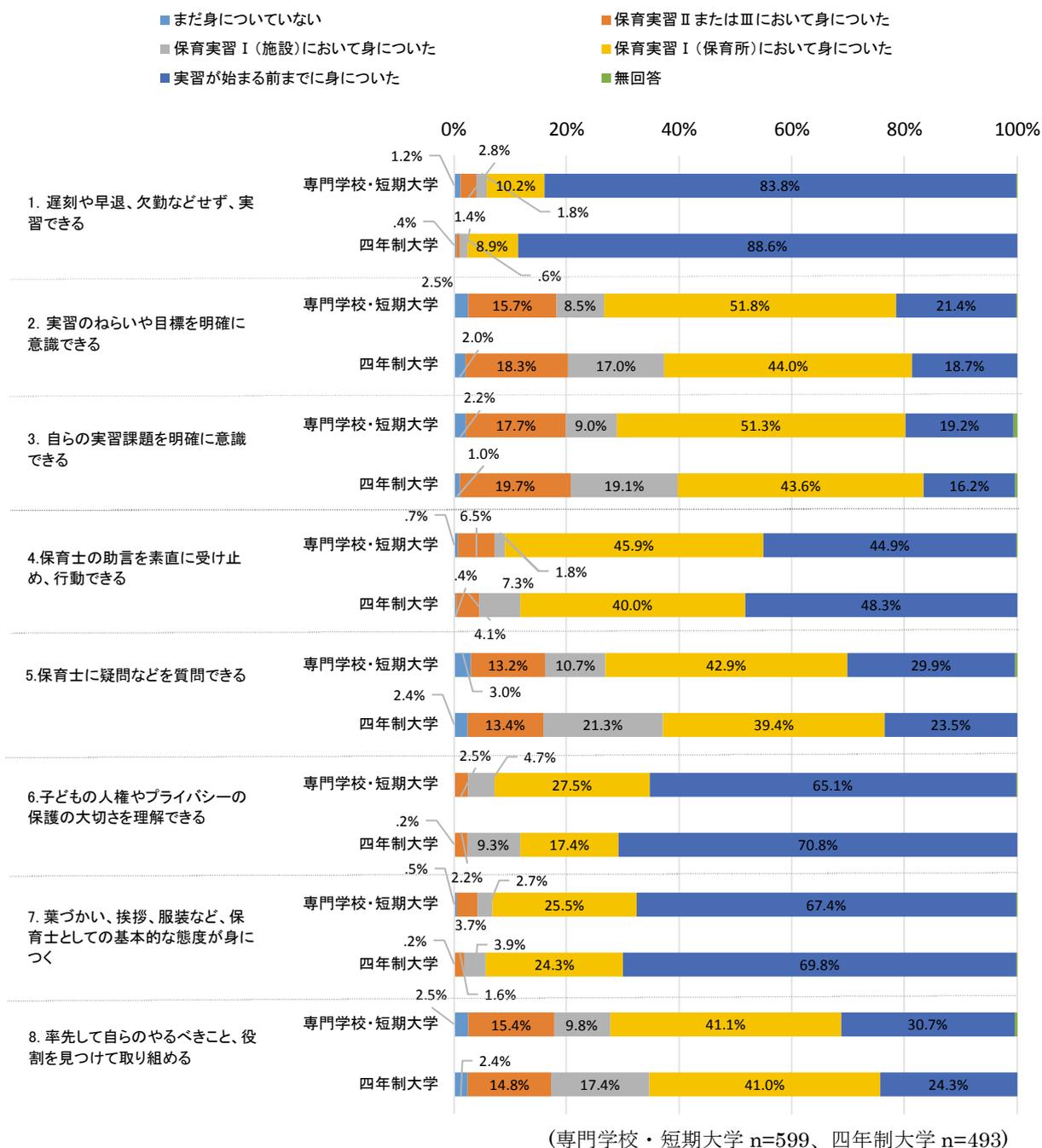
(7) 学校種別（専門学校・短期大学と四年制大学）の比較

1) 実習態度に関する項目

図表 1-2-19 「実習態度」に関する項目

項目		まだ身につけていない	たはIIIにおいた	たいて身につけていない	保育実習I(施設)において	保育実習I(保育所)において	前までに身につけた	無回答
実習態度	1. 遅刻や早退、欠勤などせず、実習できる	専門学校・短期大学	1.2%	2.8%	1.8%	10.2%	83.8%	.2%
		四年制大学	.4%	.6%	1.4%	8.9%	88.6%	0.0%
	2. 実習のねらいや目標を明確に意識できる	専門学校・短期大学	2.5%	15.7%	8.5%	51.8%	21.4%	.2%
		四年制大学	2.0%	18.3%	17.0%	44.0%	18.7%	0.0%
	3. 自らの実習課題を明確に意識できる	専門学校・短期大学	2.2%	17.7%	9.0%	51.3%	19.2%	.7%
		四年制大学	1.0%	19.7%	19.1%	43.6%	16.2%	.4%
	4. 保育士の助言を素直に受け止め、行動できる	専門学校・短期大学	.7%	6.5%	1.8%	45.9%	44.9%	.2%
		四年制大学	.4%	4.1%	7.3%	40.0%	48.3%	0.0%
	5. 保育士に疑問などを質問できる	専門学校・短期大学	3.0%	13.2%	10.7%	42.9%	29.9%	.3%
		四年制大学	2.4%	13.4%	21.3%	39.4%	23.5%	0.0%
	6. 子どもの人権やプライバシーの保護の大切さを理解できる	専門学校・短期大学	0.0%	2.5%	4.7%	27.5%	65.1%	.2%
		四年制大学	.2%	2.2%	9.3%	17.4%	70.8%	0.0%
	7. 言葉づかい、挨拶、服装など、保育士としての基本的な態度が身につく	専門学校・短期大学	.5%	3.7%	2.7%	25.5%	67.4%	.2%
		四年制大学	.2%	1.6%	3.9%	24.3%	69.8%	.2%
	8. 率先して自らのやるべきこと、役割を見つけて取り組める	専門学校・短期大学	2.5%	15.4%	9.8%	41.1%	30.7%	.5%
		四年制大学	2.4%	14.8%	17.4%	41.0%	24.3%	0.0%

(専門学校・短期大学 n=599、四年制大学 n=493)



図表 1-2-20 「実習態度」に関する項目

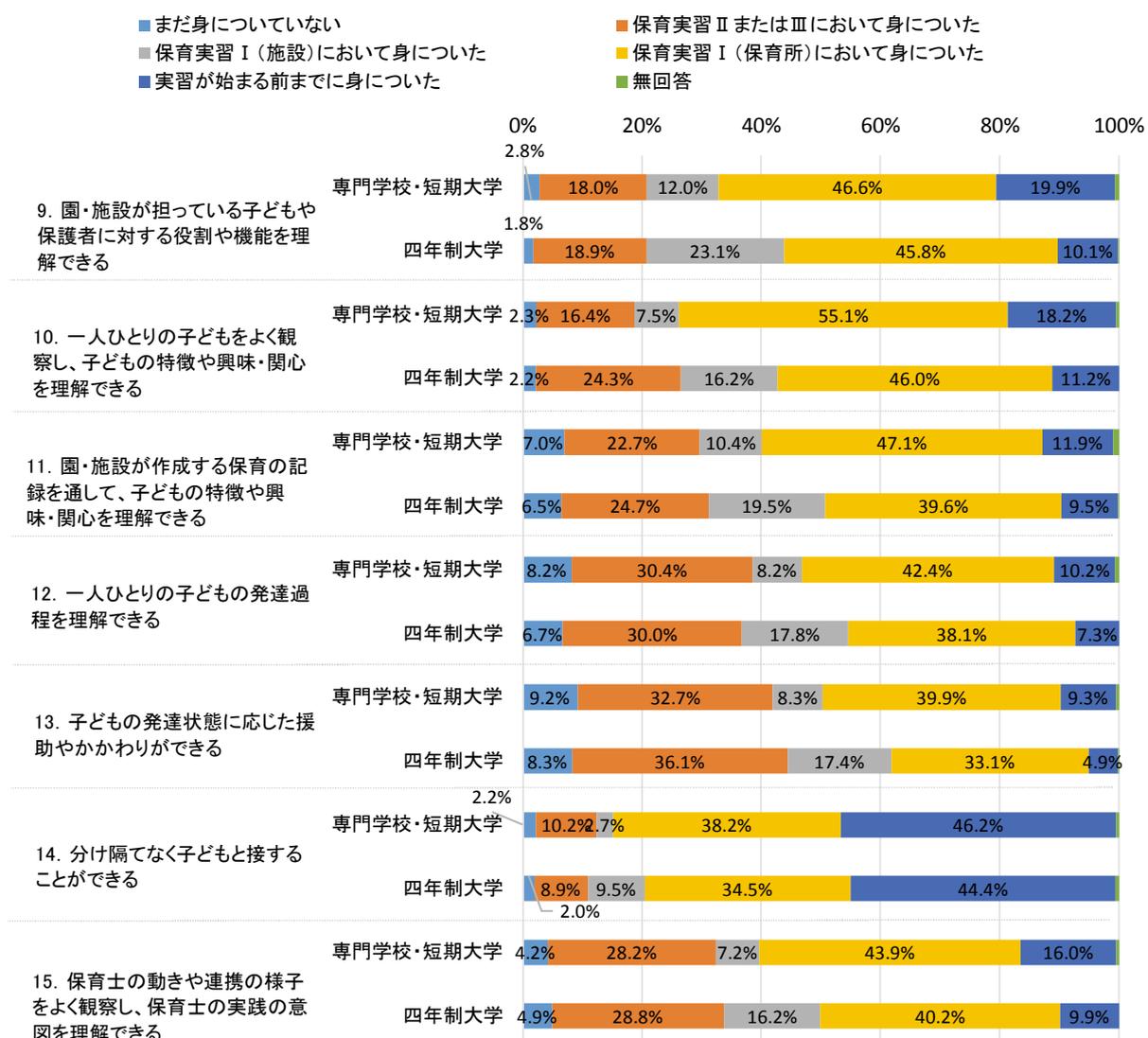
専門学校・短期大学と四年制大学の学生を比較すると、「2. 実習のねらいや目標を明確に意識できる」「3. 自らの実習課題を明確に意識できる」「5. 保育士に疑問などを質問できる」では、専門学校・短期大学の学生は、「保育実習 I（保育所）において身についた」と回答した者の割合が高く、四年制大学の学生は「保育実習 I（施設）において身についた」と回答した割合が高かった。

2) 園・施設の役割・子どもの理解に関する項目

図表 1-2-21 「園・施設の役割・子どもの理解」に関する項目

項目		まだ身についていない	たは身についていた 保育実習Ⅱ ま	たは身についていた 保育実習Ⅰ （施設）に お	たは身についていた 保育実習Ⅰ （保育所） に	前までに身に ついた	無回答	
園・施設の役割・子どもの理解	9. 園・施設が担っている子どもや保護者に対する役割や機能を理解できる	専門学校・短期大学	2.8%	18.0%	12.0%	46.6%	19.9%	.7%
		四年制大学	1.8%	18.9%	23.1%	45.8%	10.1%	.2%
	10. 一人ひとりの子どもをよく観察し、子どもの特徴や興味・関心を理解できる	専門学校・短期大学	2.3%	16.4%	7.5%	55.1%	18.2%	.5%
		四年制大学	2.2%	24.3%	16.2%	46.0%	11.2%	0.0%
	11. 園・施設が作成する保育の記録を通して、子どもの特徴や興味・関心を理解できる	専門学校・短期大学	7.0%	22.7%	10.4%	47.1%	11.9%	1.0%
		四年制大学	6.5%	24.7%	19.5%	39.6%	9.5%	.2%
	12. 一人ひとりの子どもの発達過程を理解できる	専門学校・短期大学	8.2%	30.4%	8.2%	42.4%	10.2%	.7%
		四年制大学	6.7%	30.0%	17.8%	38.1%	7.3%	0.0%
	13. 子どもの発達状態に応じた援助やかかわりができる	専門学校・短期大学	9.2%	32.7%	8.3%	39.9%	9.3%	.5%
		四年制大学	8.3%	36.1%	17.4%	33.1%	4.9%	.2%
	14. 分け隔てなく子どもと接することができる	専門学校・短期大学	2.2%	10.2%	2.7%	38.2%	46.2%	.5%
		四年制大学	2.0%	8.9%	9.5%	34.5%	44.4%	.6%
	15. 保育士の動きや連携の様子をよく観察し、保育士の実践の意図を理解できる	専門学校・短期大学	4.2%	28.2%	7.2%	43.9%	16.0%	.5%
		四年制大学	4.9%	28.8%	16.2%	40.2%	9.9%	0.0%

(専門学校・短期大学 n=599、四年制大学 n=493)



(専門学校・短期大学 n=599、四年制大学 n=493)

図表 1-2-22 「園・施設の役割・子どもの理解」に関する項目

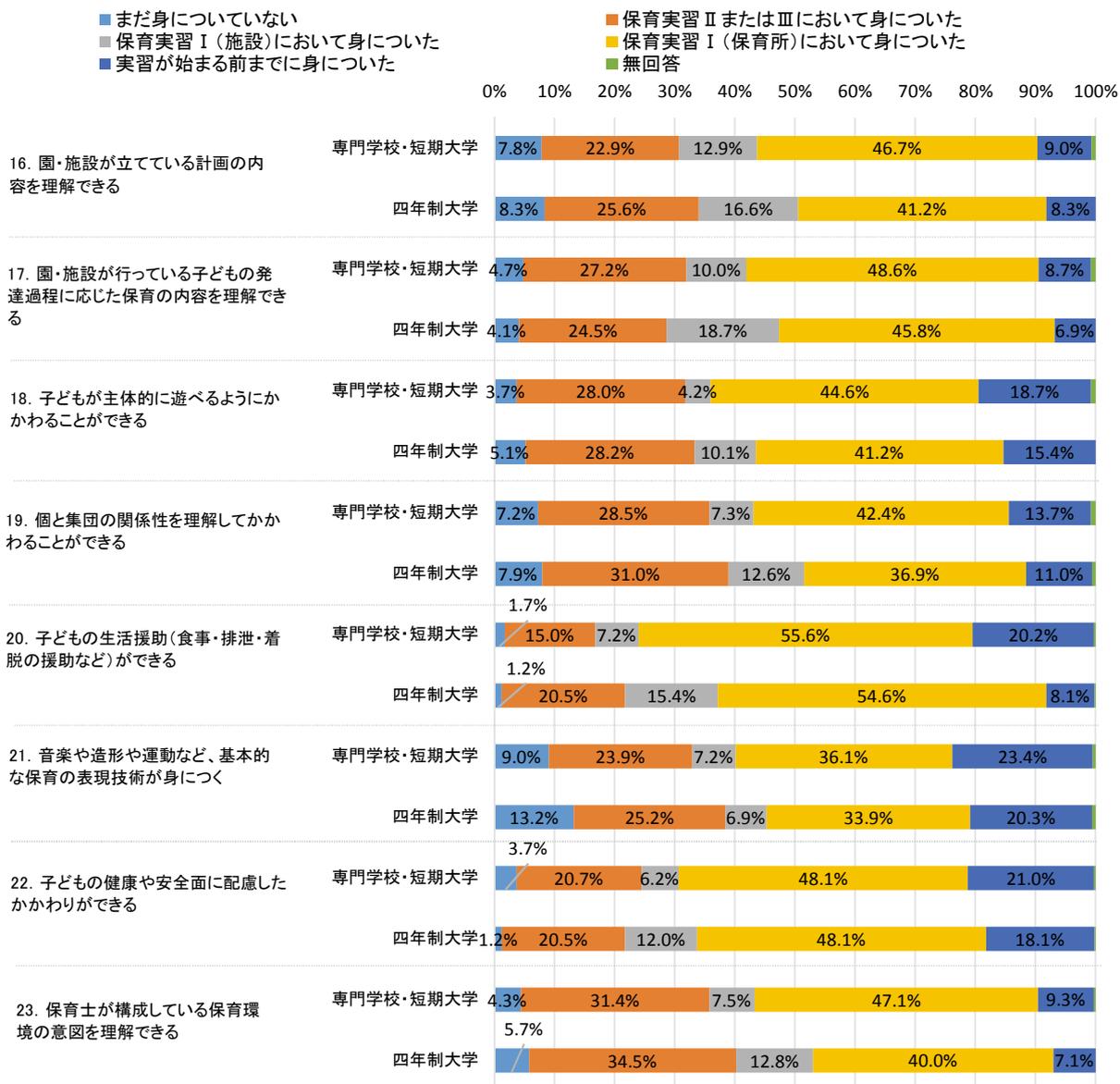
これらの項目においても実習態度と同じく、すべての項目において、専門学校・短期大学の学生は、四年制大学の学生に比べて「保育実習 I (保育所)において身についた」と回答した者の割合が高く、四年制大学の学生は「保育実習 I (施設)において身についた」と回答した割合が高いといった傾向が見られた。

3) 保育内容・環境に関する項目

図表 1-2-23 「保育内容・環境」に関する項目

項目		いまだ身についていない	保育実習ⅡまたはⅢにおいて身についた	保育実習Ⅰ（施設）において身についた	保育実習Ⅰ（保育所）において身についた	実習が始まる前までに身についた	無回答	
保育内容・環境	16. 園・施設が立てている計画の内容を理解できる	専門学校・短期大学	7.8%	22.9%	12.9%	46.7%	9.0%	.7%
		四年制大学	8.3%	25.6%	16.6%	41.2%	8.3%	0.0%
	17. 園・施設が行っている子どもの発達過程に応じた保育の内容を理解できる	専門学校・短期大学	4.7%	27.2%	10.0%	48.6%	8.7%	.8%
		四年制大学	4.1%	24.5%	18.7%	45.8%	6.9%	0.0%
	18. 子どもが主体的に遊べるようにかかわることができる	専門学校・短期大学	3.7%	28.0%	4.2%	44.6%	18.7%	.8%
		四年制大学	5.1%	28.2%	10.1%	41.2%	15.4%	0.0%
	19. 個と集団の関係性を理解してかかわることができる	専門学校・短期大学	7.2%	28.5%	7.3%	42.4%	13.7%	.8%
		四年制大学	7.9%	31.0%	12.6%	36.9%	11.0%	.6%
	20. 子どもの生活援助（食事・排泄・着脱の援助など）ができる	専門学校・短期大学	1.7%	15.0%	7.2%	55.6%	20.2%	.3%
		四年制大学	1.2%	20.5%	15.4%	54.6%	8.1%	.2%
	21. 音楽や造形や運動など、基本的な保育の表現技術が身につく	専門学校・短期大学	9.0%	23.9%	7.2%	36.1%	23.4%	.5%
		四年制大学	13.2%	25.2%	6.9%	33.9%	20.3%	.6%
	22. 子どもの健康や安全面に配慮したかわりができる	専門学校・短期大学	3.7%	20.7%	6.2%	48.1%	21.0%	.3%
		四年制大学	1.2%	20.5%	12.0%	48.1%	18.1%	.2%
	23. 保育士が構成している保育環境の意図を理解できる	専門学校・短期大学	4.3%	31.4%	7.5%	47.1%	9.3%	.3%
		四年制大学	5.7%	34.5%	12.8%	40.0%	7.1%	0.0%

(専門学校・短期大学 n=599、四年制大学 n=493)



(専門学校・短期大学 n=599、四年制大学 n=493)

図表 1-2-24 「保育内容・環境」に関する項目

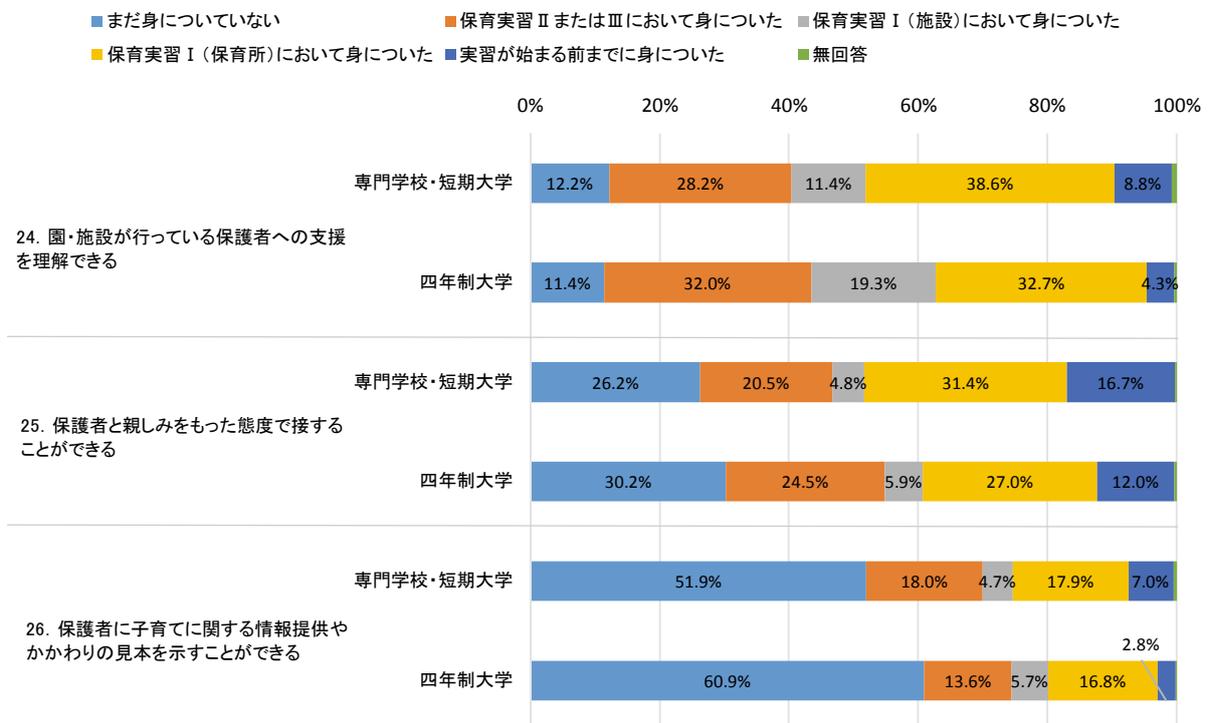
「実習態度」「園・施設の役割・子どもの理解」と同様に、専門学校・短期大学の学生は、四年制大学の学生に比べて「保育実習 I (保育所)において身についた」と回答した者の割合が高かった。他方、「21. 音楽や造形や運動など、基本的な保育の表現技術が身につく」では、「まだ身についていない」と回答した四年制大学の学生が 10% を超えており、差が見られた。

4) 保護者支援に関する項目

図表 1-2-25 「保護者支援」に関する項目

項目		まだ身についていない	保育実習 II または III において身についた	保育実習 I (施設) において身についた	保育実習 I (保育所) において身についた	実習が始まる前までに身についた	無回答	
保護者支援	24. 園・施設が行っている保護者への支援を理解できる	専門学校・短期大学	12.2%	28.2%	11.4%	38.6%	8.8%	.8%
		四年制大学	11.4%	32.0%	19.3%	32.7%	4.3%	.4%
	25. 保護者と親しみをもった態度で接することができる	専門学校・短期大学	26.2%	20.5%	4.8%	31.4%	16.7%	.3%
		四年制大学	30.2%	24.5%	5.9%	27.0%	12.0%	.4%
	26. 保護者に子育てに関する情報提供やかかわりの見本を示すことができる	専門学校・短期大学	51.9%	18.0%	4.7%	17.9%	7.0%	.5%
		四年制大学	60.9%	13.6%	5.7%	16.8%	2.8%	.2%

(専門学校・短期大学 n=599、四年制大学 n=493)



(専門学校・短期大学 n=599、四年制大学 n=493)

図表 1-2-26 「保護者支援」に関する項目

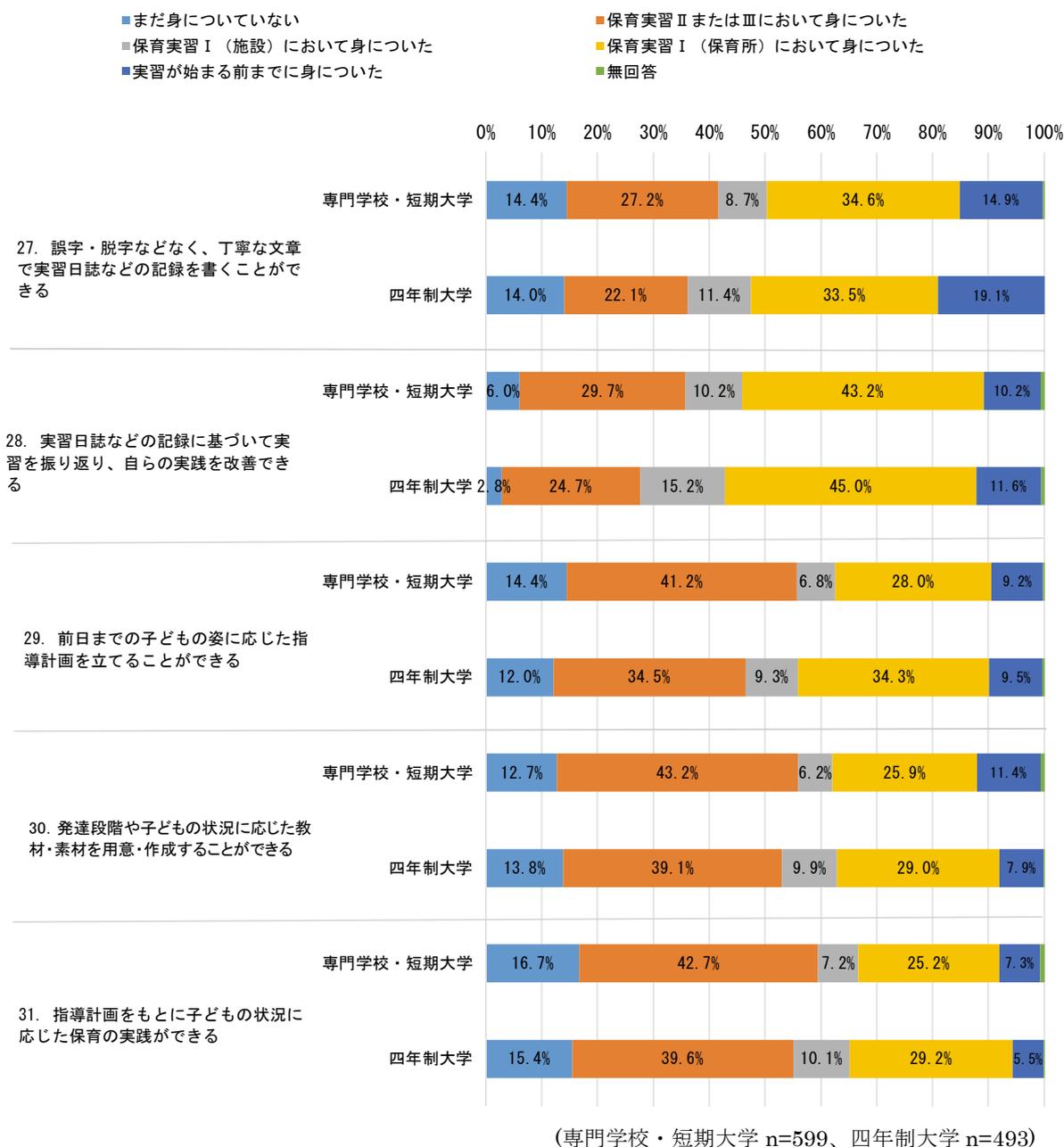
これらの項目では、専門学校・短期大学の学生と四年制大学の学生との間で、回答傾向に類似性が見られた。ただし、「26. 保護者に子育てに関する情報提供やかかわりの見本を示すことができる」といった保護者へ情報提供や行動見本を示すといった項目では、四年制大学の方が「まだ身につけていない」と回答した学生が多かった。このことは、四年制大学の学生がより長い期間学ぶ中で、保護者支援の課題や多様性を認識し、認知の深化や拡大が生じたためとも考えられる。

5) 保育の計画・記録に関する項目

図表 1-2-27 「保育の計画・記録」に関する項目

項目		まだ身につけていない	Ⅲ保育実習ⅡまたはⅣ保育実習Ⅲにおいて身につけた	保育実習Ⅰ（施設）において身につけた	保育実習Ⅰ（保育所）において身につけた	実習が始まる前までに身につけた	無回答	
保育の計画・記録	27. 誤字・脱字などなく、丁寧な文章で実習日誌などの記録を書くことができる	専門学校・短期大学	14.4%	27.2%	8.7%	34.6%	14.9%	.3%
		四年制大学	14.0%	22.1%	11.4%	33.5%	19.1%	0.0%
	28. 実習日誌などの記録に基づいて実習を振り返り、自らの実践を改善できる	専門学校・短期大学	6.0%	29.7%	10.2%	43.2%	10.2%	.7%
		四年制大学	2.8%	24.7%	15.2%	45.0%	11.6%	.6%
	29. 前日までの子どもの姿に応じた指導計画を立てることができる	専門学校・短期大学	14.4%	41.2%	6.8%	28.0%	9.2%	.3%
		四年制大学	12.0%	34.5%	9.3%	34.3%	9.5%	.4%
	30. 発達段階や子どもの状況に応じた教材・素材を用意・作成することができる	専門学校・短期大学	12.7%	43.2%	6.2%	25.9%	11.4%	.7%
		四年制大学	13.8%	39.1%	9.9%	29.0%	7.9%	.2%
	31. 指導計画をもとに子どもの状況に応じた保育の実践ができる	専門学校・短期大学	16.7%	42.7%	7.2%	25.2%	7.3%	.8%
		四年制大学	15.4%	39.6%	10.1%	29.2%	5.5%	.2%

(専門学校・短期大学 n=599、四年制大学 n=493)



図表 1-2-28 「保育の計画・記録」に関する項目

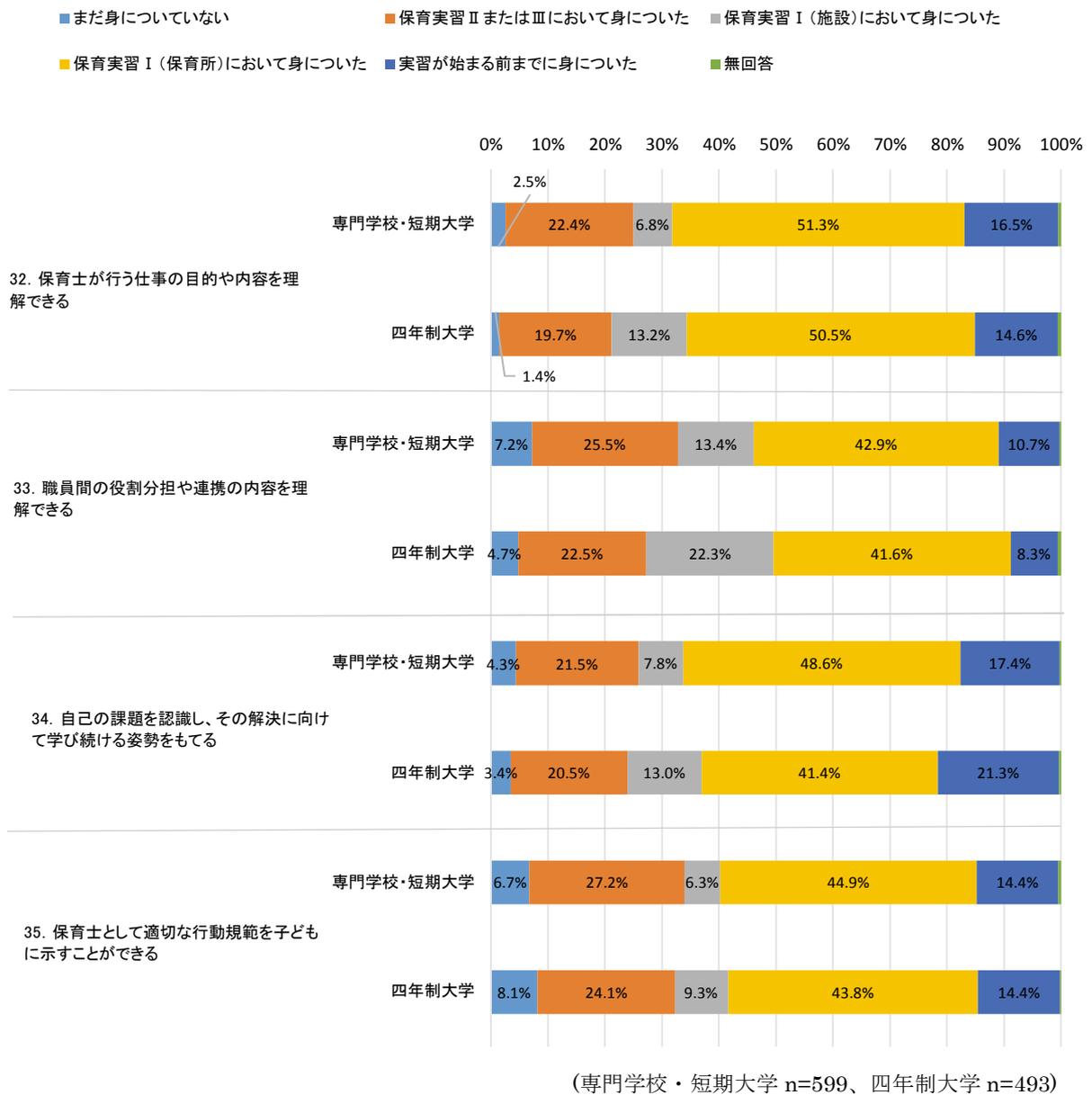
これまでの傾向と異なり、四年制大学の学生が「保育実習 I（保育所）において身についた」と回答した者の割合が高かった。他方、すべての項目で、専門学校・短期大学の学生が「保育実習 II または III において身についた」の値が高かった。すなわち、四年制大学の学生の方が保育実習 I の時点でより部分実習や責任実習といった指導計画に立案・実践を経験していることが示唆される。

6) 保育士役割に関する項目

図表 1-2-29 「保育士役割」に関する項目

項目		まだ身についていない	Ⅲ 保育実習ⅡまたはⅢにおいて身についた	保育実習Ⅰ（施設）において身についた	保育実習Ⅰ（保育所）において身についた	実習が始まる前までに身についた	無回答	
保育士役割	32. 保育士が行う仕事の目的や内容を理解できる	専門学校・短期大学	2.5%	22.4%	6.8%	51.3%	16.5%	.5%
		四年制大学	1.4%	19.7%	13.2%	50.5%	14.6%	.6%
	33. 職員間の役割分担や連携の内容を理解できる	専門学校・短期大学	7.2%	25.5%	13.4%	42.9%	10.7%	.3%
		四年制大学	4.7%	22.5%	22.3%	41.6%	8.3%	.6%
	34. 自己の課題を認識し、その解決に向けて学び続ける姿勢をもてる	専門学校・短期大学	4.3%	21.5%	7.8%	48.6%	17.4%	.3%
		四年制大学	3.4%	20.5%	13.0%	41.4%	21.3%	.4%
	35. 保育士として適切な行動規範を子どもに示すことができる	専門学校・短期大学	6.7%	27.2%	6.3%	44.9%	14.4%	.5%
		四年制大学	8.1%	24.1%	9.3%	43.8%	14.4%	.2%

(専門学校・短期大学 n=599、四年制大学 n=493)



図表 1-2-30 「保育士役割」に関する項目

四年制大学の学生が「保育実習Ⅰ（施設）において身についた」と回答した者の割合が高いことが特徴的であった。他方、専門学校・短期大学の学生はすべての項目で「保育実習Ⅰ（保育所）において身についた」「保育実習ⅡまたはⅢにおいて身についた」の値が高かった。四年制大学の学生にとって、保育実習Ⅰ（施設）が保育士としての役割や規範を身につける実習として意味をもつことが示唆された。

3. 保育実習の事前事後指導について

(1) 全体的な傾向

保育実習の事前事後指導において、学生がどのくらい内容を理解したのかを実習ごとに4段階評定で回答を求めた。保育実習Ⅰ（保育所）と保育実習Ⅰ（施設）は12項目、保育実習ⅡまたはⅢは13項目であり、厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知の「指定保育士養成施設の指定及び運営基準について」定められている事前事後指導の内容を主に参考とした。

保育実習Ⅰ（保育所）の事前指導においては「プライバシーの保護と守秘義務」、「実習生としての心構え」についての理解ができたと捉えている様子がみられた。理解が難しかった項目は、事前指導では実習の「自己課題の立て方」、「実習日誌の書き方」、事後指導では「自己課題の整理や明確化」することであった。

図表 1-2-31 保育実習Ⅰ（保育所）における実習前後の授業について

	項目内容	平均値	標準偏差
1	q3_1_1 実習の目的について理解できた	3.53	.58
2	q3_1_2 実習の概要（保育所の概要）について理解できた	3.39	.60
3	q3_1_3 実習の内容・方法について理解できた	3.49	.60
4	q3_1_4 実習の自己課題の立て方について理解できた	<u>3.29</u>	.66
5	q3_1_5 子どもの人権と最善の利益を考慮する意味について理解できた	3.50	.66
6	q3_1_6 プライバシーの保護と守秘義務について理解できた	3.79	.45
7	q3_1_7 実習生としての心構えについて理解できた	3.74	.51
8	q3_1_8 子どもや保育士の観察のポイントについて理解できた	3.37	.66
9	q3_1_9 実習日誌の書き方について理解できた	<u>3.32</u>	.75
10	q3_1_10 実習目標と照らし合わせた振り返り・反省ができた	3.37	.68
11	q3_1_11 園の評価と自己評価からの振り返り・反省ができた	3.38	.67
12	q3_1_12 自己課題の整理や明確化することができた	<u>3.29</u>	.67

保育実習Ⅰ（施設）の事前指導においては、「プライバシーの保護と守秘義務」、「実習生としての心構え」、「子どもの人権と最善の利益を考慮する意味」についての理解ができたと捉えている様子がみられた。理解が難しかったと捉えられている項目は、事前指導の「実習の自己課題の立て方」、「実習日誌の書き方」、事後指導の「自己課題の整理や明確化」であった。

図表 1-2-32 保育実習Ⅰ（施設）における実習前後の授業について

	項目内容	平均値	標準偏差
1	q4_1_1 実習の目的について理解できた	3.45	.63
2	q4_1_2 実習の概要（施設の概要）について理解できた	3.44	.60
3	q4_1_3 実習の内容・方法について理解できた	3.44	.63
4	q4_1_4 実習の自己課題の立て方について理解できた	<u>3.25</u>	.71

5	q4_1_5 子どもの人権と最善の利益を考慮する意味について理解できた	3.58	.64
6	q4_1_6 プライバシーの保護と守秘義務について理解できた	3.79	.43
7	q4_1_7 実習生としての心構えについて理解できた	3.67	.53
8	q4_1_8 子どもや保育士の観察のポイントについて理解できた	3.34	.72
9	q4_1_9 実習日誌の書き方について理解できた	<u>3.30</u>	.77
10	q4_1_10 実習目標と照らし合わせた振り返り・反省ができた	3.37	.67
11	q4_1_11 施設の評価と自己評価からの振り返り・反省ができた	3.41	.65
12	q4_1_12 自己課題の整理や明確化することができた	<u>3.32</u>	.68

保育実習ⅡまたはⅢでは、事前指導においては「子どもや利用者の最善の利益を考慮した具体的な保育」、「子どもや利用者の状態に応じた適切なかかわり」について理解できたと捉えており、事後指導では「実習園/施設の評価と自己評価からの振り返り・反省」することができたと捉えていた。理解の難しかった項目は、事前指導の「実習以外の教科の内容を実習に結びつけて保育・支援を考えること」、「保育士の職業倫理」、「保育・支援の全体計画に基づく具体的な計画と実践」についてであった。

図表 1-2-33 保育実習ⅡまたはⅢにおける実習前後の授業について

	項目内容	平均値	標準偏差
1	q5_1_1 子どもや利用者の最善の利益を考慮した具体的な保育について理解できた	3.53	.55
2	q5_1_2 子どもの保育・利用者の援助と保護者（家庭）支援の関係について理解できた	3.42	.63
3	q5_1_3 子どもや利用者の状態に応じた適切なかかわりについて理解できた	3.54	.56
4	q5_1_4 保育の表現技術を活かした保育実践について理解できた	3.38	.65
5	q5_1_5 実習以外の教科の内容を実習に結びつけて保育・支援を考えることができるようになった	<u>3.32</u>	.70
6	q5_1_6 保育・支援の全体計画に基づく具体的な計画と実践について理解できた	<u>3.34</u>	.64
7	q5_1_7 保育・支援の計画の立て方について（指導案作成について）理解できた	3.36	.70
8	q5_1_8 観察、記録、自己評価に基づく保育・支援の改善について理解できた	3.42	.61
9	q5_1_9 保育士の専門性について理解できた	3.49	.61
10	q5_1_10 保育士の職業倫理について理解できた	<u>3.32</u>	.68
11	q5_1_11 自己の実習目標と照らし合わせた振り返り・反省ができた	3.50	.62
12	q5_1_12 実習園/施設の評価と自己評価からの振り返り・反省ができた	3.51	.61
13	q5_1_13 自己課題の整理・明確化することができた	3.47	.62

(2) 学校種別による保育実習の事前事後指導について

次に学校種別で事前事後指導の内容の理解に違いがあるかを比較した。保育実習 I（保育所）においては、「実習の概要（保育所の概要）」について四年制大学の学生のほうが理解できたという認識を専門学校・短期大学の学生よりも持っていたが、他は違いがなかった。

図表 1-2-34 学校種別による保育実習 I（保育所）における実習前後の授業について

	項目	学校種別	平均値	標準偏差	t 値	有意確率	有意水準
q3_1_1	実習の目的について理解できた	専門学校・短期大学	3.51	0.60	-1.216	0.224	n.s.
		四年制大学	3.55	0.54			
q3_1_2	実習の概要（保育所の概要）について理解できた	専門学校・短期大学	3.35	0.62	-2.764	0.006	**
		四年制大学	3.45	0.58			
q3_1_3	実習の内容・方法について理解できた	専門学校・短期大学	3.47	0.61	-0.817	0.414	n.s.
		四年制大学	3.50	0.59			
q3_1_4	実習の自己課題の立て方について理解できた	専門学校・短期大学	3.26	0.66	-1.259	0.208	n.s.
		四年制大学	3.31	0.66			
q3_1_5	子どもの人権と最善の利益を考慮する意味について理解できた	専門学校・短期大学	3.48	0.66	-0.816	0.415	n.s.
		四年制大学	3.52	0.66			
q3_1_6	プライバシーの保護と守秘義務について理解できた	専門学校・短期大学	3.79	0.46	-0.486	0.627	n.s.
		四年制大学	3.80	0.43			
q3_1_7	実習生としての心構えについて理解できた	専門学校・短期大学	3.72	0.54	-1.441	0.150	n.s.
		四年制大学	3.77	0.47			
q3_1_8	子どもや保育士の観察のポイントについて理解できた	専門学校・短期大学	3.39	0.65	1.064	0.287	n.s.
		四年制大学	3.34	0.67			

q3_1_9	実習日誌の書き方について理解できた	専門学校・短期大学	3.36	0.74	1.783	0.075	n.s.
		四年制大学	3.28	0.76			
q3_1_10	実習目標と照らし合わせた振り返り・反省ができた	専門学校・短期大学	3.38	0.67	0.649	0.516	n.s.
		四年制大学	3.35	0.69			
q3_1_11	園の評価と自己評価からの振り返り・反省ができた	専門学校・短期大学	3.37	0.67	-0.511	0.609	n.s.
		四年制大学	3.39	0.68			
q3_1_12	自己課題の整理や明確化することができた	専門学校・短期大学	3.27	0.67	-1.186	0.236	n.s.
		四年制大学	3.32	0.65			

** $p < .01$

保育実習 I（施設）では、「実習の目的」、「子どもの人権と最善の利益を考慮する意味」についての理解が四年制大学の学生のほうが、専門・短期大学の学生よりもできたと捉えていた。

図表 1-2-35 学校種別による保育実習 I（施設）における実習前後の授業について

項目		学校種別	平均値	標準偏差	t 値	有意確率	有意水準
q4_1_1	実習の目的について理解できた	専門学校・短期大学	3.41	0.65	-2.065	0.039	*
		四年制大学	3.49	0.59			
q4_1_2	実習の概要（施設の概要）について理解できた	専門学校・短期大学	3.41	0.62	-1.782	0.075	n.s.
		四年制大学	3.47	0.58			
q4_1_3	実習の内容・方法について理解できた	専門学校・短期大学	3.44	0.63	0.632	0.527	n.s.
		四年制大学	3.42	0.63			
q4_1_4	実習の自己課題の立て方について理解できた	専門学校・短期大学	3.21	0.72	-1.901	0.058	n.s.
		四年制大学	3.29	0.68			

q4_1_5	子どもの人権と最善の利益を考慮する意味について理解できた	専門学校・短期大学	3.52	0.69	-3.801	0.000	***
		四年制大学	3.67	0.56			
q4_1_6	プライバシーの保護と守秘義務について理解できた	専門学校・短期大学	3.78	0.45	-0.862	0.389	n.s
		四年制大学	3.81	0.41			
q4_1_7	実習生としての心構えについて理解できた	専門学校・短期大学	3.66	0.55	-1.368	0.172	n.s
		四年制大学	3.70	0.50			
q4_1_8	子どもや保育士の観察のポイントについて理解できた	専門学校・短期大学	3.32	0.75	-0.803	0.422	n.s
		四年制大学	3.36	0.69			
q4_1_9	実習日誌の書き方について理解できた	専門学校・短期大学	3.33	0.78	1.276	0.202	n.s
		四年制大学	3.27	0.76			
q4_1_10	実習目標と照らし合わせた振り返り・反省ができた	専門学校・短期大学	3.36	0.68	-0.193	0.847	n.s
		四年制大学	3.37	0.65			
q4_1_11	施設の評価と自己評価からの振り返り・反省ができた	専門学校・短期大学	3.42	0.65	0.934	0.351	n.s
		四年制大学	3.39	0.63			
q4_1_12	自己課題の整理や明確化することができた	専門学校・短期大学	3.32	0.69	-0.218	0.827	n.s
		四年制大学	3.32	0.67			

*** $p<.001$,* $p<.05$

保育実習ⅡまたはⅢにおいては、「子どもや利用者の最善の利益を考慮した具体的な保育について」のみ四年制大学と専門学校・短期大学の間で差がみられた。四年制大学の学生は、専門・短期大学生より理解できたと捉えていた。

図表 1-2-36 学校種別による保育実習ⅡまたはⅢにおける実習前後の授業について

項目	学校種別	平均値	標準偏差	t 値	有意確率	有意水準	
q5_1_1	子どもや利用者の最善の利益を考慮した具体的な保育について理解できた	専門学校・短期大学	3.50	0.54	-2.113	0.035	*
	四年制大学	3.57	0.56				
q5_1_2	子どもの保育・利用者の援助と保護者(家庭)支援の関係について理解できた	専門学校・短期大学	3.39	0.64	-1.219	0.223	n.s.
	四年制大学	3.43	0.61				
q5_1_3	子どもや利用者の状態に応じた適切なかわりについて理解できた	専門学校・短期大学	3.53	0.56	-0.756	0.450	n.s.
	四年制大学	3.56	0.55				
q5_1_4	保育の表現技術を活かした保育実践について理解できた	専門学校・短期大学	3.39	0.64	0.521	0.603	n.s.
	四年制大学	3.37	0.66				
q5_1_5	実習以外の教科の内容を実習に結びつけて保育・支援を考えることができた	専門学校・短期大学	3.34	0.67	1.408	0.160	n.s.
	四年制大学	3.28	0.71				
q5_1_6	保育・支援の全体計画に基づく具体的な計画と実践について理解できた	専門学校・短期大学	3.34	0.64	0.425	0.671	n.s.
	四年制大学	3.32	0.63				
q5_1_7	保育・支援の計画の立て方について(指導案作成について)理解できた	専門学校・短期大学	3.37	0.69	0.586	0.558	n.s.
	四年制大学	3.34	0.71				
q5_1_8	観察、記録、自己評価に基づく保育・支援の改善について理解できた	専門学校・短期大学	3.40	0.61	-0.552	0.581	n.s.
	四年制大学	3.42	0.61				
q5_1_9	保育士の専門性について理解できた	専門学校・短期大学	3.49	0.61	0.009	0.992	n.s.
	四年制大学	3.49	0.60				

q5_1_10	保育士の職業倫理について理解できた	専門学校・短期大学	3.29	0.67	-1.192	0.234	n.s.
		四年制大学	3.34	0.67			
q5_1_11	自己の実習目標と照らし合わせた振り返り・反省ができた	専門学校・短期大学	3.47	0.61	-1.395	0.163	n.s.
		四年制大学	3.52	0.61			
q5_1_12	実習園/施設の評価と自己評価からの振り返り・反省ができた	専門学校・短期大学	3.51	0.60	-0.591	0.555	n.s.
		四年制大学	3.53	0.62			
q5_1_13	自己課題の整理・明確化することができた	専門学校・短期大学	3.44	0.62	-1.071	0.285	n.s.
		四年制大学	3.48	0.62			

* $p<.05$

4. 実習日誌について

(1) 実習日誌の満足度・負担感・意識変容

1) 保育実習 I (保育所)

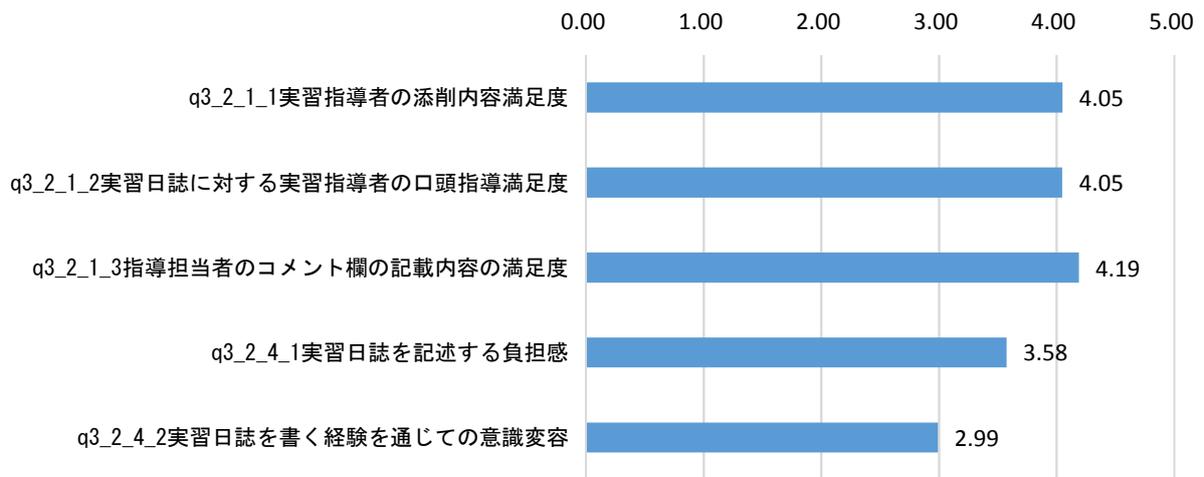
図表 1-2-37 【保育実習 I 保育所】 実習日誌の満足度・負担感・意識変容 (平均値)

質問番号	質問項目	平均値	標準偏差
q3_2_1_1	実習指導者の添削内容は満足のもの了吗	4.05	0.76
q3_2_1_2	実習日誌の記述に対して実習指導者の口頭における指導内容は満足のもの了吗	4.05	0.81
q3_2_1_3	指導担当者のコメント欄の記載内容は、満足のもの了吗	4.19	0.70
q3_2_4_1	実習日誌を書くことに対して負担に思いましたか	3.58	0.62
q3_2_4_2	実習日誌を書く経験を通じて意識が変わったり、学びが深まったりしましたか	2.99	0.70

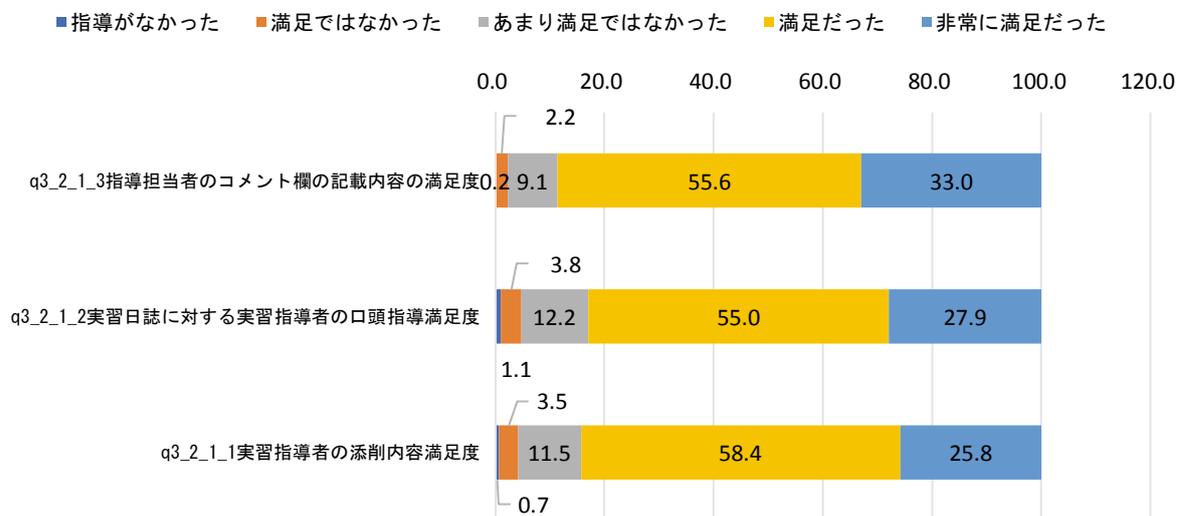
n=1092

q3_2_1_1~3 : 最小値 1.00, 最大値 5.00

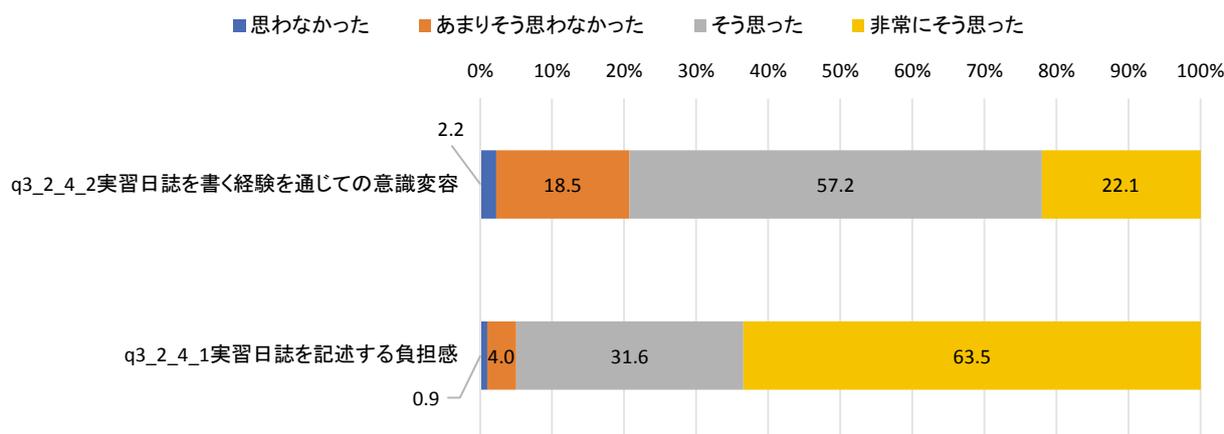
q3_2_4_1~2 : 最小値 1.00, 最大値 4.00



図表 1-2-38 【保育実習 I 保育所】 実習日誌の満足度・負担感・意識変容



図表 1-2-39 【保育実習 I 保育所】 実習日誌の満足度（比率）



図表 1-2-40 【保育実習 I（保育所）】 実習日誌 負担感・意識変容（比率）

保育実習 I（保育所）において実習日誌の満足度の平均点は、すべての項目において中央値よりも高い数値であった。同様に比率においても、すべての項目において 8 割以上が満足感を持っている結果であった。特に「指導担当者のコメント欄の記載内容の満足度」が高い傾向にあった。

実習日誌の負担感や意識変容の平均点は中央値よりも高い数値であった。実習日誌の負担感の比率は 9 割以上が負担感を感じている非常に高い割合であった。意識変容の比率は 8 割弱が感じている結果であった。

2) 保育実習 I（施設）

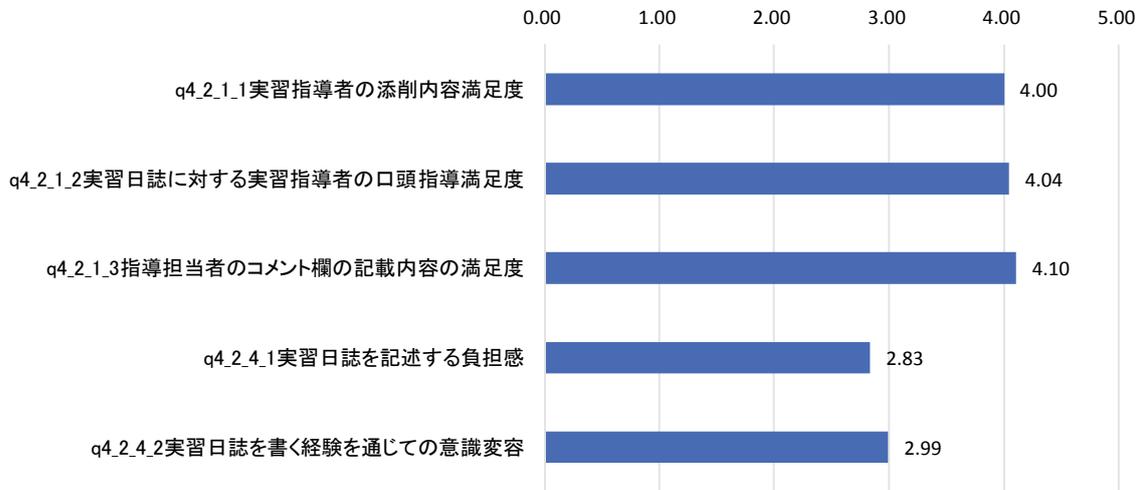
図表 1-2-41 【保育実習 I 施設】 実習日誌の満足度・負担感・意識変容（平均値）

質問番号	質問項目	平均値	標準偏差
q4_2_1_1	実習指導者の添削内容は満足のものでしたか	4.00	0.88
q4_2_1_2	実習日誌の記述に対して実習指導者の口頭における指導内容は満足のものでしたか	4.04	0.95
q4_2_1_3	指導担当者のコメント欄の記載内容は、満足のものでしたか	4.10	0.82
q4_2_4_1	実習日誌を書くことに対して負担に思いましたか	2.83	0.93
q4_2_4_2	実習日誌を書く経験を通じて意識が変わったり、学びが深まったりしましたか	2.99	0.73

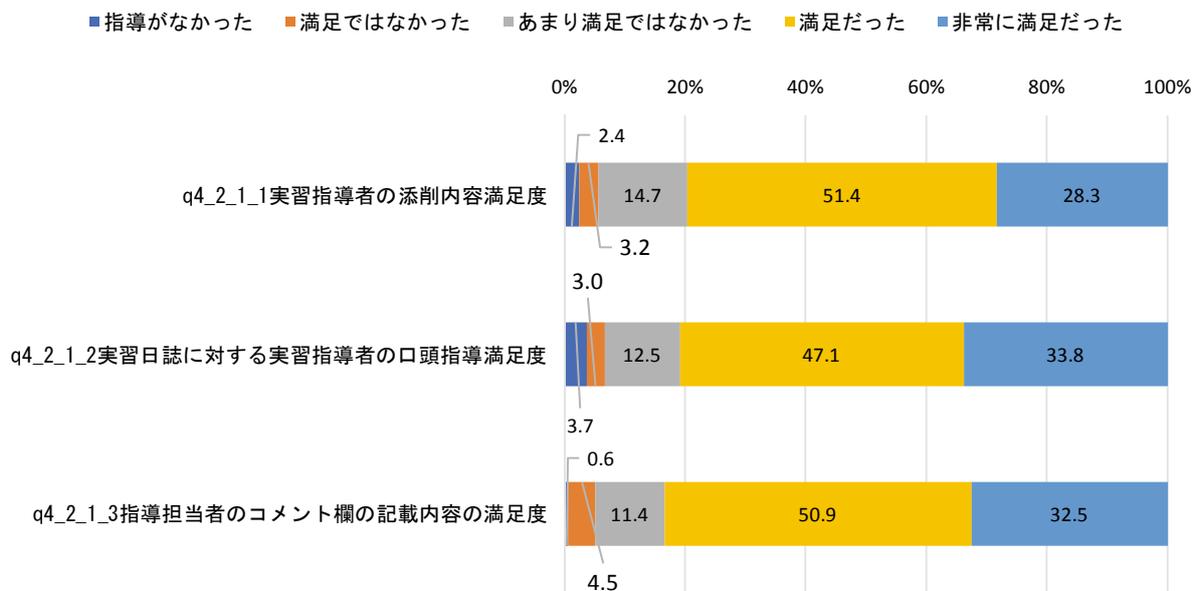
q3_2_1_1~3 : 最小値 1.00, 最大値 5.00

n=1092

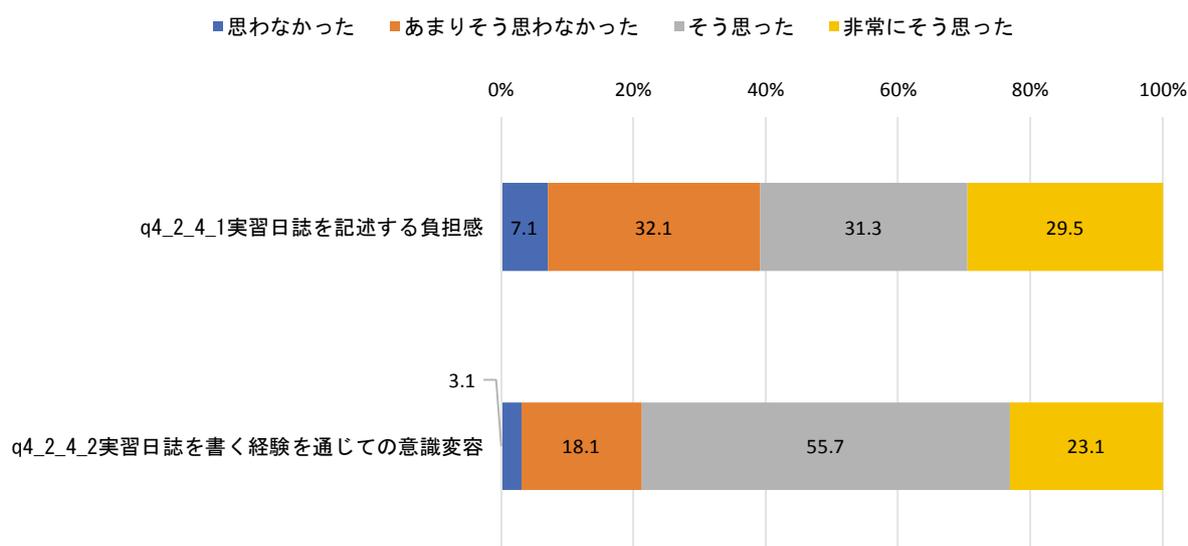
q3_2_4_1~2 : 最小値 1.00, 最大値 4.00



図表 1-2-42 【保育実習 I 施設】 実習日誌の満足度・負担感・意識変容



図表 1-2-43 【保育実習 I 施設】 実習日誌の満足度（比率）



図表 1-2-44 【保育実習Ⅰ施設】 実習日誌の負担感・意識変容（比率）

保育実習Ⅰ（施設）において実習日誌の満足度の平均点は、すべての項目において中央値よりも高い数値であった。同様に比率においても、すべての項目において約8割以上が満足感を持っている結果であった。

実習日誌の負担感や意識変容の平均点は中央値よりも高い数値であった。実習日誌の負担感の比率は6割が負担感を感じている結果であったが、保育実習Ⅰ（保育所）の9割と比べると非常に低い負担感の傾向であった。意識変容の比率は8割弱が感じている結果であった。

3) 保育実習Ⅱ

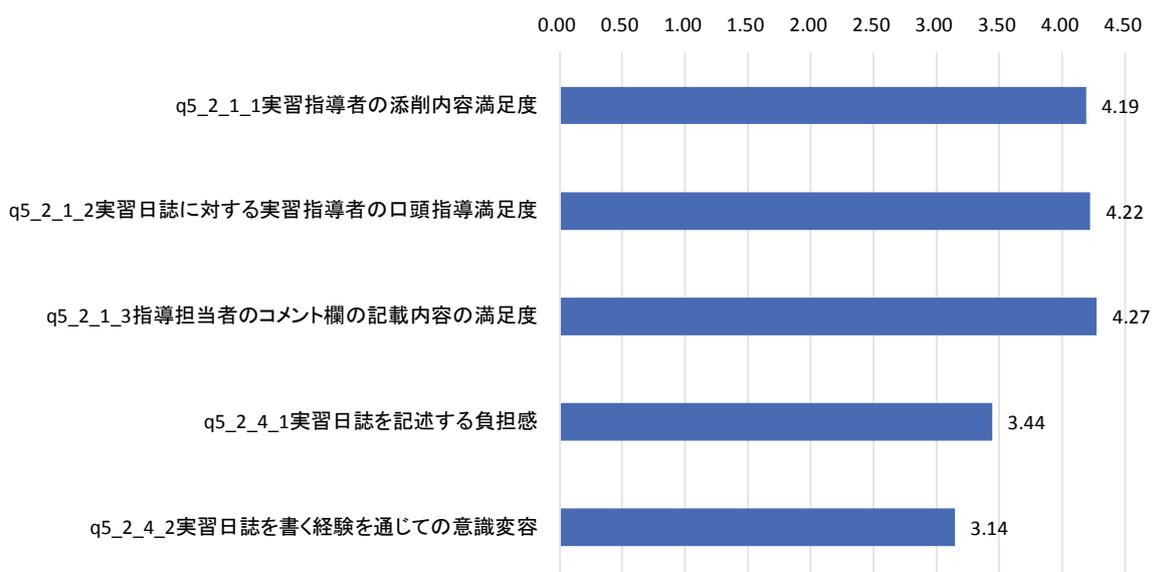
図表 1-2-45 【保育実習Ⅱ】 実習日誌の満足度・負担感・意識変容（平均値）

質問番号	質問項目	平均値	標準偏差
q5_2_1_1	実習指導者の添削内容は満足のいくものでしたか	4.19	0.76
q5_2_1_2	実習日誌の記述に対して実習指導者の口頭における指導内容は満足のいくものでしたか	4.22	0.81
q5_2_1_3	指導担当者のコメント欄の記載内容は、満足のいくものでしたか	4.27	0.73
q5_2_4_1	実習日誌を書くことに対して負担に思いましたか	3.44	0.70
q5_2_4_2	実習日誌を書く経験を通じて意識が変わったり、学びが深まったりしましたか	3.14	0.74

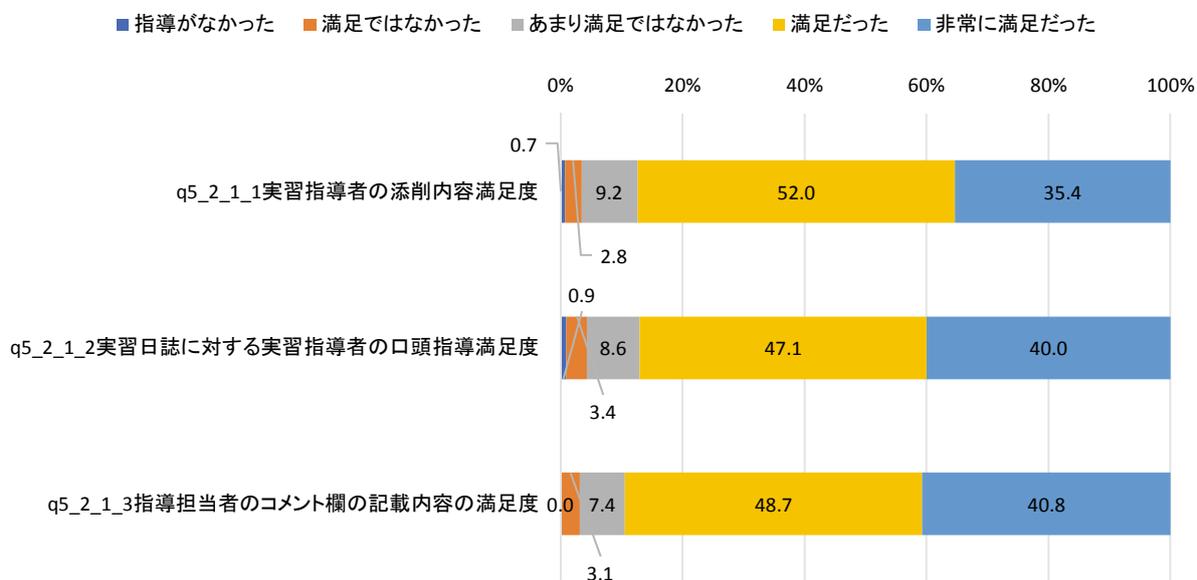
q3_2_1_1~3：最小値 1.00，最大値 5.00

n=1092

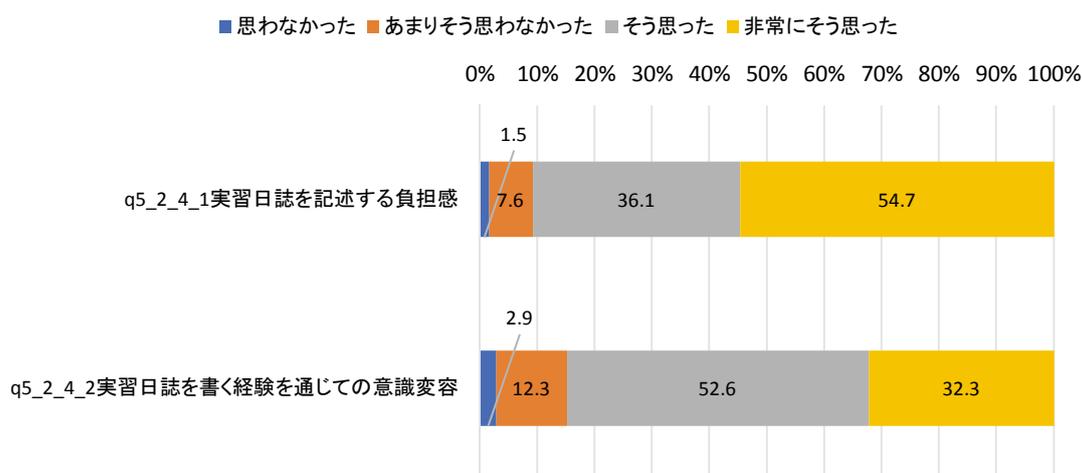
q3_2_4_1~2：最小値 1.00，最大値 4.00



図表 1-2-46 【保育実習Ⅱ】 実習日記の満足度・負担感・意識変容（平均）



図表 1-2-47 【保育実習Ⅱ】 実習日記の満足度（比率）



図表 1-2-48 【保育実習Ⅱ】 実習日誌の負担感・意識変容（比率）

保育実習Ⅱにおいて実習日誌の満足度の平均点は、すべての項目において中央値よりも高い数値であった。この結果は、保育実習Ⅰ（保育所・施設）と同様の傾向であったが、平均得点は、すべての項目において高い得点傾向を示していた。同様に比率においても、すべての項目において約8割以上が満足感を持っている結果であったが、保育実習Ⅰ（保育所・施設）と比べると更に満足感が高い傾向を示す結果であった。特に「非常に満足だった」の比率が高い結果であった。

実習日誌の負担感や意識変容の平均点は中央値よりも高い数値であった。実習日誌の負担感の比率は9割が負担感を感じている結果であり保育実習Ⅰ（保育所）の負担感と同様の傾向であった。意識変容の比率は8割以上が感じている結果であり、保育実習Ⅰ（保育所）の意識変容と比べると割合が若干増加している傾向にあった。

4) 保育実習Ⅲ

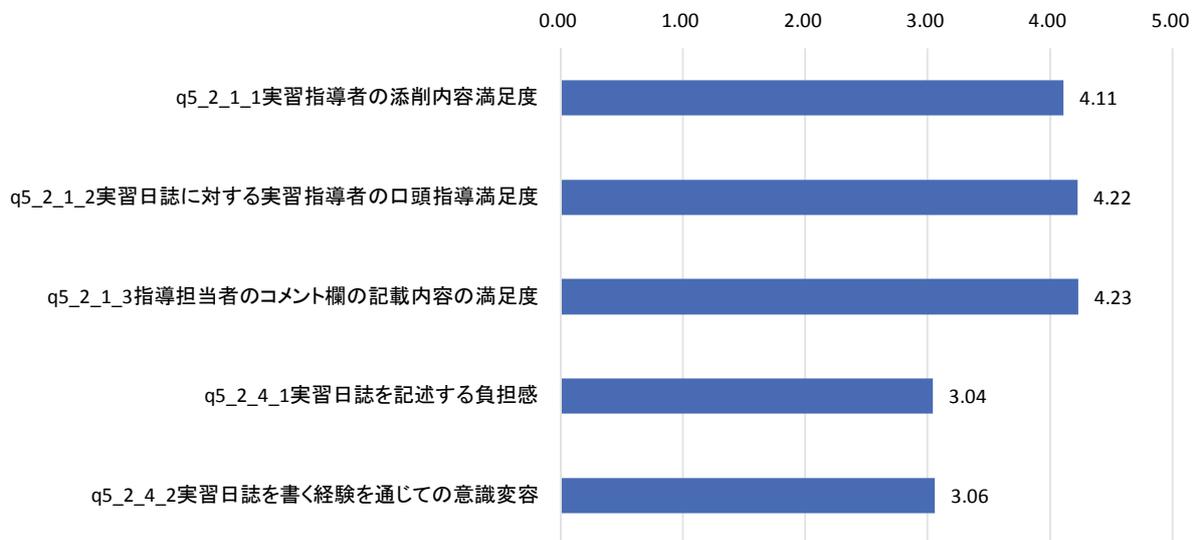
図表 1-2-49 【保育実習Ⅲ】 実習日誌の満足度・負担感・意識変容（平均値）

質問番号	質問項目	平均値	標準偏差
q5_2_1_1	実習指導者の添削内容は満足のものだったか	4.11	0.85
q5_2_1_2	実習日誌の記述に対して実習指導者の口頭における指導内容は満足のものだったか	4.22	0.78
q5_2_1_3	指導担当者のコメント欄の記載内容は、満足のものだったか	4.23	0.74
q5_2_4_1	実習日誌を書くことに対して負担に思いましたか	3.04	0.85
q5_2_4_2	実習日誌を書く経験を通じて意識が変わったり、学びが深まったりしましたか	3.06	0.73

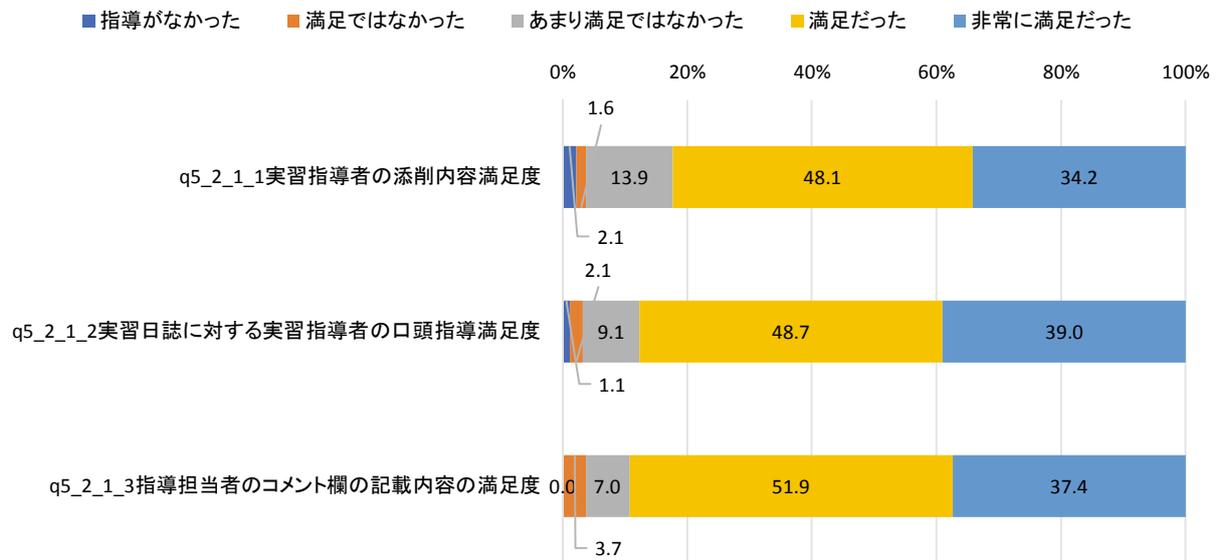
q3_2_1_1~3 : 最小値 1.00, 最大値 5.00

n=1092

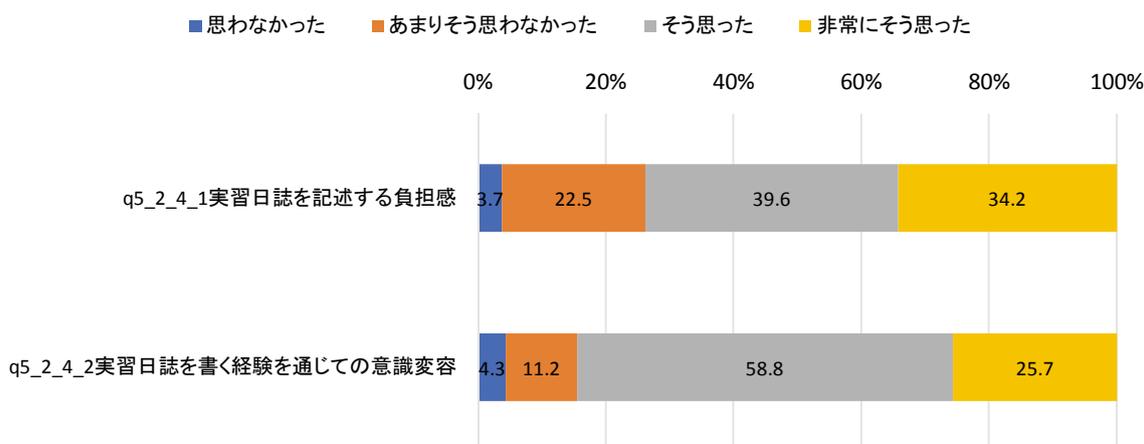
q3_2_4_1~2 : 最小値 1.00, 最大値 4.00



図表 1-2-50 【保育実習Ⅲ】 実習日誌の満足度・負担感・意識変容



図表 1-2-51 【保育実習Ⅲ】 実習日誌の満足度（比率）



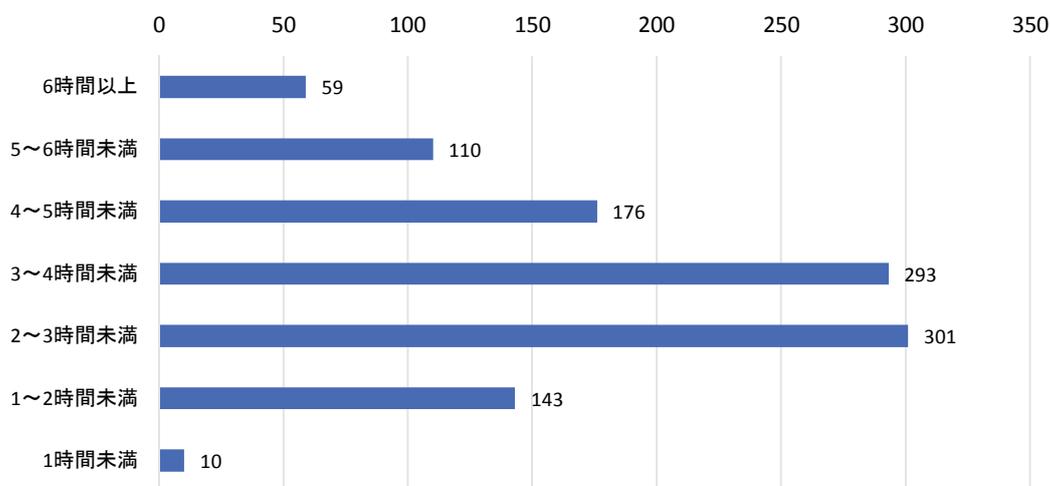
図表 1-2-52 【保育実習Ⅲ】 実習日誌の負担感・意識変容（比率）

保育実習Ⅲにおいて実習日誌の満足度の平均点は、すべての項目において中央値よりも高い数値であった。同様に比率においても、すべての項目において約8割以上が満足感を持っている結果であったが、「実習指導者の添削内容の満足度」については他の項目より若干低い満足度であった。同様にこの項目において「指導がなかった」「満足でなかった」「あまり満足ではなかった」等の不満度の比率が他の項目の比率よりも高い傾向にあった。

実習日誌の負担感や意識変容の平均点は中央値よりも高い数値であった。実習日誌の負担感の比率は7割が負担感を感じている結果であり保育実習Ⅰ（施設）の負担感の比率と比べて、若干増加している傾向にあった。意識変容の比率は8割以上が意識の変化を感じている結果であり、保育実習Ⅰ（施設）の意識変容と比べると割合が若干増加している傾向にあった。

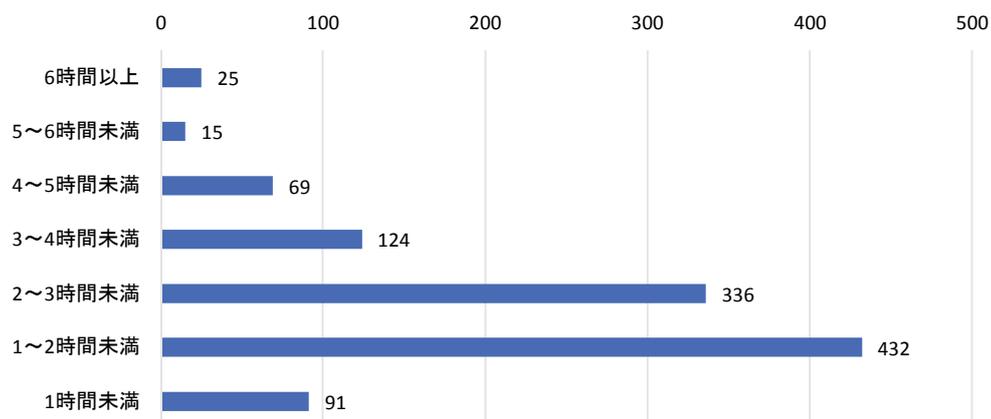
（2）実習日誌の所要時間

1）保育実習Ⅰ（保育所）



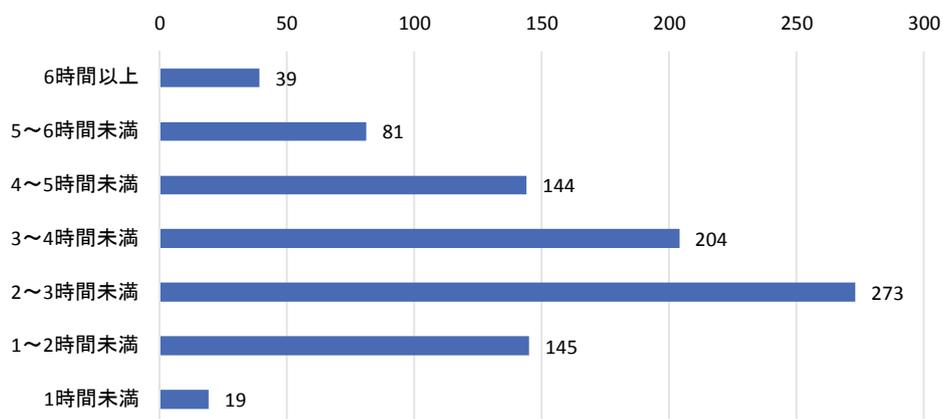
図表 1-2-53 【保育実習Ⅰ（保育所）】 実習日誌の所要時間（人数）

2) 保育実習 I (施設)



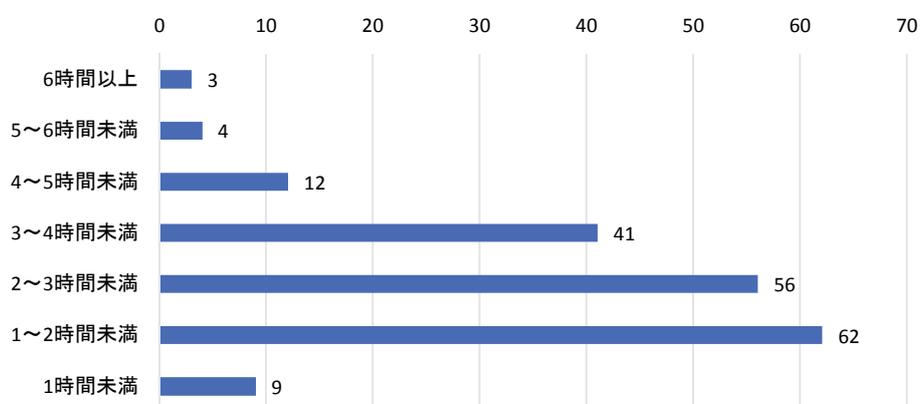
図表 1-2-54 【保育実習 I 施設】 実習日誌の所要時間 (人数)

3) 保育実習 II



図表 1-2-55 【保育実習 II】 日誌の所要時間 (人数)

4) 保育実習 III



図表 1-2-56 【保育実習 III】 実習日誌の所要時間 (人数)

実習日誌の所要時間は、保育実習Ⅰ（保育所）および保育実習Ⅱにおいて、最も人数が多かった所要時間が「2～3 時間未満」で、次いで「3～4 時間未満」と、両者ともに同様の傾向であった。また、保育実習Ⅰ（施設）および保育実習Ⅲにおいて、最も人数が多かった所要時間は「1～2 時間未満」で、次いで「2～3 時間未満」と両者とも同様の傾向であった。

このことから保育所の実習における日誌の所要時間は、施設実習における日誌の所要時間と比べると1～2 時間程度、時間を要する傾向にあることが想定された。

（3）自由記述

1) 「実習中に園と実習日誌のやり取りを行ってきた中で、気になったこと」

（保育実習Ⅰ 保育所）

「実習指導者によって日誌の指示が違った」「先生によって丁寧に対応して頂ける人と頂けない人との差がすごい」「シフト制であったため、毎回添削していただける先生が異なるため、指導内容の統一性が気になった」など、日誌を通した指導の在り方に関する記述が多かった。指導保育士が複数存在する場合、各々の保育士の指導方針が一貫しないことが学生の戸惑いにつながるということが読み取れる。

「提出した日誌がすぐに返って来なかったこと」「次の日に返ってくるのが少なかったため、次の日の保育に反省を活かすことができなかった」など、実習園と学生の間での日々の日誌の受け渡しに関する記述も少なくなかった。

2) 「実習中に園と実習日誌のやり取りを行ってきた中で、気になったこと」

（保育実習Ⅰ 施設）

「返却が遅く前日の反省に対する助言が読めないため改善が遅くなった。」「忙しいことは分かりますが、実習期間中一度も日誌が返ってきませんでした。」「実習期間中はほとんど日誌の返却はなかった。」など、日誌を通したタイムリーな指導が不十分であった点を指摘する記述が多かった。

3) 「実習中に園と実習日誌のやり取りを行ってきた中で、気になったこと」

（保育実習ⅡあるいはⅢ）

「実習日誌の返却が遅く、折れていたり、グチャグチャになっていたりする。」「実習日誌が実習後2カ月以上して返ってきた。実習中は一枚も返ってこなかった。」「初日に提出した日から一度も返却されなかった」など、実習日誌を通した指導の不十分さを指摘する記述が見られた。

4) 「実習日誌を書く経験を通じて、意識が変化したり、学びが深まったと感じた内容」

（保育実習Ⅰ 保育所）

「自分自身を振り返ることができる」「振り返ることで、その時の子どもの気持ちを再度考え、学びにつながった」「実習内容を思い返すことで、保育者がどのようなねらいを持って子どもと関わっているかを客観的に理解することができた」など、実習における学びの振り返りに有効であった、という記述が多かった。一方で、「日誌に負担がかかりすぎて、日々の実習に集中できないことがあった」「日誌に書く量が多すぎる」「記録する大切さは学んだが、内容や量が多す

ぎて、保育実習に支障が出そうな時があった」など、日誌作成に関して学生の負担が大きいことをうかがわせる記述もみられた。

5) 「実習日誌を書く経験を通じて、意識が変化したり、学びが深まったと感じた内容」（保育実習Ⅰ施設）

「実習日誌を書くことにより 1 日の出来事を整理することが出来て、振り返ることができた」「振り返りができたこと。こうやって関わっていきこう、などと考え充実した実習になった」など、振り返りに日誌が役立ったという記述のほか、「普段関わる機会が少ない障害を持った方への接し方を詳しく的確にアドバイスをもらうことができ、学びが深まった。」「子どもの行動に関して疑問に思った点を質問するタイミングがなかった時に、日誌に記載することで職員からの見解を日誌を通して知ることができた。」など、日誌が実習指導の材料として有効であることをうかがわせる記述も見られた。

6) 「実習日誌を書く経験を通じて、意識が変化したり、学びが深まったと感じた内容」（保育実習ⅡあるいはⅢ）

「指導案を作成するとき、一日の流れを確認するうえで役に立ちました。」「指導案計画につながった。」など、指導実習に実習日誌が活かされたという記述が見られた。一方で、「1 日の生活を全て文章で書くのは、無謀だと思う。実習生だけ休憩もなく、夜も寝れず、保育に集中できない。」「とても大変で忍耐力がついた。」という、実習日誌作成の負担感に関する記述が保育実習Ⅰと同様、見ることができた。

5. 実習中の訪問指導について

ここでは実習中の訪問指導について、面談形態、指導全般（時間、態度、満足度）、指導内容、訪問指導による意識の変化について尋ねている。

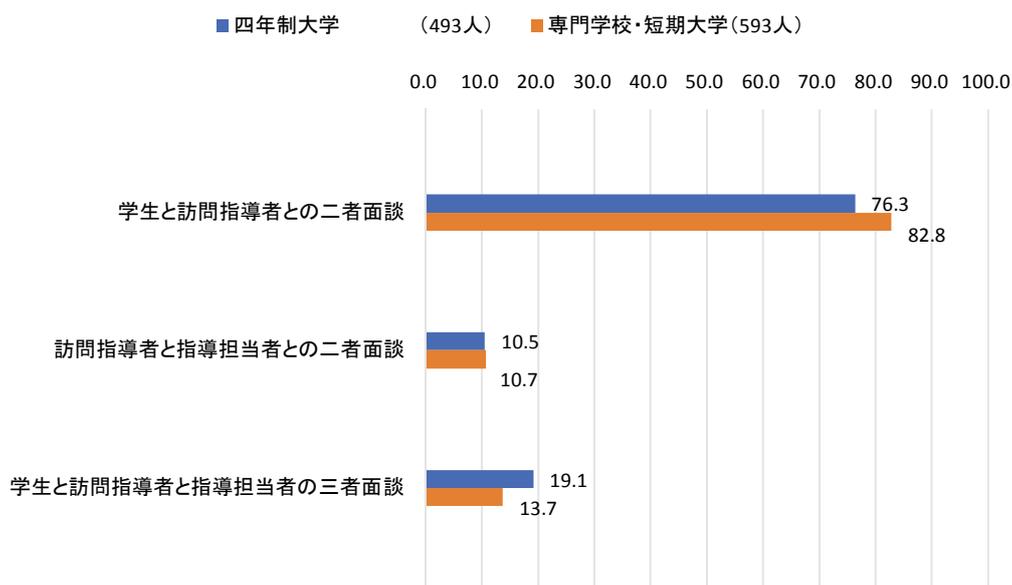
(1) 面談形態について：保育実習Ⅰ

<保育所>

図表 1-2-57 保育実習Ⅰ（保育所）訪問指導における面談形態について複数回答（%）

	項目内容	四年制大学 (493 人)	専門学校・短期大学 (593 人)	有意水準
q3_2	学生と訪問指導者との二者面談	76.3	82.8	**
	訪問指導者と指導担当者との二者面談	10.5	10.7	n.s.
	学生と訪問指導者と指導担当者の三者面談	19.1	13.7	*

* $p<.05$ ** $p<.01$



図表 1-2-58 保育実習 I（保育所）訪問指導における面談形態について複数回答（%）

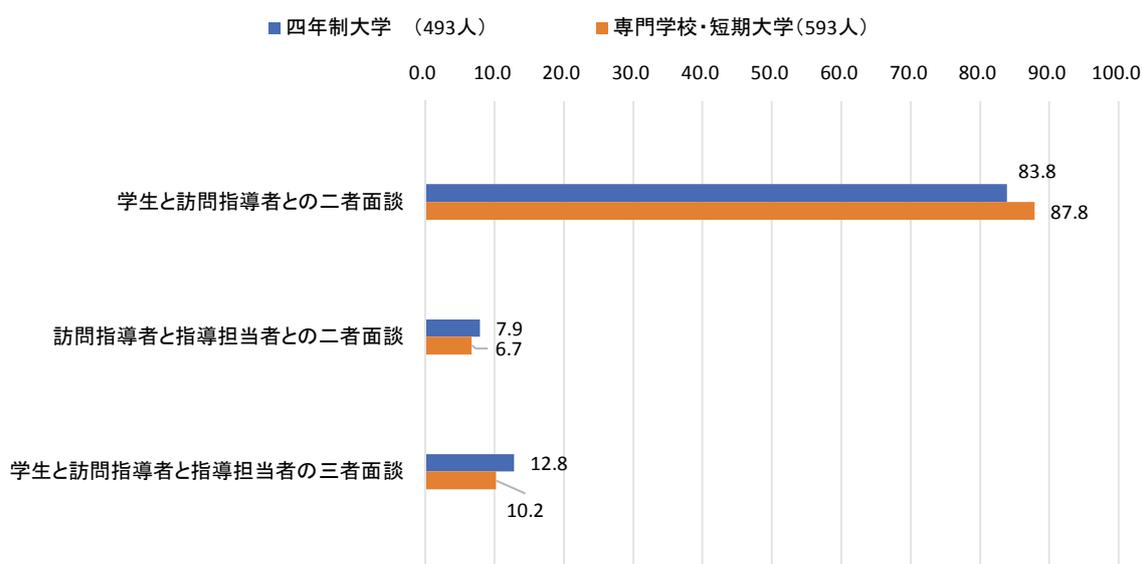
保育実習 I（保育所）における面談形態は、学生と訪問指導者との二者面談がもっとも多く、次いで学生も含む三者面談が多かった。学生と訪問指導者との二者面談ならびに学生も含む三者面談では、学校種別による有意差が認められた。訪問指導において、学生との面談をしていないケースが存在している可能性が示唆された。

<施設>

図表 1-2-59 保育実習 I（施設）訪問指導における面談形態について複数回答（%）

	項目内容	四年制大学 (493人)	専門学校・短期大学 (593人)	有意水準
q3_2	学生と訪問指導者との二者面談	83.8	87.8	<i>n.s.</i>
	訪問指導者と指導担当者との二者面談	7.9	6.7	<i>n.s.</i>
	学生と訪問指導者と指導担当者の三者面談	12.8	10.2	<i>n.s.</i>

* $p < .05$ ** $p < .01$



図表 1-2-60 保育実習 I（施設）訪問指導における面談形態について 複数回答（%）

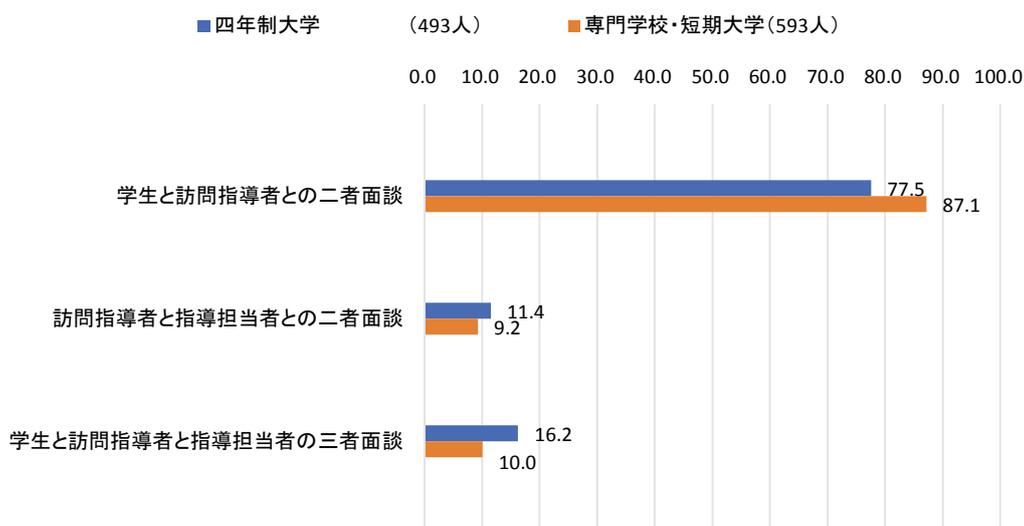
保育実習 I（施設）における面談形態は、学生と訪問指導者との二者面談がもっとも多かったが、学校種別による違いは認められなかった。施設実習においても、学生との面談をしていないケースが存在している可能性が示唆された。

面談形態について：保育実習 II または III

図表 1-2-61 保育実習 II または III 訪問指導における面談形態について複数回答（%）

	項目内容	四年制大学 (493 人)	専門学校・短期大学 (593 人)	有意水準
q3_2	学生と訪問指導者との二者面談	77.5	87.1	**
	訪問指導者と指導担当者との二者面談	11.4	9.2	<i>n.s.</i>
	学生と訪問指導者と指導担当者の三者面談	16.2	10.0	**

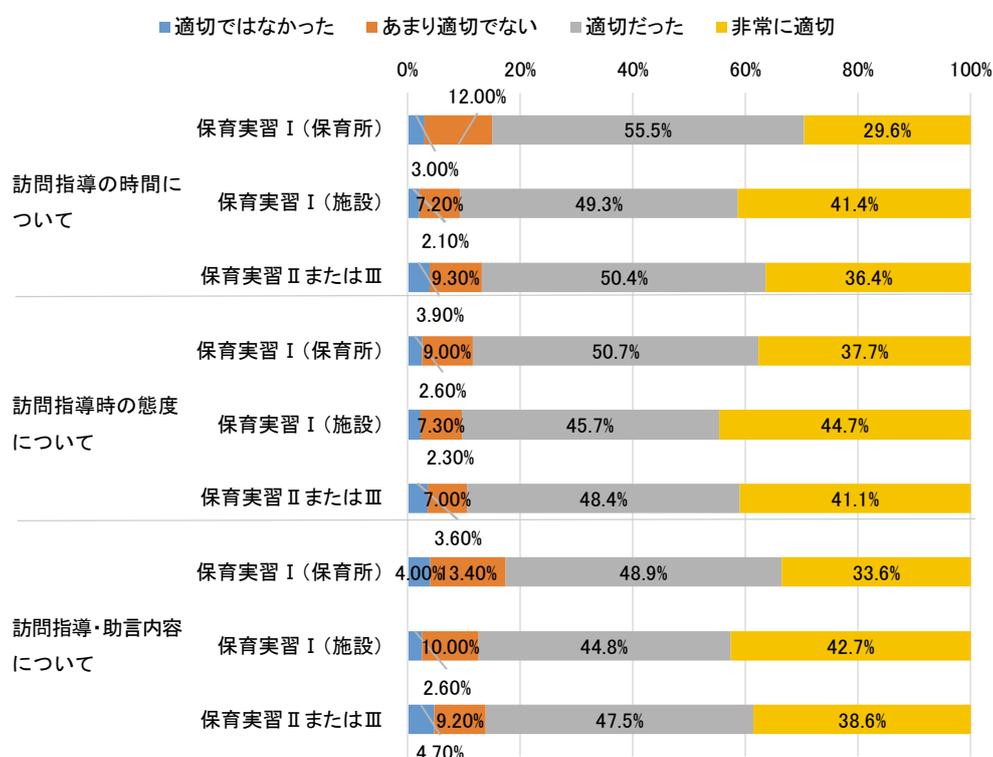
* $p < .05$ ** $p < .01$



図表 1-2-62 保育実習ⅡまたはⅢ 訪問指導における面談形態について 複数回答 (%)

保育実習ⅡまたはⅢにおける面談形態は、学生と訪問指導者との二者面談がもっとも多く、次いで、学生も含む三者面談が多い結果であった。学生と訪問指導者との二者面談ならびに学生も含む三者面談では、学校種別による有意差が認められた。訪問指導において、学生との面談をしていないケースが存在している可能性が示唆された。

(2) 訪問指導全般について



図表 1-2-63 訪問指導全般について (%)

訪問指導の時間について約 85%が、態度については約 89%が、助言内容については約 81%が適切である（非常に適切+適切）と回答している。全体的に、訪問指導に関して満足度が高い結果であった。

また実習種別でみると、保育実習 I（施設）での訪問指導が、時間、態度、指導内容全般において「適切である」の回答が多い結果であった。しかし有意な差は認められなかった。

<学校種別結果>

図表 1-2-64 保育実習 I（保育所）における訪問指導について
学校種別による各項目の *t* 検定の結果（上段：平均値 下段：標準偏差）

	項目内容	四年制大学	専門学校・短期大学	<i>t</i> 値	有意水準
		(222 人)	(262 人)		
q3_2_3	訪問指導の時間	3.14	3.1	-1.1	<i>n.s.</i>
		0.68	0.74		
q3_2_4	訪問指導時の態度	3.26	3.21	-1.3	<i>n.s.</i>
		0.7	0.73		
q3_2_5	訪問指導・助言内容	3.17	3.07	-2.6	<i>n.s.</i>
		0.74	0.8		

p*<.05 *p*<.01

図表 1-2-65 保育実習 I（施設）における訪問指導について
学校種別による各項目の *t* 検定の結果（上段：平均値 下段：標準偏差）

	項目内容	四年制大学	専門学校・短期大学	<i>t</i> 値	有意水準
		(222 人)	(262 人)		
q3_2_3	訪問指導の時間	3.32	3.27	-1.2	<i>n.s.</i>
		0.63	0.74		
q3_2_4	訪問指導時の態度	3.34	3.31	-0.82	<i>n.s.</i>
		0.66	0.75		
q3_2_5	訪問指導・助言内容	3.31	3.24	-1.64	<i>n.s.</i>
		0.68	0.79		

p*<.05 *p*<.01

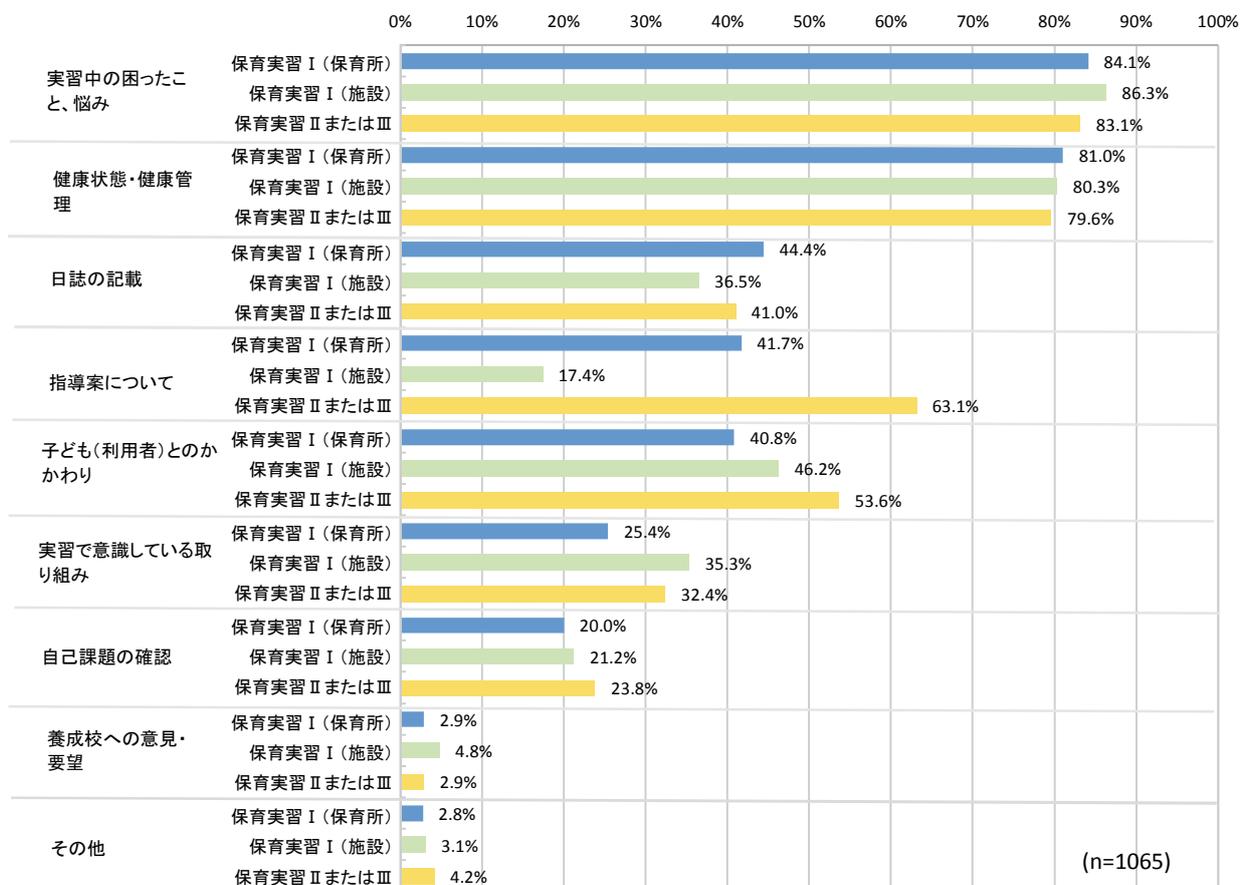
表 1-2-66 保育実習ⅡまたはⅢにおける訪問指導について
 学校種別による各項目の *t* 検定の結果（上段：平均値 下段：標準偏差）

	項目内容	四年制大学	専門学校・短期大学	<i>t</i> 値	有意水準
		(222 人)	(262 人)		
q3_2_3	訪問指導の時間	3.2	3.18	-1.2	<i>n.s.</i>
		0.7	0.8		
q3_2_4	訪問指導時の態度	3.32	3.22	-2.2	*
		0.67	0.78		
q3_2_5	訪問指導・助言内容	3.24	3.16	-1.51	<i>n.s.</i>
		0.74	0.82		

**p*<.05

学校種別による違いは、保育実習ⅡまたはⅢにおける訪問指導時の態度のみ差が認められ、四年制大学の学生のほうが、より適切と回答していた。

（3）訪問指導の内容（内訳）【複数回答】

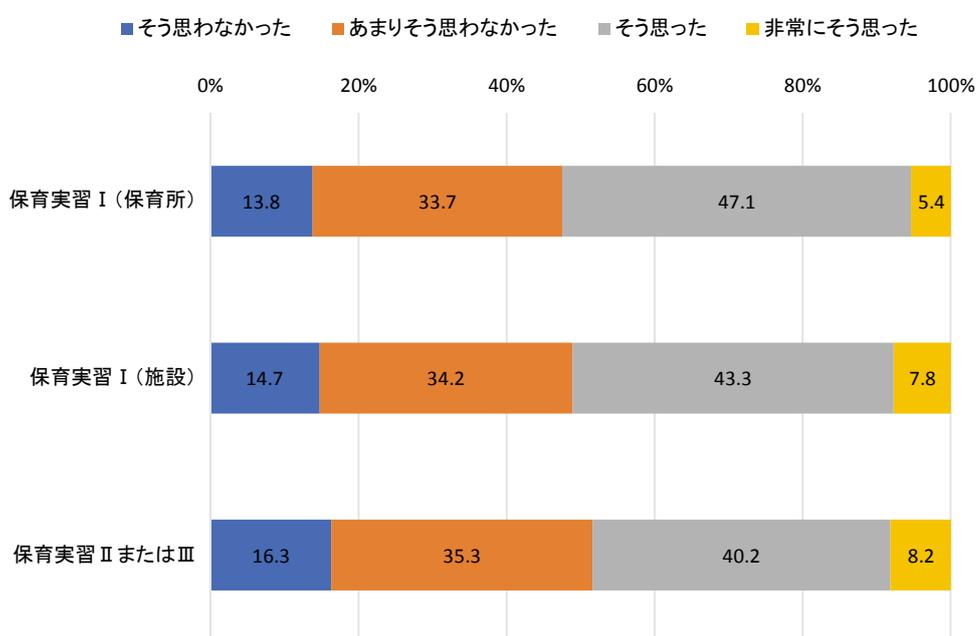


図表 1-2-67 訪問指導の内容について (%)

訪問指導中の指導内容の内訳をみると、「実習中の困ったことや悩み」についての項目が最も多く、次いで「健康状態・健康管理に関すること」と続く。一方で、「自己課題の確認」や「実習で意識している取り組み」などは、指導内容として回答が少ない結果であった。

実習種別で見ると、「指導案」「子どものかかわり」「自己課題の確認」に関しては、実習指導ⅡまたはⅢで多く、実習の内容の深まりがみられる。また施設実習に関しては、「指導案」「日誌の記載」が少なく、施設実習の特色がみられた。

(4) 訪問指導による意識の変化について



図表 1-2-68 訪問指導による意識の変化について

訪問時による意識の変化について尋ねたところ約半数が、「そう思う」と回答していた。しかし「そう思わない」学生も約半数いることから、各養成校において、訪問指導の意義、役割を教員間で共有し、見直しを図ることや、訪問指導の在り方について再検討する必要がある。実習種別での有意な差は認められなかった。

(5) 自由記述

1) 「訪問指導によってどのように意識が変わったか、または学びが深まったか」 (保育実習Ⅰ 保育所)

「訪問指導によって、安心感が得られ、不安を取り除ける。」「先生が来てくれたことにより嬉しかった。『もうちょっとだから頑張ろう』と思えた」「知っている先生の顔を見てほっとしたので、この先もがんばろうと思った。」など、訪問指導によって安心して実習意欲の向上につながったことがわかる記述が多かった。また、「子どもとのかかわり方について困ったこと(実習指導者には聞きづらいこと)を聞くことがあり、自分なりに対応を考えていった。」という記述もあり、実習園での指導者に聞けないことに訪問指導者が対応することの必要性をうかがい知ることができる。

2) 「訪問指導によってどのように意識が変わったか、または学びが深まったか」 (保育実習Ⅰ 施設)

「一人での宿泊実習だったため、巡回教員の顔を見たときは安心して涙が出た。」「泊り込みだった為、精神的に辛かったが、沢山励まして頂いた。」「泊まり込みだったので、学校の先生と久しぶりに話せることで気持ちをしきりなおさせて、自己課題などの再確認もできる」など、宿泊という施設実習の特性と結びつく記述が見られた。訪問指導を通じて、実習意欲が向上したという内容の記述が多かった。

3) 「訪問指導によってどのように意識が変わったか、または学びが深まったか」 (保育実習ⅡあるいはⅢ)

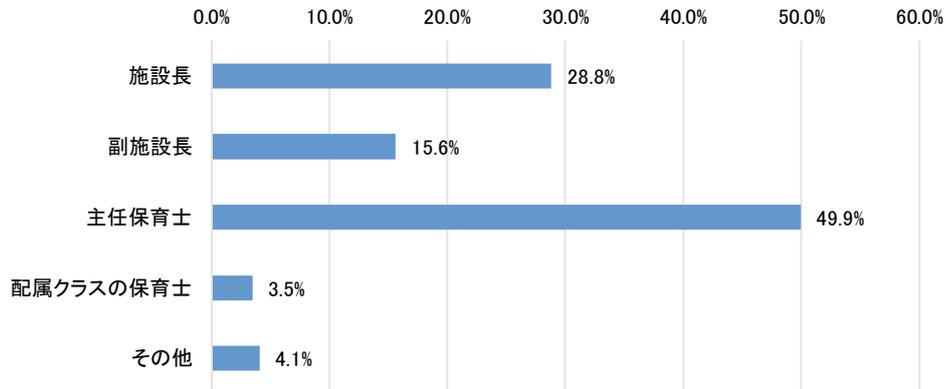
「責任実習の計画立案へのヒントをいただいた。」「責任実習の指導案作成の途中だったので、相談にのってもらえたり、アドバイスをもらえて、工夫を加えようと思えた。モチベーションにつながった。」など、指導実習むけて訪問指導が役立った旨の記述が見られた。また、「園が場所を作って下さらず他の先生が沢山いる廊下で行うしかなかった。相談しづらい。」「指導担当者も一緒だったので素直に実習のことを話せなかった。」など、訪問指導の環境に関する記述もあった。また、「電話巡回」であったケースも複数見られた。

6. 実習施設の保育士による指導について

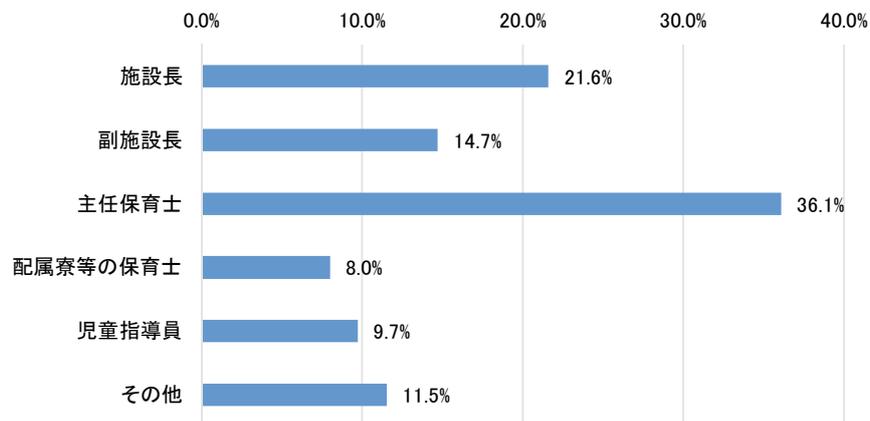
(1) 実習施設の保育士による指導に対する満足度

実習生が実習中に受けた保育士からの指導について、事前オリエンテーションの指導者、実習中の実習指導者と指導場面とその内容、反省会の指導者、そして実習施設の指導者に対する満足度の順に結果を示す。

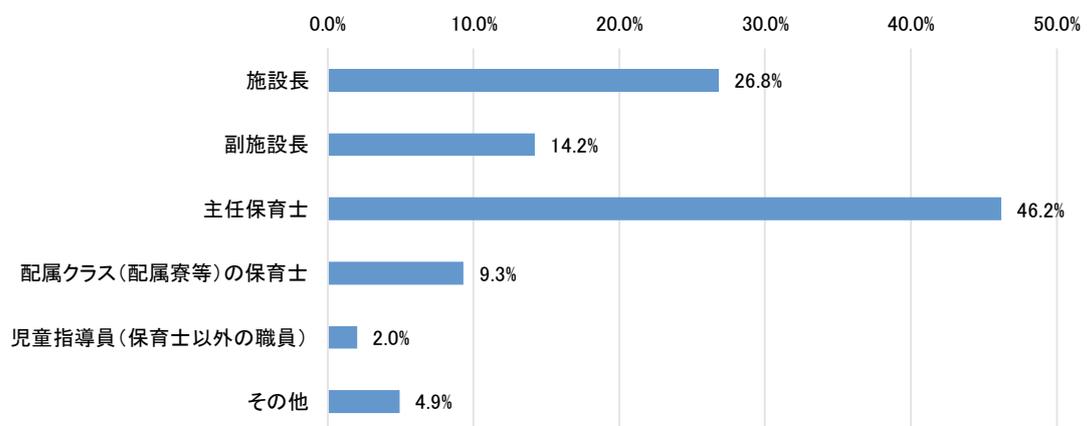
1) 事前オリエンテーションの指導者



図表 1-2-69 保育実習 I (保育所) 事前オリエンテーションの指導者

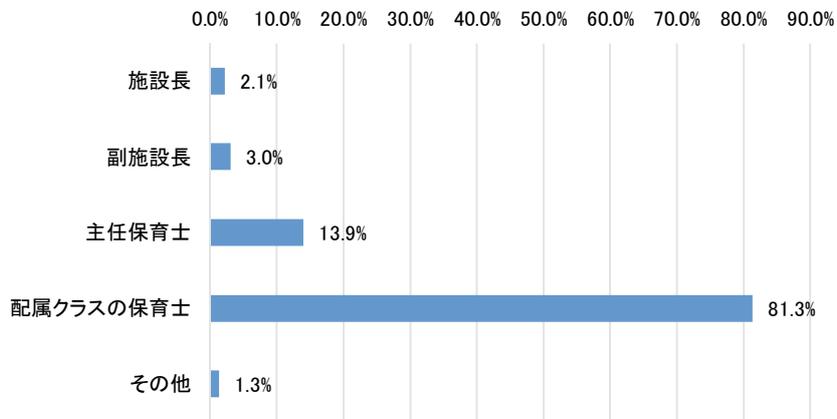


図表 1-2-70 保育実習 I (施設) 事前オリエンテーションの指導者

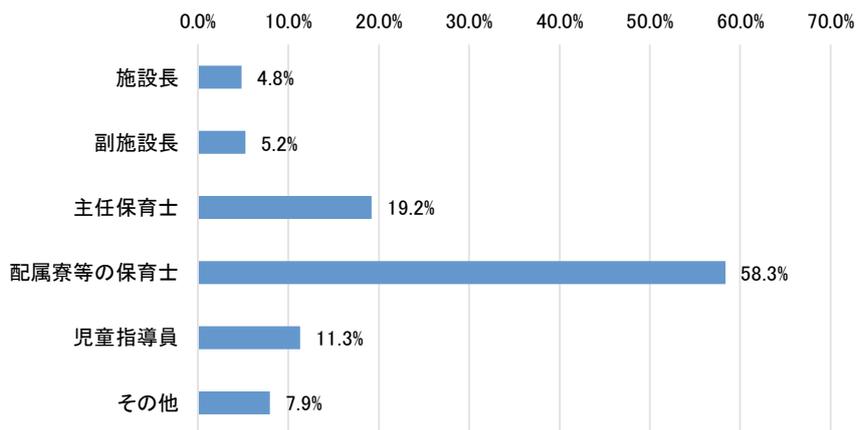


図表 1-2-71 保育実習 II または III 事前オリエンテーションの指導者

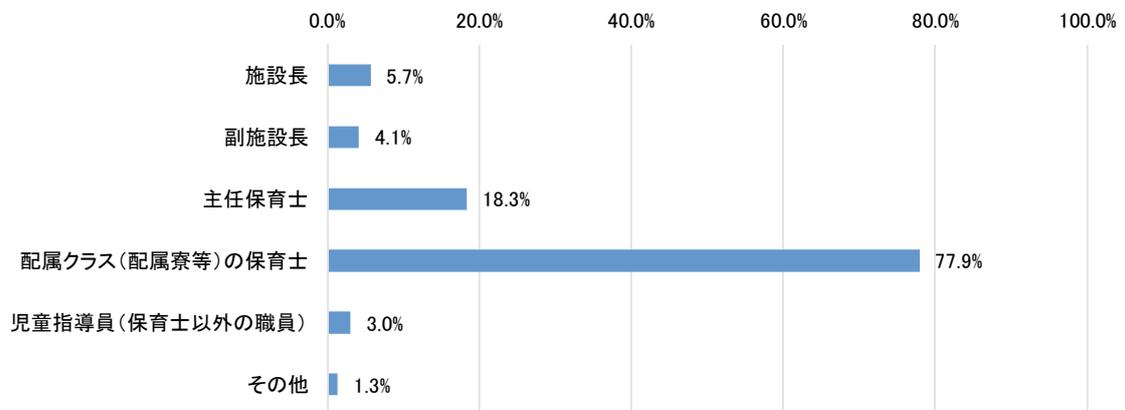
2) 実習期間中の指導者



図表 1-2-72 保育実習 I (保育所) 実習期間中の指導者

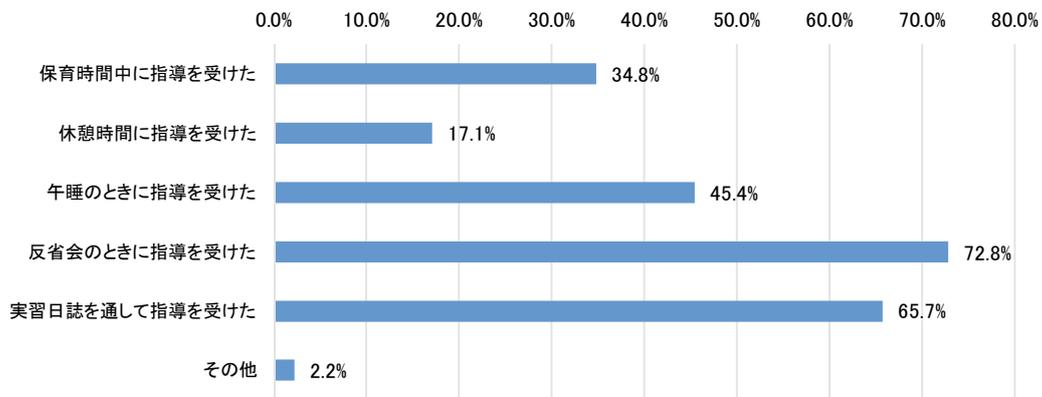


図表 1-2-73 保育実習 I (施設) 実習期間中の指導者

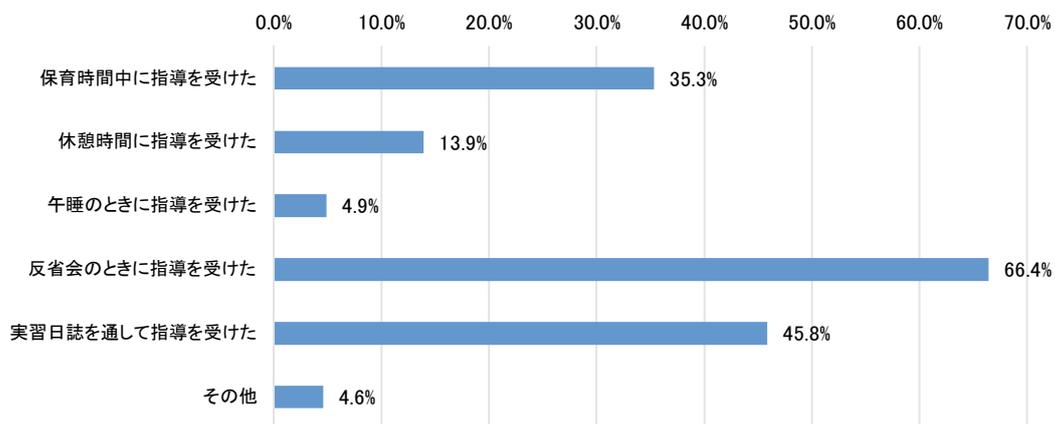


図表 1-2-74 保育実習 II または III 実習期間中の指導者

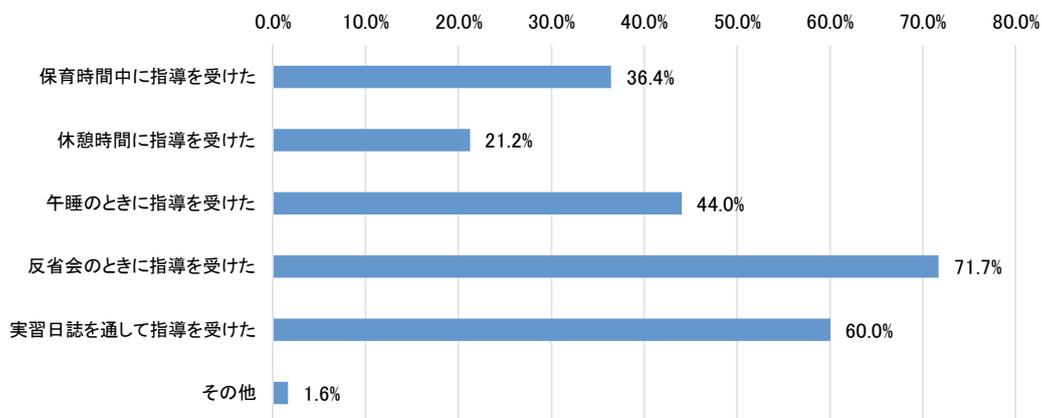
3) 実習施設において受けた指導場面



図表 1-2-75 保育実習 I (保育所) 実習施設における指導はどのように行われたか

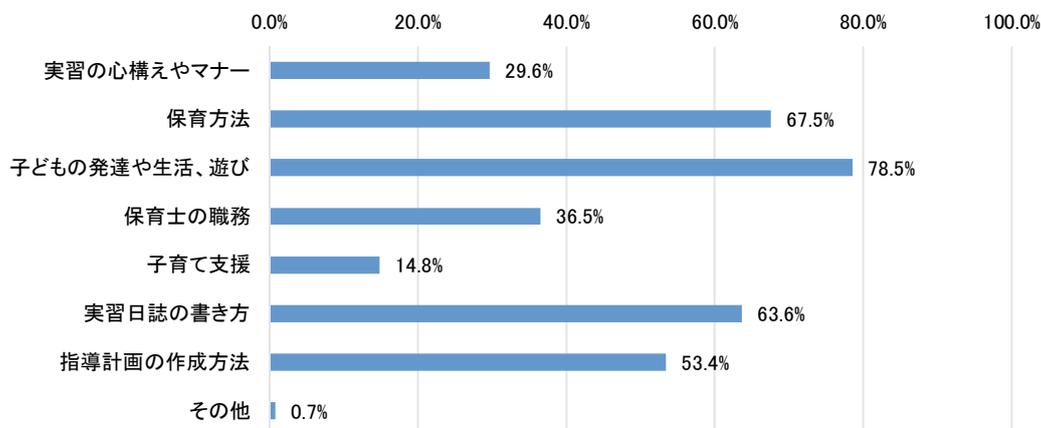


図表 1-2-76 保育実習 I (施設) 実習施設における指導はどのように行われたか

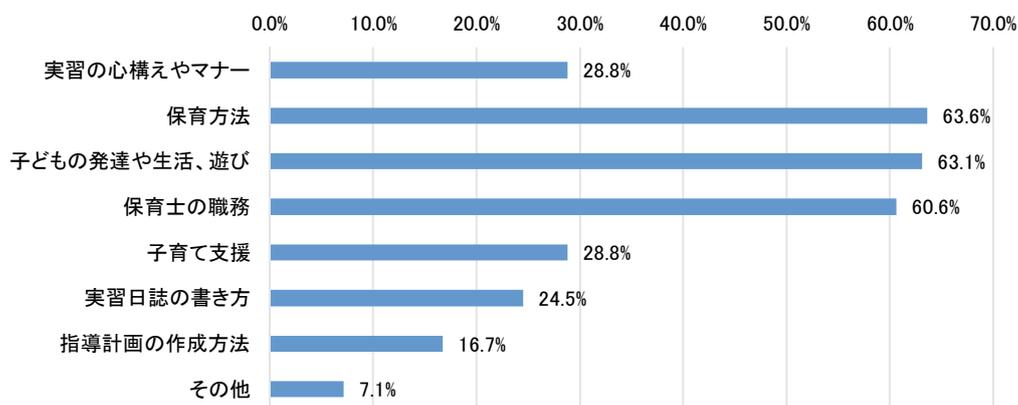


図表 1-2-77 保育実習 II または III 実習施設における指導はどのように行われたか

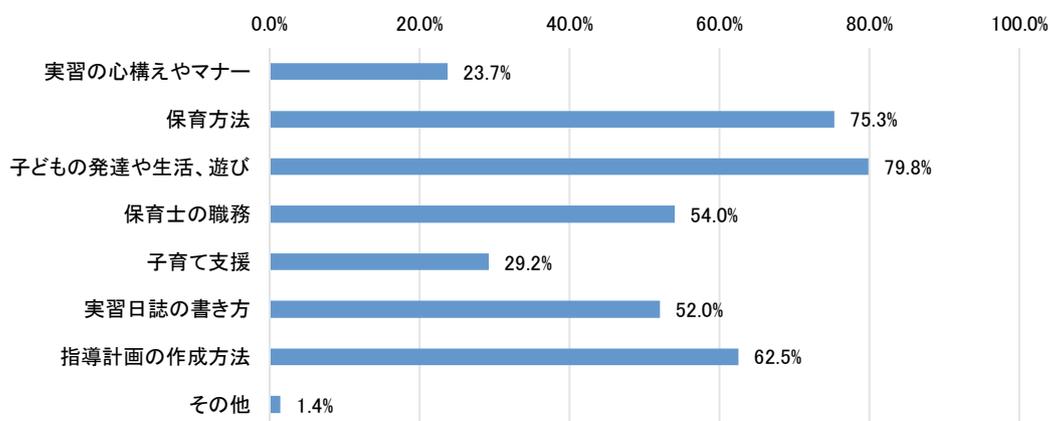
4) 実習施設における指導の内容



図表 1-2-78 保育実習 I (保育所) 実習施設における指導の内容 (複数回答可)

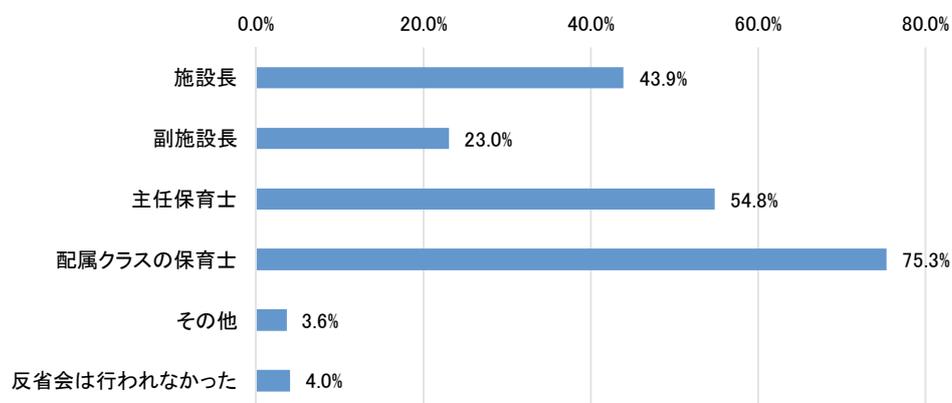


図表 1-2-79 保育実習 I (施設) 実習施設における指導の内容 (複数回答)

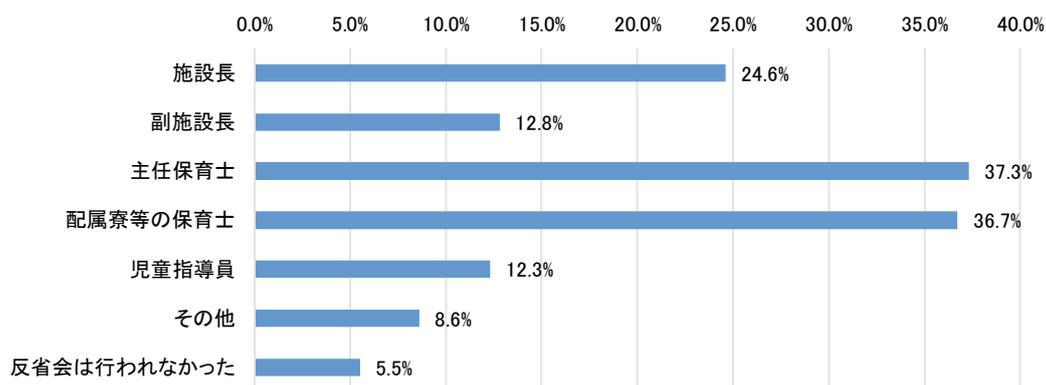


図表 1-2-80 保育実習 II または III 実習施設における指導の内容 (複数回答)

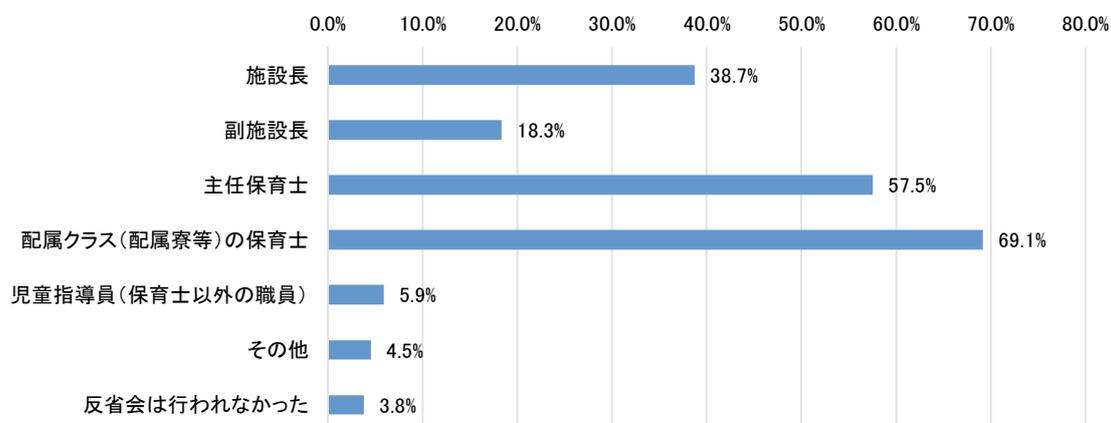
5) 実習施設における反省会の指導者



図表 1-2-81 保育実習 I（保育所）実習施設における反省会の指導者

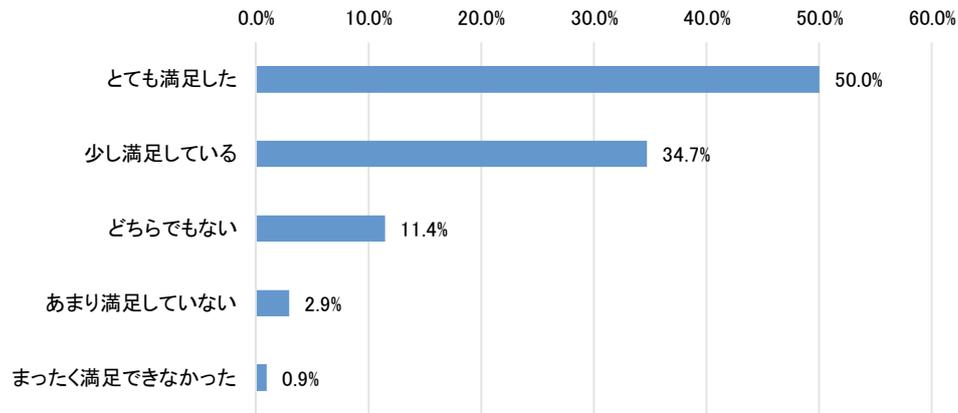


図表 1-2-82 保育実習 I（施設）実習施設における反省会の指導者

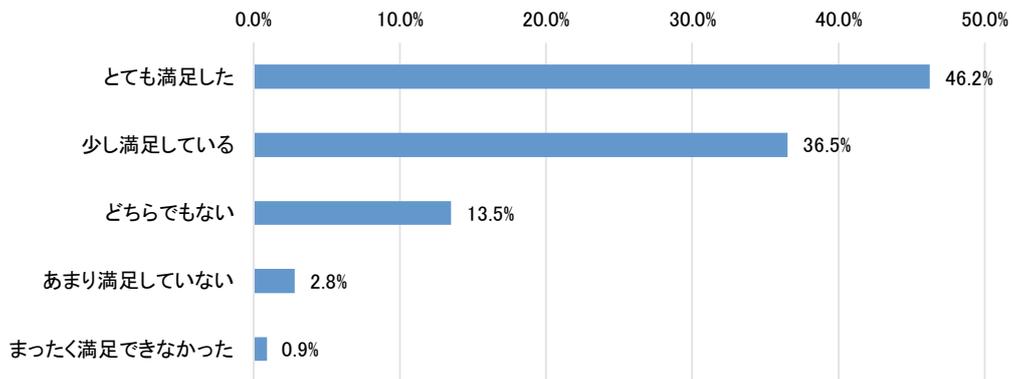


図表 1-2-83 保育実習 II または III 実習施設における反省会の指導者

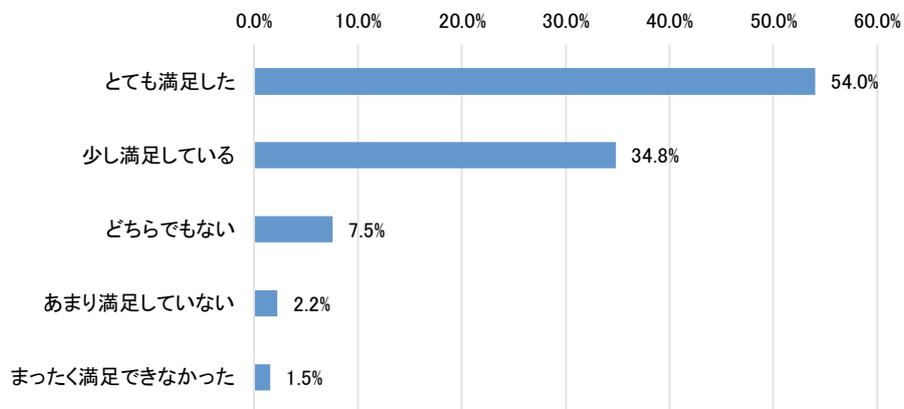
6) 実習施設の職員から受けた指導に対する満足度



図表 1-2-84 保育実習 I (保育所) 実習施設職員の指導に対する満足度



図表 1-2-85 保育実習 I (施設) 実習施設職員の指導に対する満足度



図表 1-2-86 保育実習 II または III 実習施設職員の指導に対する満足度

実習施設職員の指導に対する満足度の平均は以下のとおりであった。どの実習種においても、おおむね実習生の実習指導者への満足度は高かった。

図表 1-2-87 実習施設職員の指導に対する満足度の平均

	平均値	標準偏差
保育実習Ⅰ（保育所）	4.30	.85
保育実習Ⅰ（施設）	4.24	.86
保育実習ⅡまたはⅢ	4.38	.83

（２） 学校種別による実習施設職員の指導に対する満足度

実習施設職員の指導に対する満足度を学校種別に見たところ、養成年限による違いはなかった。

図表 1-2-88 学校種別による実習施設職員の指導に対する満足度

	学校種別	平均値	標準偏差	t 値	有意確率	有意水準
保育実習Ⅰ （保育所）	専門・短期大学	4.32	.81	.687	.492	n.s.
	四年制大学	4.28	.90			
保育実習Ⅰ （施設）	専門・短期大学	4.26	.83	.782	.435	n.s.
	四年制大学	4.22	.89			
保育実習Ⅱ またはⅢ	専門・短期大学	4.38	.82	-.073	.942	n.s.
	四年制大学	4.38	.85			

7. 指導実習について

（１）指導実習の実態

実習の4つの段階のうちの一つである指導実習（部分実習及び責任実習〔1日実習または半日実習〕）は、指導計画の立案、実践及び計画の意義の理解、関連科目での習得内容の活用、また個人差に配慮した保育の展開が、その内容として挙げられる（保育実習指導のミニマムスタンダード 2017年版より）。ここでは、指導実習がどのように行われているのかの実際と、指導実習を通じた学生の学びの認識についての実態を明らかにする、

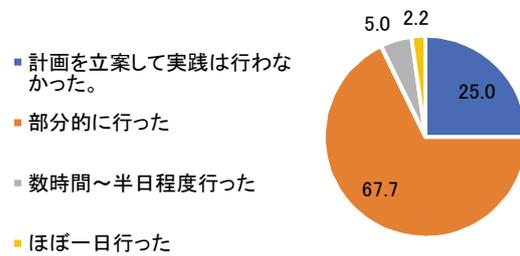
1) 各実習における指導実習の実施について

設問 6-1「それぞれの実習において、計画を立案しての実践を行いましたか。」について、実習毎の結果は以下の通りである。

図表 1-2-89 保育実習 I (保育所)における指導実習状況

保育実習 I (保育所)		回答数	%
選択肢		1038	100.0
1	計画を立案して実践は行わなかった。	260	25.0
2	部分的に行った	703	67.7
3	数時間～半日程度行った	52	5.0
4	ほぼ一日行った	23	2.2

保育実習 I (保育所)

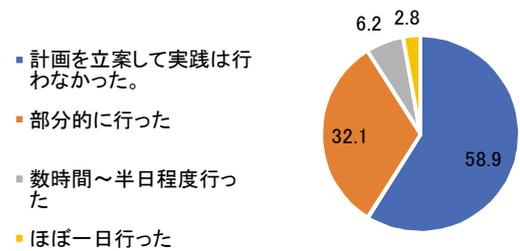


図表 1-2-90 保育実習 I (保育所)における指導実習状況 (%)

図表 1-2-91 保育実習(施設)における指導実習状況

保育実習 I (施設)		回答数	%
全体		978	100.0
1	計画を立案して実践は行わなかった。	576	58.9
2	部分的に行った	314	32.1
3	数時間～半日程度行った	61	6.2
4	ほぼ一日行った	27	2.8

保育実習 I (施設)

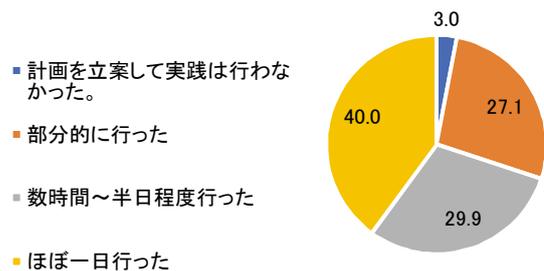


図表 1-2-92 保育実習 I (保育所)における指導実習状況 (%)

図表 1-2-93 保育実習 IIにおける指導実習実施状況

保育実習 II (保育所)		回答数	%
全体		909	100.0
1	計画を立案して実践は行わなかった。	27	3.0
2	部分的に行った	246	27.1
3	数時間～半日程度行った	272	29.9
4	ほぼ一日行った	364	40.0

保育実習 II (保育所)

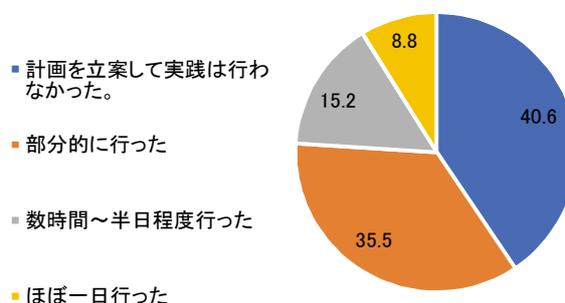


図表 1-2-94 保育実習 IIにおける指導実習実施状況 (%)

図表 1-2-95 保育実習Ⅲにおける指導実習実施状況

保育実習Ⅲ（施設）		回答数	%
全体		217	100.0
1	計画を立案して実践は行わなかった。	88	40.6
2	部分的に行った	77	35.5
3	数時間～半日程度行った	33	15.2
4	ほぼ一日行った	19	8.8

保育実習Ⅲ（施設）



図表 1-2-96 保育実習Ⅲにおける指導実習状況 (%)

保育所における実習では、1回目の保育実習Ⅰ（保育所）でも約75%が何らかの形で計画を立案しての実践を行っている。また、2回目の保育実習Ⅱにおいては、97%が計画を立案しての実践を行っており、保育所実習ではほとんどの場合指導実習を経験していることが分かる。指導実習の時間を見ると、保育実習Ⅰでは、約70%が部分的に行ったと答えているが、保育実習Ⅱでは、約70%が数時間～半日程度またはほぼ一日行ったと答えている。このことから、保育実習Ⅱにおいては、学生の認識としても保育所における実習指導としても数時間以上の指導実習が定着していることが分かる。

施設における実習では、1回目の保育実習Ⅰ（施設）では約40%が何らかの形で計画を立案しての実践を行っている。また、2回目の保育実習Ⅲにおいては、約60%が計画を立案しての実践を行っている。施設実習は保育所実習に比べて指導計画を立案しての実践は少ない。計画を立案しての実践を行った中では保育実習Ⅰ（施設）、保育実習Ⅲ共に、部分的に行ったと回答した割合が30%と最も多く、数時間以上の指導実習を行った学生の割合は保育実習Ⅲにおいて約25%であった。施設の種別特性による違いも考えられ、支援計画の作成と実践についての学びについては、実態を踏まえて展開する必要性が考えられる。

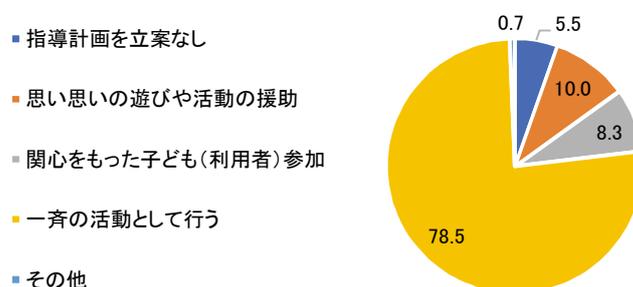
2) 指導実習における主な実践の展開

設問 6-2「特に印象に残っている実践は、どのような展開で行いましたか。」の結果は以下の通りである。

図表 1-2-97 印象に残った指導実習

		回答数	%
全体		1054	100.0
1	指導計画を立案していない	58	5.5
2	思い思いの遊びや活動を援助する方法	105	10.0
3	実習生が活動を提案し、関心をもった子どもまたは利用者だけが参加する方法	88	8.3
4	実習生が活動を提案し、一斉の活動として行う方法	827	78.5
5	その他	7	0.7

印象に残った指導実習の展開



図表 1-2-98 印象に残った指導実習 (%)

指導実習において、特に印象に残っている実践は、78.5%が「実習生が活動を提案し、一斉の活動として行う方法」と回答しており、約8割が一斉活動を主に行っていることが分かる。一方、「思い思いの遊びや活動を援助する方法」「実習生が活動を提案し、関心をもった子どもまたは利用者だけが参加する方法」はそれぞれ約1割に留まっており、計画を立案しこのような活動展開での実践を経験する学生は少ないことが伺える。保育実習指導のミニマムスタンダード 2017年版には、「指導計画の作成、実践、観察、記録、評価」の中で、「ことさらに保育士が主導的役割をとるような活動を行うものではなく、自然な生活の流れの中で子どもの自発的な遊びや生活への取り組みを尊重した内容が望ましい。」とあり、一斉活動が即保育士主導とは限らないが、指導実習において自然な生活の流れや子どもの自発的な遊びや生活を尊重する実践となるよう、十分に留意する必要があるだろう。そのためには、実習指導における指導計画等の指導のあり方も検討が必要と考えられる。

3) 指導実習における主な実践の展開と学生の学びの認識

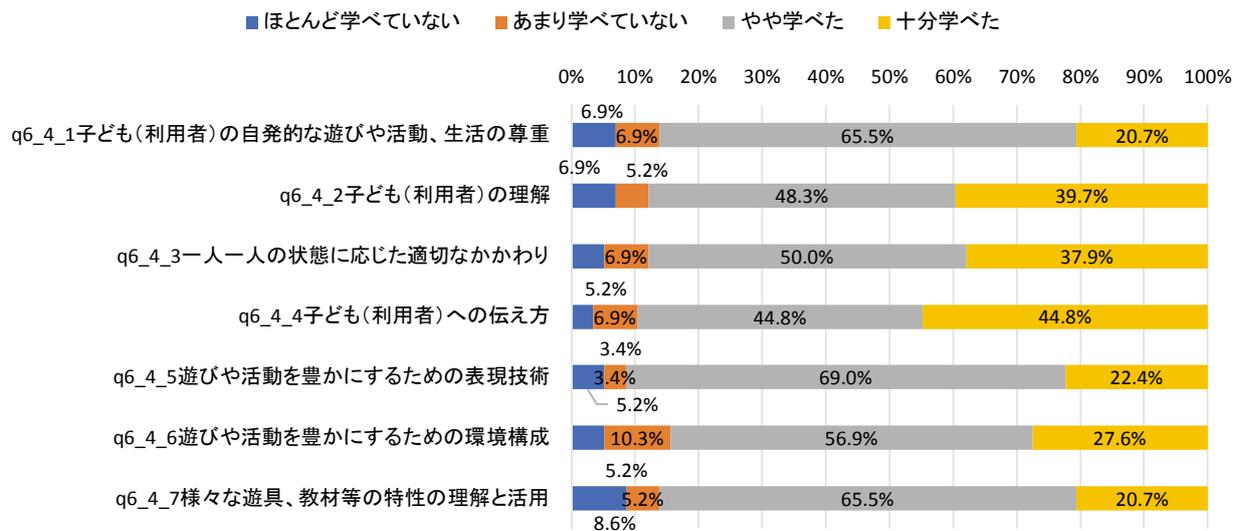
次に、設問 6-4「計画を立案し実践することを通して、次のことはどのくらい学べましたか。」の回答について、指導実習において特に印象に残っている実践の展開別に結果を示す。質問項目は、「子ども（利用者）の自発的な遊びや活動、生活の尊重」「子ども（利用者）の理解」「一人一人の状態に応じた適切なかわり」「子ども（利用者）への伝え方」「遊びや活動を豊かにするための表現技術」「遊びや活動を豊かにするための環境構成」「様々な遊具、教材等の特性の理解と活用」の7項目である。

図表 1-2-99 指導計画を立案していない学生の学びの認識

	質問項目	ほとんど学べていない	あまり学べていない	やや学べた	十分学べた
q6_4_1	子ども（利用者）の自発的な遊びや活動、生活の尊重	6.9%	6.9%	65.5%	20.7%
q6_4_2	子ども（利用者）の理解	6.9%	5.2%	48.3%	39.7%

q6_4_3	一人一人の状態に応じた適切なかかわり	5.2%	6.9%	50.0%	37.9%
q6_4_4	子ども（利用者）への伝え方	3.4%	6.9%	44.8%	44.8%
q6_4_5	遊びや活動を豊かにするための表現技術	5.2%	3.4%	69.0%	22.4%
q6_4_6	遊びや活動を豊かにするための環境構成	5.2%	10.3%	56.9%	27.6%
q6_4_7	様々な遊具、教材等の特性の理解と活用	8.6%	5.2%	65.5%	20.7%

指導計画を立案していない

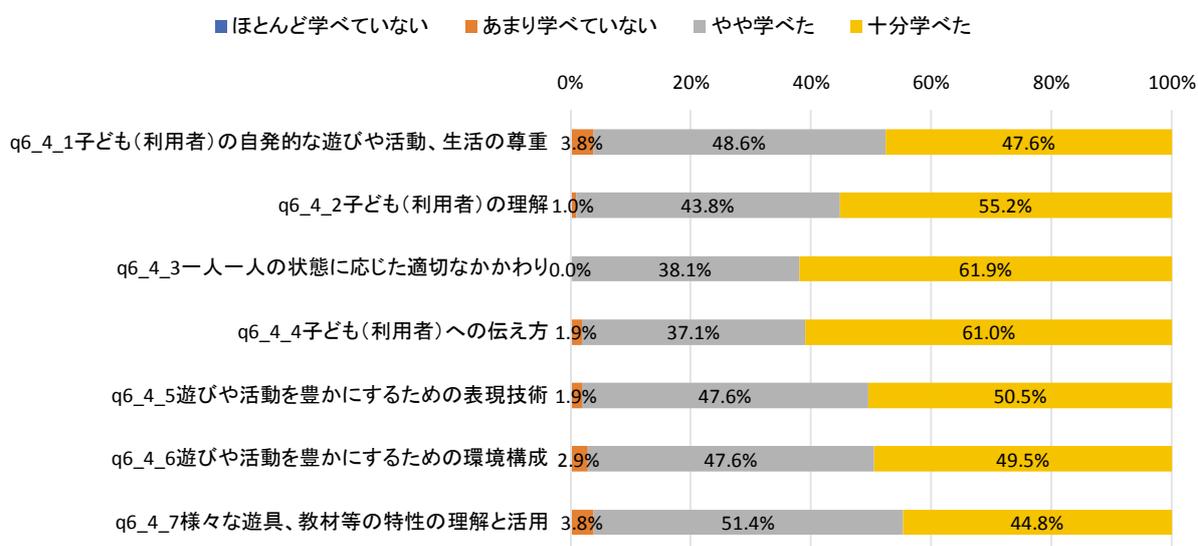


図表 1-2-100 指導計画を立案していない学生の学びの認識

図表 1-2-101 思い思いの遊びや活動を援助する方法で実践を行った学生の学びの認識

	質問項目	ほとんど学べていない	あまり学べていない	やや学べた	十分学べた
q6_4_1	子ども（利用者）の自発的な遊びや活動、生活の尊重	0.0%	3.8%	48.6%	47.6%
q6_4_2	子ども（利用者）の理解	0.0%	1.0%	43.8%	55.2%
q6_4_3	一人一人の状態に応じた適切なかかわり	0.0%	0.0%	38.1%	61.9%
q6_4_4	子ども（利用者）への伝え方	0.0%	1.9%	37.1%	61.0%
q6_4_5	遊びや活動を豊かにするための表現技術	0.0%	1.9%	47.6%	50.5%
q6_4_6	遊びや活動を豊かにするための環境構成	0.0%	2.9%	47.6%	49.5%
q6_4_7	様々な遊具、教材等の特性の理解と活用	0.0%	3.8%	51.4%	44.8%

思い思いの遊びや活動を援助

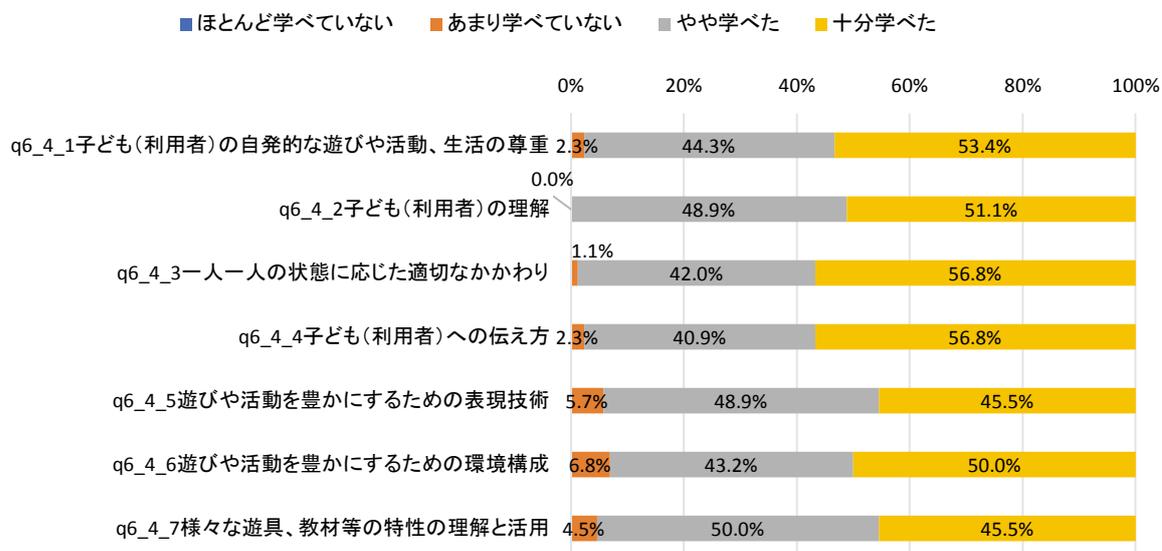


図表 1-2-102 思い思いの遊びや活動を援助する方法で実践を行った学生の学びの認識 (%)

図表 1-2-103 活動を提案し、関心をもった子ども(利用者)が参加する方法で実践を行った学生の、学びの認識

質問項目	ほとんど学べていない	あまり学べていない	やや学べた	十分学べた
q6_4_1 子ども(利用者)の自発的な遊びや活動、生活の尊重	0.0%	2.3%	44.3%	53.4%
q6_4_2 子ども(利用者)の理解	0.0%	0.0%	48.9%	51.1%
q6_4_3 一人一人の状態に応じた適切なかかわり	0.0%	1.1%	42.0%	56.8%
q6_4_4 子ども(利用者)への伝え方	0.0%	2.3%	40.9%	56.8%
q6_4_5 遊びや活動を豊かにするための表現技術	0.0%	5.7%	48.9%	45.5%
q6_4_6 遊びや活動を豊かにするための環境構成	0.0%	6.8%	43.2%	50.0%
q6_4_7 様々な遊具、教材等の特性の理解と活用	0.0%	4.5%	50.0%	45.5%

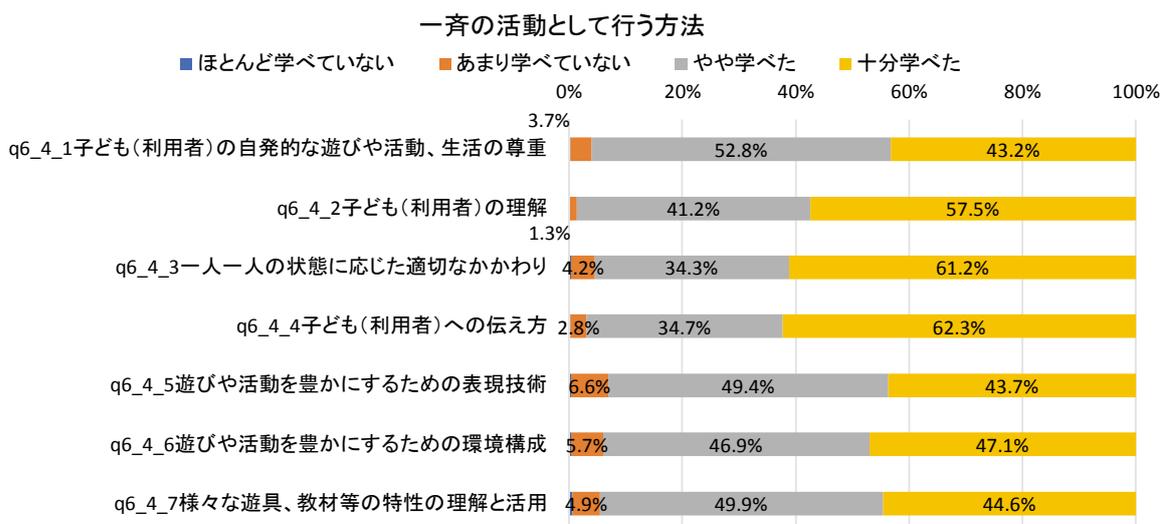
関心をもった子ども(利用者)が参加する方法



図表 1-2-104 活動を提案し、関心をもった子ども(利用者)が参加する方法で実践を行った学生の、学びの認識(%)

図表 1-2-105 活動を提案し、一斉の活動として行う方法で実践を行った学生の学びの認識

	質問項目	ほとんど学べていない	あまり学べていない	やや学べた	十分学べた
q6_4_1	子ども(利用者)の自発的な遊びや活動、生活の尊重	0.2%	3.7%	52.8%	43.2%
q6_4_2	子ども(利用者)の理解	0.1%	1.3%	41.2%	57.5%
q6_4_3	一人一人の状態に応じた適切なかかわり	0.3%	4.2%	34.3%	61.2%
q6_4_4	子ども(利用者)への伝え方	0.2%	2.8%	34.7%	62.3%
q6_4_5	遊びや活動を豊かにするための表現技術	0.3%	6.6%	49.4%	43.7%
q6_4_6	遊びや活動を豊かにするための環境構成	0.3%	5.7%	46.9%	47.1%
q6_4_7	様々な遊具、教材等の特性の理解と活用	0.6%	4.9%	49.9%	44.6%



図表 1-2-106 活動を提案し、一斉の活動として行う方法で実践を行った学生の学びの認識 (%)

「指導計画を立案していない」と回答した学生のうち、各質問項目について「ほとんど学べていない」「あまり学べていない」と回答した学生の割合は10～15%であった。「指導計画を立案していない」を選択した以外の、指導計画を立案し何らかの形で実践を行った学生のうち、「ほとんど学べていない」または「あまり学べていない」と回答した学生はどの項目も0～7%であることと比べると、多い割合である。計画を立案しての実践を行った学生の方が学べたという認識が高いことが分かる。

また、計画を立案しての実践を行った学生の中で、各質問項目において「やや」または「十分学べた」と回答した割合を比べると、いずれの項目も「思い思いの遊びや活動を援助する方法」または「関心をもった子ども(利用者)が参加する方法」どちらかが最も多いという結果であった。「一斉の活動として行う方法」では他の方法と比較すると、全項目において学べたと答えた割合が少なかったが、大きな差はなかった。

4) 学校種別の、各実習における指導実習実施の割合

設問 6-1 「それぞれの実習において、計画を立案しての実践を行いましたか。」について、短大・専門学校と、4年制大学とを比較した結果を以下に示す。

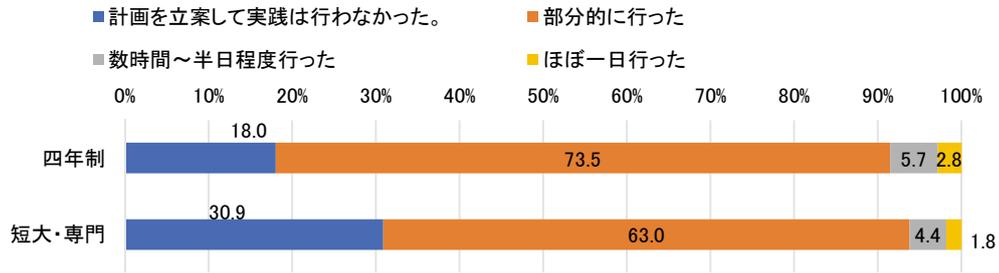
図表 1-2-107 保育実習 I (保育所) 計画立案に関する集計 (短大・専門)

保育実習 I (保育所)		回答数	%
全体		567	100.0
1	計画を立案して実践は行わなかった。	175	30.9
2	部分的に行った	357	63.0
3	数時間～半日程度行った	25	4.4
4	ほぼ一日行った	10	1.8

図表 1-2-108 保育実習 I (保育所) 計画立案に関する集計 (4年制)

保育実習 I (保育所)		回答数	%
全体		471	100.0
1	計画を立案して実践は行わなかった。	85	18.0
2	部分的に行った	346	73.5
3	数時間～半日程度行った	27	5.7
4	ほぼ一日行った	13	2.8

保育実習 I (保育所)



図表 1-2-109 保育実習 I (保育所)計画立案に関する集計 (%)

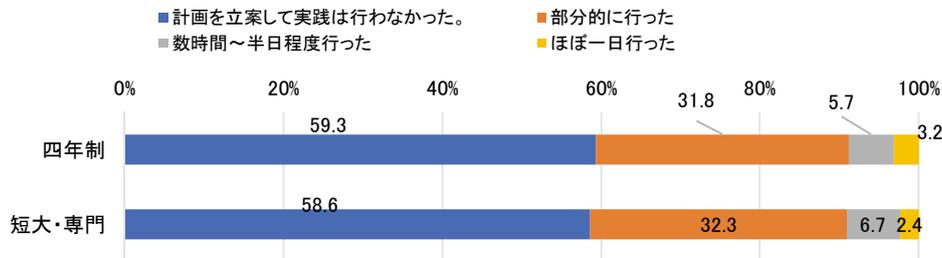
図表 1-2-110 保育実習 I (施設) 計画立案に関する集計 (短大・専門)

保育実習 I (施設)		回答数	%
全体		541	100.0
1	計画を立案して実践は行わなかった。	317	58.6
2	部分的に行った	175	32.3
3	数時間～半日程度行った	36	6.7
4	ほぼ一日行った	13	2.4

図表 1-2-111 保育実習 I (施設) 計画立案に関する集計 (短大・専門)

保育実習 I (施設)		回答数	%
全体		437	100.0
1	計画を立案して実践は行わなかった。	259	59.3
2	部分的に行った	139	31.8
3	数時間～半日程度行った	25	5.7
4	ほぼ一日行った	14	3.2

保育実習 I (施設)



図表 1-2-112 保育実習 I (施設) 計画立案に関する集計 (%)

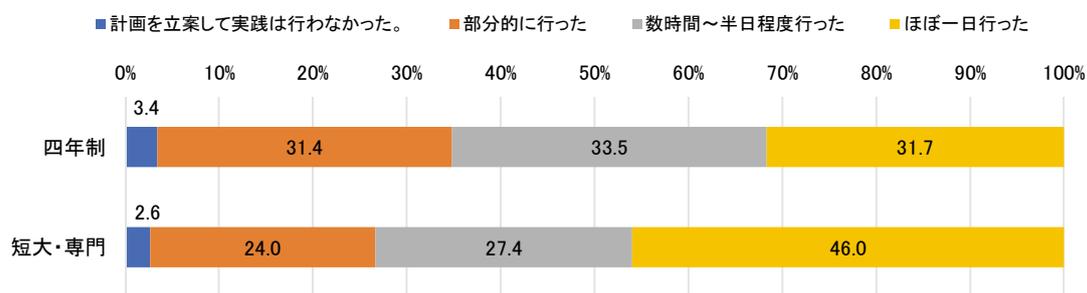
図表 1-2-113 保育実習 II 計画立案に関する集計 (短大・専門)

保育実習 II (保育所)		回答数	%
全体		530	100.0
1	計画を立案して実践は行わなかった。	14	2.6
2	部分的に行った	127	24.0
3	数時間～半日程度行った	145	27.4
4	ほぼ一日行った	244	46.0

図表 1-2-114 保育実習 II 計画立案に関する集計 (短大・専門)

保育実習 II (保育所)		回答数	%
全体		379	100.0
1	計画を立案して実践は行わなかった。	13	3.4
2	部分的に行った	119	31.4
3	数時間～半日程度行った	127	33.5
4	ほぼ一日行った	120	31.7

保育実習Ⅱ（保育所）



図表 1-2-115 保育実習Ⅱ計画立案に関する集計（%）

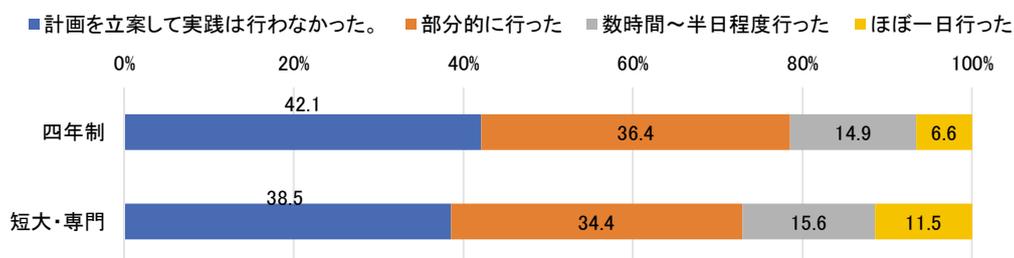
図表 1-2-116 保育実習Ⅲ計画立案に関する集計（短大・専門）

保育実習Ⅲ（施設）		回答数	%
全体		96	100.0
1	計画を立案して実践は行わなかった。	37	38.5
2	部分的に行った	33	34.4
3	数時間～半日程度行った	15	15.6
4	ほぼ一日行った	11	11.5

図表 1-2-117 保育実習Ⅲ計画立案に関する集計（短大・専門）

保育実習Ⅲ（施設）		回答数	%
全体		121	100.0
1	計画を立案して実践は行わなかった。	51	42.1
2	部分的に行った	44	36.4
3	数時間～半日程度行った	18	14.9
4	ほぼ一日行った	8	6.6

保育実習Ⅲ（施設）



図表 1-2-118 保育実習Ⅲ計画立案に関する集計（%）

保育実習Ⅰ（保育所）において、短大・専門学校では、計画を立案して実践を行わなかった割合が30.9%だったのに比べ、4年制大学では18%と、10%以上の差が見られた。4年制大学の方が、1回目の保育所実習で指導実習を行っている学生の割合が多いことが分かる。要因の一つとしてはこの実習を行う学年の違いが考えられる。一方で、7. 4)に見たように、計画を立案しての実践を行うことが、学生の学びの認識に関わっていることを鑑みると、短大・専門学校と、4年制大学の学生とでは、保育実習Ⅰ（保育所）終了時点での学びの認識の違いが出る事が考えられる。他方、保育実習Ⅰ（保育所）においては、数時間以上の指導実習を行った割合は、4年制大学の方が多かったものの大きな差はなかった。

保育実習Ⅰ（施設）において、指導実習を行う割合は、短大・専門学校と4年制大学とでほぼ違いは見られなかった。

保育実習Ⅱにおいては、計画を立案しての実践を行った割合は、短大・専門学校と4年制大学とでほぼ違いはなかったが、「ほぼ一日行った」と回答した割合は、短大・専門学校では46%、4年制大学では31.7%と、10%以上の差があった。

保育実習Ⅲにおいては、短大・専門学校の学生より4年制大学の学生の方が、「計画を立案しての実践を行わなかった」と回答した割合が多かった。また、「数時間～半日程度行った」「ほぼ一日行った」のいずれも短大・専門学校の学生の方が多かった。短大・専門学校の学生の方が、指導実習を行っている割合が多く、またその時間も長かったようだが、大きな差ではなかった。

8. 実習を通じた成長について

実習を通して感じた「自身の成長」を問うために、入学時と全ての実習を終えた現在の自分について全16項目により評定を求めた。16項目の内容は、「保育士として働きたい意欲」「保育士としての適性」の2項目に加えて、保育士適性として必要となる14項目からなる。保育士適性の14項目については、「保育士・保育教諭が誇りとやりがいを持って働き続けられる、新たなキャリアアップの道筋について」より、保育士・保育教諭に求められる専門職としての基盤として挙げられている項目を基に選定した。

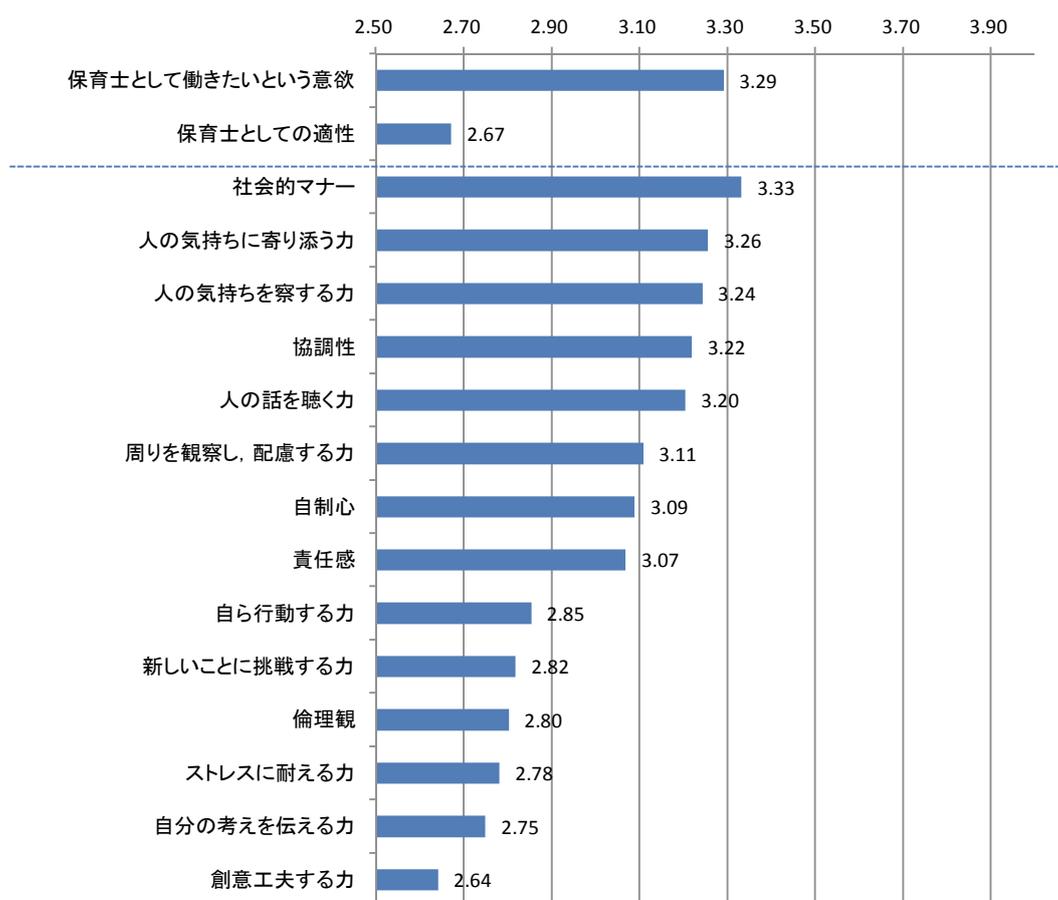
(1) 保育士として働きたい意欲と保育士としての適性に関する各項目の分析

1) 入学時

図表 1-2-119 入学時意欲と適性に関する項目得点と学群による t 検定結果

項目	全体 n=1092		専門学校・短期大学 n=599		四年制大学 n=493		t 値	有意確率	有意水準
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差			
1 保育士として働きたいという意欲	3.29	0.81	3.36	0.76	3.21	0.86	3.09	.002	**
2 保育士としての適性	2.67	0.76	2.71	0.74	2.62	0.78	1.83	.068	+
3 人の話を聴く力	3.20	0.69	3.22	0.68	3.18	0.70	0.94	.347	n.s.
4 人の気持ちを察する力	3.24	0.69	3.25	0.69	3.23	0.70	0.49	.621	n.s.
5 人の気持ちに寄り添う力	3.26	0.68	3.29	0.67	3.22	0.70	1.60	.111	n.s.
6 責任感	3.07	0.84	3.08	0.85	3.06	0.84	0.32	.751	n.s.
7 ストレスに耐える力	2.78	0.89	2.79	0.88	2.77	0.92	0.21	.833	n.s.
8 創意工夫する力	2.64	0.82	2.72	0.80	2.55	0.83	3.44	.000	***
9 新しいことに挑戦する力	2.82	0.86	2.89	0.84	2.73	0.88	3.05	.002	**
10 自分の考えを伝える力	2.75	0.85	2.78	0.86	2.71	0.85	1.23	.219	n.s.
11 周りを観察し、配慮する力	3.11	0.75	3.12	0.73	3.10	0.77	0.35	.729	n.s.
12 倫理観	2.80	0.82	2.78	0.78	2.82	0.85	-0.78	.433	n.s.
13 自ら行動する力	2.85	0.85	2.93	0.84	2.76	0.86	3.14	.002	**
14 協調性	3.22	0.73	3.16	0.75	3.29	0.71	-2.92	.004	**
15 自制心	3.09	0.73	3.02	0.74	3.17	0.70	-3.34	.000	***
16 社会的マナー	3.33	0.67	3.33	0.67	3.34	0.67	-0.23	.816	n.s.

+p<.10 *p<.05 **p<.01 ***p<.001



図表 1-1-120 入学時の意欲と適性（全体 n=1092）

全体では、保育士適性の 14 項目（3～16）の中で、入学時に自分にあつたと思っている項目の上位は、「社会的マナー」、「人の気持ちに寄り添う力」、「人の気持ちを察する力」、下位は、「創意工夫する力」、「自分の考えを伝える力」、「ストレスに耐える力」であった。

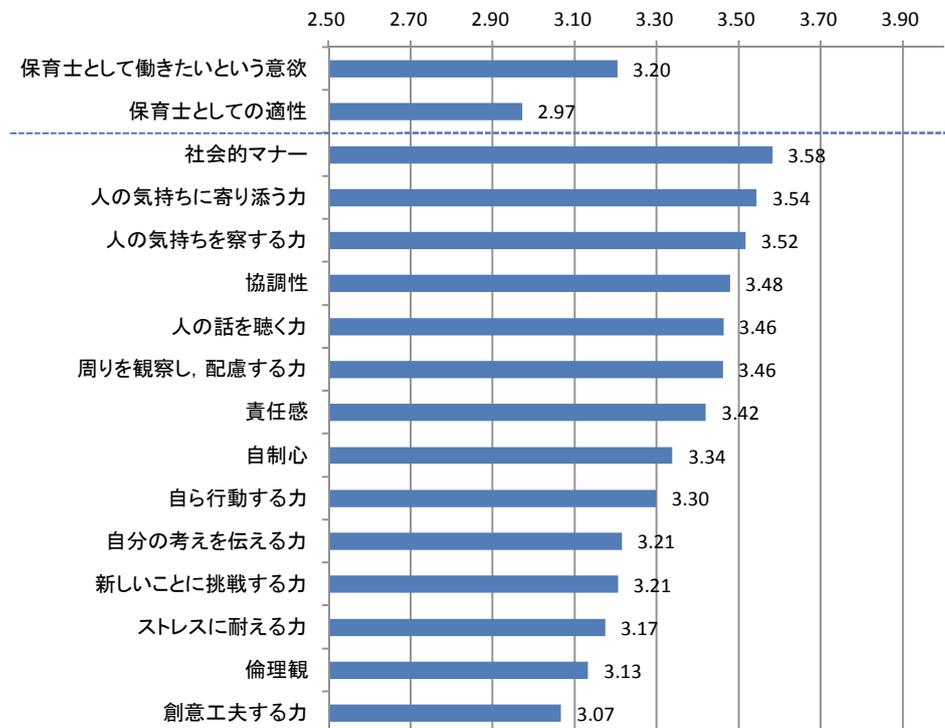
専門学校・短期大学と四年制大学の学生を比較すると、「保育士として働きたい意欲」「創意工夫する力」「新しいことに挑戦する力」「自ら行動する力」は専門学校・短期大学の学生の方が有意に高く、「協調性」「自制心」は四年制大学の学生の方が有意に高かった。

2) 実習後

図表 1-2-121 実習後意欲と適性に関する項目得点と学群による *t* 検定結果

項目	全体 n=1092		専門学校・短期大学 n=599		四年制大学 n=493		<i>t</i> 値	有意確率	有意水準
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差			
1 保育士として働きたいという意欲	3.20	0.89	3.26	0.84	3.13	0.94	2.42	.016	*
2 保育士としての適性	2.97	0.72	3.01	0.74	2.93	0.70	1.85	.065	+
3 人の話を聴く力	3.46	0.59	3.46	0.58	3.46	0.60	0.10	.919	<i>n.s.</i>
4 人の気持ちを察する力	3.52	0.59	3.52	0.59	3.51	0.59	0.43	.667	<i>n.s.</i>
5 人の気持ちに寄り添う力	3.54	0.58	3.54	0.59	3.55	0.57	-0.34	.732	<i>n.s.</i>
6 責任感	3.42	0.66	3.40	0.67	3.44	0.65	-0.94	.350	<i>n.s.</i>
7 ストレスに耐える力	3.17	0.79	3.19	0.78	3.16	0.80	0.52	.603	<i>n.s.</i>
8 創意工夫する力	3.07	0.75	3.11	0.73	3.01	0.76	2.08	.038	*
9 新しいことに挑戦する力	3.21	0.74	3.23	0.72	3.17	0.76	1.24	.214	<i>n.s.</i>
10 自分の考えを伝える力	3.21	0.71	3.23	0.70	3.19	0.71	0.83	.407	<i>n.s.</i>
11 周囲を観察し、配慮する力	3.46	0.62	3.44	0.63	3.48	0.61	-1.07	.286	<i>n.s.</i>
12 倫理観	3.13	0.71	3.08	0.69	3.19	0.74	-2.46	.014	*
13 自ら行動する力	3.30	0.69	3.33	0.68	3.26	0.69	1.66	.098	+
14 協調性	3.48	0.60	3.44	0.60	3.52	0.60	-2.26	.024	*
15 自制心	3.34	0.61	3.29	0.62	3.40	0.60	-2.82	.005	**
16 社会的マナー	3.58	0.54	3.57	0.54	3.59	0.54	-0.71	.479	<i>n.s.</i>

+*p*<.10 **p*<.05 ***p*<.01 ****p*<.001



図表 1-2-122 実習後の意欲と適性 (全体 n=1092)

全体では、保育士適性の14項目(3~16)の中で、実習後の今の自分に身につけていると思っ
ている項目の上位は、入学時と同様「社会的マナー」, 「人の気持ちに寄り添う力」, 「人の気持ち
を察する力」で、下位は、「創意工夫する力」, 「倫理観」, 「ストレスに耐える力」であった。

専門学校・短期大学と四年制大学の学生を比較すると、「保育士として働きたい意欲」「創意工
夫する力」は専門学校・短期大学の学生の方が有意に高く、「倫理観」「協調性」「自制心」は四
年制大学の学生の方が有意に高かった。

3) 実習を通じた成長

入学時と実習後の意欲、適性の各項目について比較したところ、「保育士として働きたいとい
う意欲」は、実習後の方が入学時よりも有意に低くなっており($t(1091)=.002, p<.05$), 意欲に関わ
る要因の検討が、今後必要であろう。

「保育士としての適性」に関する全ての項目で、入学時よりも実習後は有意に高くなっており、
成長を感じていることが示唆された。

成長感については、専門学校・短期大学と四年制大学の学生での大きな違いは見られなかった。

(2) 保育士としての適性に関する項目の分析

1) 保育士適性について

保育士適性の14項目(3~16)について、因子分析(最尤法, プロマックス回転)を行ったと
ころ、2因子が抽出された(図表 1-2-123)。第I因子は、気持ちを察する力、気持ちの寄り添う
力、など、人との関わり方に関する7項目から構成されたため、「対人力」と命名した。第II因
子は、挑戦する力、自分の考えを伝える力、自ら行動する力など、自ら働きかける力に関する7
項目から構成されたため、「協働力」と命名した。各下位尺度について Cronbach の α 係数を算
出した結果、いずれも十分な値が確認されたため、各下位尺度において加算平均得点を算出し、
各下位尺度得点とする。

図表 1-2-123 保育士適性の因子分析結果

	I	II
第I因子 対人力($\alpha=.866$)		
人の気持ちを察する力	.905	-.145
人の気持ちに寄り添う 力	.887	-.103
人の話を聴く力	.709	-.001
周りを観察, 配慮する 力	.569	.241
協調性	.502	.150
社会的マナー	.429	.181
自制心	.416	.286
第II因子 協働力($\alpha=.836$)		
新しいことに挑戦する 力	-.086	.796
自分の考えを伝える力	-.046	.779
自ら行動する力	.000	.753
創意工夫する力	.002	.655
ストレスに耐える力	.105	.451
倫理観	.199	.420
責任感	.305	.387
因子間相関行列	—	.631

2) 入学時

図表 1-2-124 入学時保育士適性 2 因子下位尺度得点と学群による *t* 検定結果

項目	全体 n=1092		専門学校・短期大 n=599		四年制大学 n=493		<i>t</i> 値	有意確率	有意水準
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差			
I 対人力	2.75	0.46	2.75	0.45	2.75	0.47	-0.07	.944	<i>n.s.</i>
II 協働力	2.82	0.60	2.85	0.60	2.77	0.60	2.13	.034	*

+*p*<.10 **p*<.05 ***p*<.01 ****p*<.001

入学時の保育士適性 2 因子について、専門学校・短期大学と四年制大学の学生を比較すると、「対人力」では差は見られなかったが、「協働力」は専門学校・短期大学の学生の方が有意に高かった。

3) 実習後

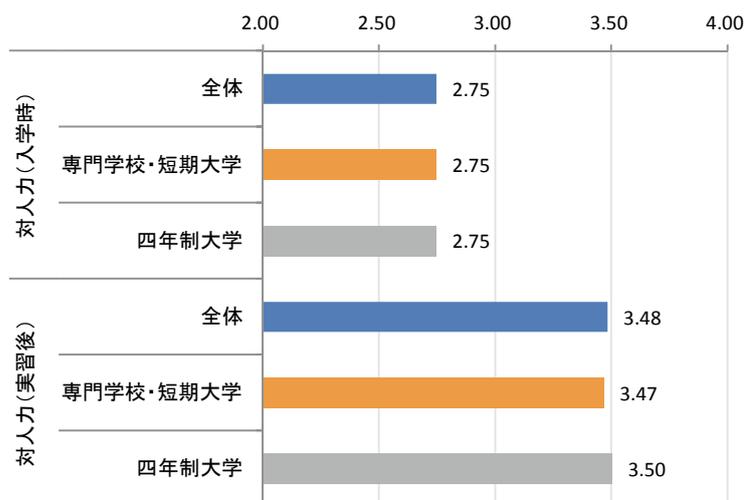
図表 1-2-125 実習後保育士適性 2 因子下位尺度得点と学群による *t* 検定結果

項目	全体 n=1092		専門学校・短期大 n=599		四年制大学 n=493		<i>t</i> 値	有意確率	有意水準
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差			
I 対人力	3.48	0.46	3.47	0.45	3.50	0.46	-1.26	.208	<i>n.s.</i>
II 協働力	3.22	0.52	3.22	0.52	3.20	0.52	0.61	.544	<i>n.s.</i>

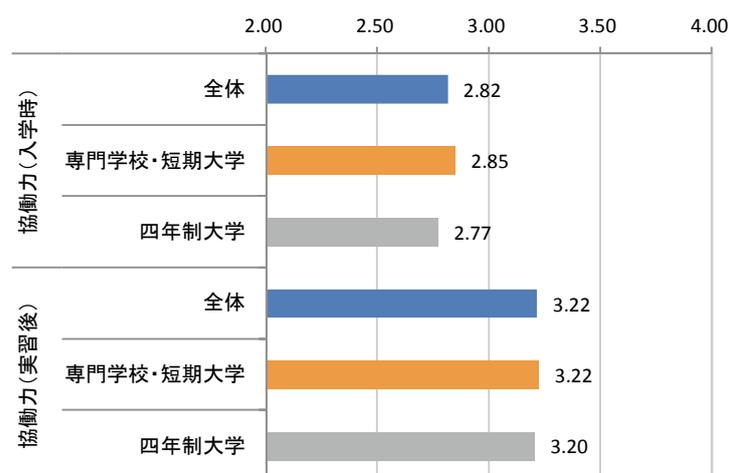
+*p*<.10 **p*<.05 ***p*<.01 ****p*<.001

実習後の保育士適性 2 因子について、専門学校・短期大学と四年制大学の学生に、差は見られなかった。

4) 実習を通じた成長



図表 1-2-126 実習を通じた成長（対人力）



図表 1-2-127 実習を通じた成長（協働力）

入学時と実習後の保育士適性 2 因子について比較したところ、「対人力」($t(261)=-66.29, p<.001$), 「協働力」($t(261)=-28.32, p<.001$)ともに、実習後に有意に上昇しており、保育士適性の 2 因子いずれも、入学時よりも実習後は有意に高くなっており、成長を感じていることが明らかとなった。専門学校・短期大学と四年制大学もそれぞれ同様の傾向であった。

(3) 意欲・適性認知と保育士適性因子の関連についての分析

「保育士として働きたいという意欲」と「保育士としての適性」の 2 項目と、保育士適性 2 因子の 相関をみる。

図表 1-2-128 入学時の意欲・適性と保育士適性 2 因子の相関係数 (n=1092)

	保育士としての適性	I 対人力	II 協働力
保育士として働きたいという意欲	.373 **	.229 **	.173 **
適性		.447 **	.510 **
I 対人力			.643 **

**p<.01

図表 1-2-129 実習後の意欲・適性と保育士適性 2 因子の相関係数 (n=1092)

	保育士としての適性	I 対人力	II 協働力
保育士として働きたいという意欲	.568 **	.281 **	.306 **
適性		.497 **	.549 **
I 対人力			.711 **

**p<.01

入学時、実習後それぞれの、「保育士として働きたいという意欲」は保育士適性の「対人力」「協働力」と有意な正の相関見られた。同様に「保育士としての適性」も保育士適性 2 因子と有意な正の高い相関関係があった。本調査で得られた保育士適性 2 因子について一定の妥当性が認められたといえる。

Ⅲ. 保育士として働きたい意欲と各設問項目についての検討

1. 保育士として働きたい意欲の変化について

「保育士として働きたいという意欲」について、入学時と実習後の回答をクロス集計の結果を図表 1-3-1 に示す。意欲の変化に注目して、入学時よりも実習後に選択している程度が上昇している学生を意欲上昇群(222 人)、程度が低下している学生を意欲低下群(262 人)として分類した。第Ⅲ章では、意欲の上昇・低下群による、実習経験の違いについて考察を行う。

図表 1-3-1 保育士として働きたい意欲 (人数)

		実習後				合計
		ほとんどない	あまりない	ややある	十分ある	
入学時	ほとんどない	20	7	9	8	44
	あまりない	11	39	47	17	114
	ややある	21	47	211	135	414
	十分ある	15	48	120	337	520
	合計	67	141	387	497	1092

 意欲上昇群
 意欲低下群

2. 保育士として働きたい意欲と実習における学びについて

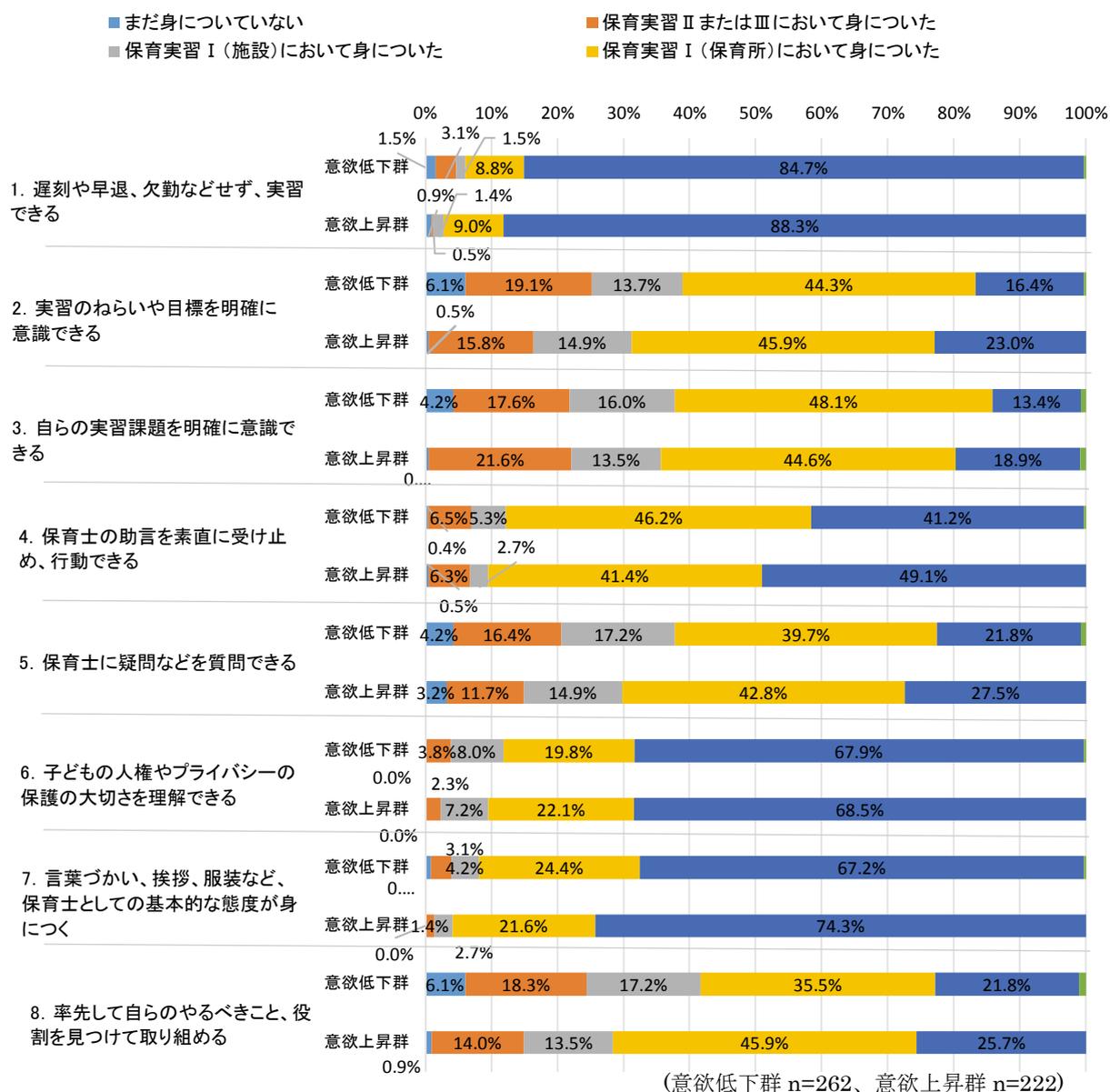
(1) 実習態度に関する項目

図表 1-3-2 「実習態度」に関する項目

項目		まだ身についていない	保育実習ⅡまたはⅢにおいて身についた	保育実習Ⅰ（施設）において身についた	保育実習Ⅰ（保育所）において身についた	実習が始まる前までに身についた	無回答	
実習態度	1. 遅刻や早退、欠勤などせず、実習できる	意欲低下群	1.5%	3.1%	1.5%	8.8%	84.7%	.4%
		意欲上昇群	.9%	.5%	1.4%	9.0%	88.3%	0.0%
	2. 実習のねらいや目標を明確に意識できる	意欲低下群	6.1%	19.1%	13.7%	44.3%	16.4%	.4%
		意欲上昇群	.5%	15.8%	14.9%	45.9%	23.0%	0.0%
	3. 自らの実習課題を明確に意識できる	意欲低下群	4.2%	17.6%	16.0%	48.1%	13.4%	.8%
		意欲上昇群	.5%	21.6%	13.5%	44.6%	18.9%	.9%
	4. 保育士の助言を素直に受け止め、行動できる	意欲低下群	.4%	6.5%	5.3%	46.2%	41.2%	.4%
		意欲上昇群	.5%	6.3%	2.7%	41.4%	49.1%	0.0%
	5. 保育士に疑問などを質問できる	意欲低下群	4.2%	16.4%	17.2%	39.7%	21.8%	.8%
		意欲上昇群	3.2%	11.7%	14.9%	42.8%	27.5%	0.0%

6. 子どもの人権やプライバシーの保護の大切さを理解できる	意欲低下群	0.0%	3.8%	8.0%	19.8%	67.9%	.4%
	意欲上昇群	0.0%	2.3%	7.2%	22.1%	68.5%	0.0%
7. 言葉づかい、挨拶、服装など、保育士としての基本的な態度が身につく	意欲低下群	.8%	3.1%	4.2%	24.4%	67.2%	.4%
	意欲上昇群	0.0%	1.4%	2.7%	21.6%	74.3%	0.0%
8. 率先して自らのやるべきこと、役割を見つけて取り組める	意欲低下群	6.1%	18.3%	17.2%	35.5%	21.8%	1.1%
	意欲上昇群	.9%	14.0%	13.5%	45.9%	25.7%	0.0%

(意欲低下群 n=262、意欲上昇群 n=222)



図表 1-3-3 「実習態度」に関する項目

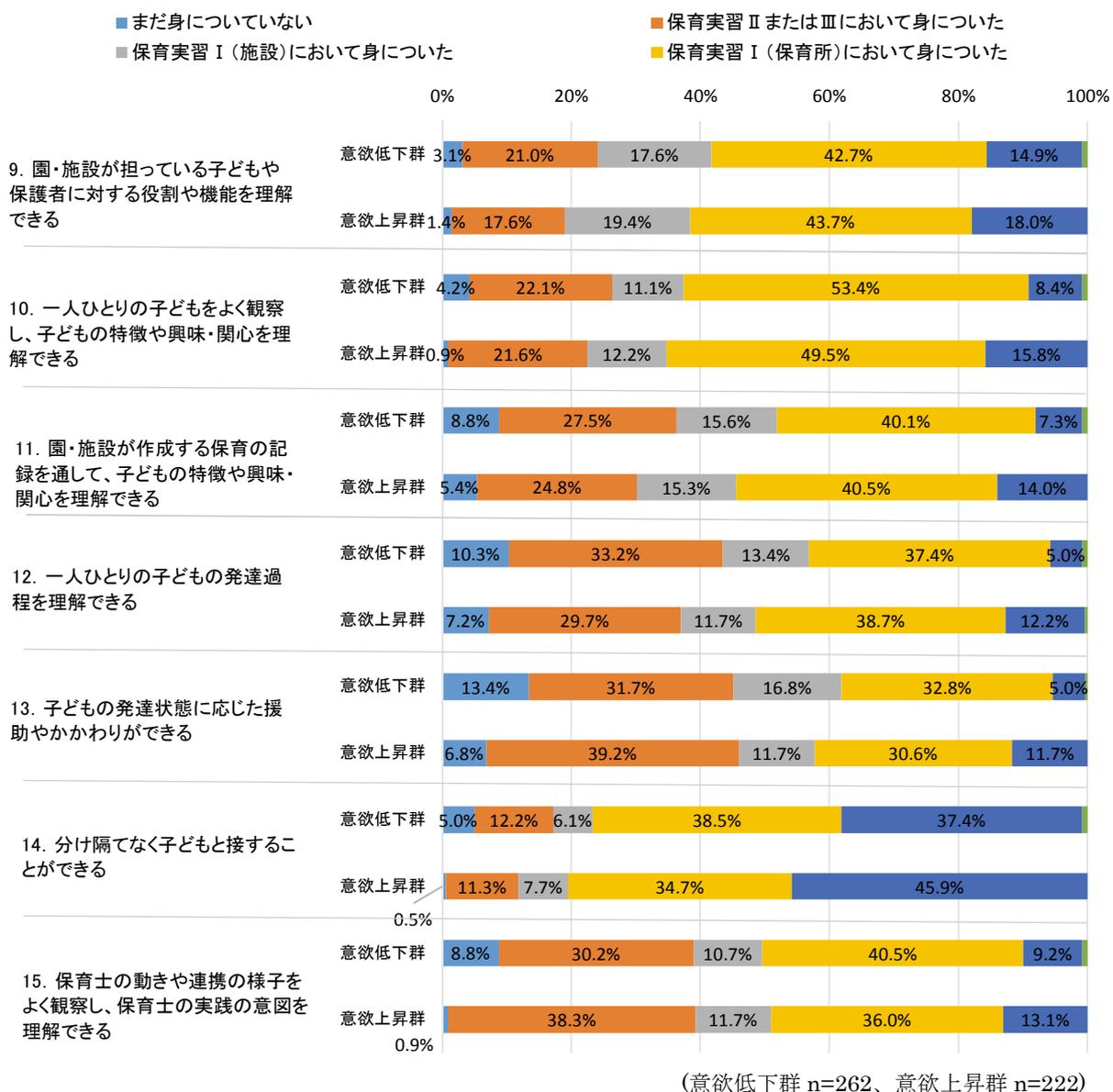
意欲上昇群では、「5.保育士に疑問などを質問できる」以外の項目で「まだ身についていない」と回答した学生が1%以下であり、非常に値が低かった。他方、意欲低下群では、「2. 実習のねらいや目標を明確に意識できる」「8. 率先して自らのやるべきこと、役割を見つけて取り組める」で、「まだ身についていない」と回答した者が5%と超え、群間の違いが見られた。

(2) 園・施設の役割・子どもの理解に関する項目

図表 1-3-4 「園・施設の役割・子どもの理解」に関する項目

項目		意欲低下群	意欲上昇群	まだ身についていない	保育実習ⅡまたはⅢにおいて身についた	保育実習Ⅰ（施設）において身についた	保育実習Ⅰ（保育所）において身についた	実習が始まる前までに身についた	無回答
園・施設の役割・子どもの理解	9. 園・施設が担っている子どもや保護者に対する役割や機能を理解できる	意欲低下群	3.1%	21.0%	17.6%	42.7%	14.9%	.8%	
		意欲上昇群	1.4%	17.6%	19.4%	43.7%	18.0%	0.0%	
	10. 一人ひとりの子どもをよく観察し、子どもの特徴や興味・関心を理解できる	意欲低下群	4.2%	22.1%	11.1%	53.4%	8.4%	.8%	
		意欲上昇群	.9%	21.6%	12.2%	49.5%	15.8%	0.0%	
	11. 園・施設が作成する保育の記録を通して、子どもの特徴や興味・関心を理解できる	意欲低下群	8.8%	27.5%	15.6%	40.1%	7.3%	.8%	
		意欲上昇群	5.4%	24.8%	15.3%	40.5%	14.0%	0.0%	
	12. 一人ひとりの子どもの発達過程を理解できる	意欲低下群	10.3%	33.2%	13.4%	37.4%	5.0%	.8%	
		意欲上昇群	7.2%	29.7%	11.7%	38.7%	12.2%	.5%	
	13. 子どもの発達状態に応じた援助やかかわりができる	意欲低下群	13.4%	31.7%	16.8%	32.8%	5.0%	.4%	
		意欲上昇群	6.8%	39.2%	11.7%	30.6%	11.7%	0.0%	
	14. 分け隔てなく子どもと接することができる	意欲低下群	5.0%	12.2%	6.1%	38.5%	37.4%	.8%	
		意欲上昇群	.5%	11.3%	7.7%	34.7%	45.9%	0.0%	
	15. 保育士の動きや連携の様子をよく観察し、保育士の実践の意図を理解できる	意欲低下群	8.8%	30.2%	10.7%	40.5%	9.2%	.8%	
		意欲上昇群	.9%	38.3%	11.7%	36.0%	13.1%	0.0%	

(意欲低下群 n=262、意欲上昇群 n=222)



図表 1-3-5 「園・施設の役割・子どもの理解」に関する項目

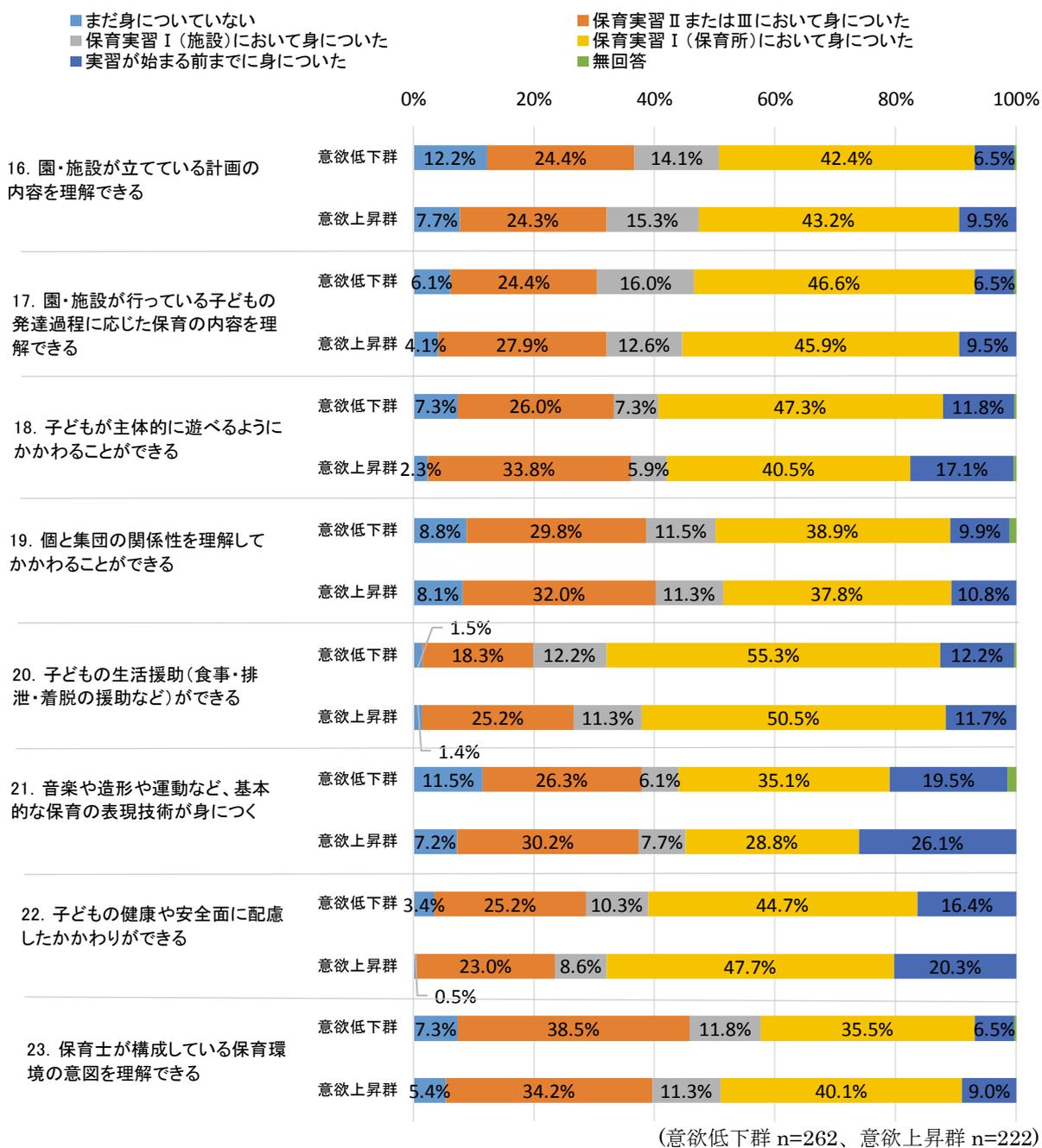
意欲上昇群では、「10. 一人ひとりの子どもをよく観察し、子どもの特徴や興味・関心を理解できる」「14. 分け隔てなく子どもと接することができる」「15. 保育士の動きや連携の様子をよく観察し、保育士の実践の意図を理解できる」で、「まだ身についていない」と回答した学生が1%以下であり、非常に値が低かった。他方、意欲低下群では、「12. 一人ひとりの子どもの発達過程を理解できる」「13. 子どもの発達状態に応じた援助やかかわりができる」といった発達の理解や関わりに関する項目で、「まだ身についていない」と回答した学生が10%を超えていた。

(3) 保育内容・環境に関する項目

図表 1-3-6 「保育内容・環境」に関する項目

項目		意欲低下群	まだ身につけていない	保育実習ⅡまたはⅢにおいて身につけた	保育実習Ⅰ（施設）において身につけた	保育実習Ⅰ（保育所）において身につけた	実習が始まる前までに身につけた	無回答
保育内容・環境	16. 園・施設が立てている計画の内容を理解できる	意欲低下群	12.2%	24.4%	14.1%	42.4%	6.5%	.4%
		意欲上昇群	7.7%	24.3%	15.3%	43.2%	9.5%	0.0%
	17. 園・施設が行っている子どもの発達過程に応じた保育の内容を理解できる	意欲低下群	6.1%	24.4%	16.0%	46.6%	6.5%	.4%
		意欲上昇群	4.1%	27.9%	12.6%	45.9%	9.5%	0.0%
	18. 子どもが主体的に遊べるようにかかわることができる	意欲低下群	7.3%	26.0%	7.3%	47.3%	11.8%	.4%
		意欲上昇群	2.3%	33.8%	5.9%	40.5%	17.1%	.5%
	19. 個と集団の関係性を理解してかかわることができる	意欲低下群	8.8%	29.8%	11.5%	38.9%	9.9%	1.1%
		意欲上昇群	8.1%	32.0%	11.3%	37.8%	10.8%	0.0%
	20. 子どもの生活援助（食事・排泄・着脱の援助など）ができる	意欲低下群	1.5%	18.3%	12.2%	55.3%	12.2%	.4%
		意欲上昇群	1.4%	25.2%	11.3%	50.5%	11.7%	0.0%
	21. 音楽や造形や運動など、基本的な保育の表現技術が身につく	意欲低下群	11.5%	26.3%	6.1%	35.1%	19.5%	1.5%
		意欲上昇群	7.2%	30.2%	7.7%	28.8%	26.1%	0.0%
	22. 子どもの健康や安全面に配慮したかわりができる	意欲低下群	3.4%	25.2%	10.3%	44.7%	16.4%	0.0%
		意欲上昇群	.5%	23.0%	8.6%	47.7%	20.3%	0.0%
	23. 保育士が構成している保育環境の意図を理解できる	意欲低下群	7.3%	38.5%	11.8%	35.5%	6.5%	.4%
		意欲上昇群	5.4%	34.2%	11.3%	40.1%	9.0%	0.0%

(意欲低下群 n=262、意欲上昇群 n=222)



図表 1-3-7 「保育内容・環境」に関する項目

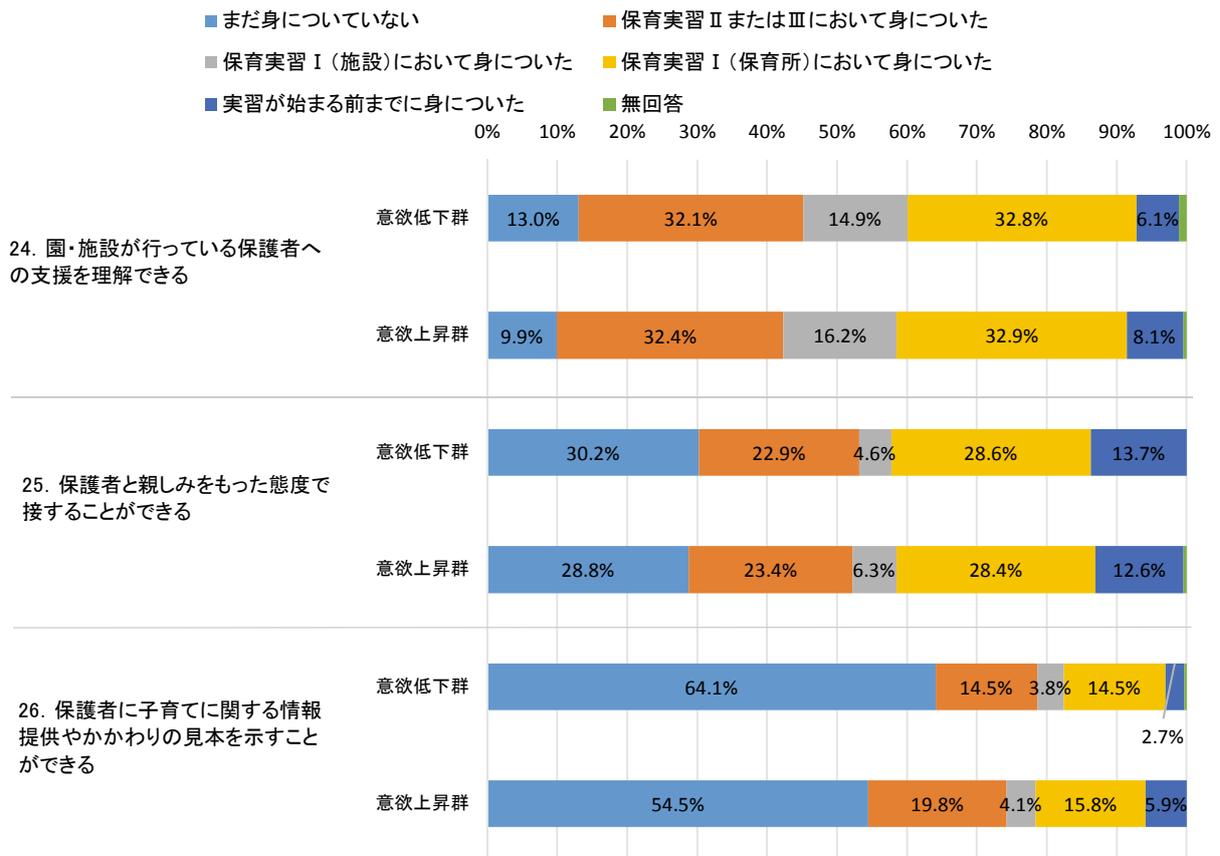
意欲上昇群では、「18. 子どもが主体的に遊べるようにかかわることができる」「22. 子どもの健康や安全面に配慮したかわりができる」で「まだ身についていない」と回答した学生が 5%以下であり、意欲低下群と比べて差が見られた。

(4) 保護者支援に関する項目

図表 1-3-8 「保護者支援」に関する項目

項目		意欲低下群	意欲上昇群	まだ身につけていない	保育実習 II または III において身についた	保育実習 I (施設) において身についた	保育実習 I (保育所) において身についた	実習が始まる前までに身についた	無回答
保護者支援	24. 園・施設が行っている保護者への支援を理解できる	意欲低下群	13.0%	32.1%	14.9%	32.8%	6.1%	1.1%	
		意欲上昇群	9.9%	32.4%	16.2%	32.9%	8.1%	.5%	
	25. 保護者と親しみをもった態度で接することができる	意欲低下群	30.2%	22.9%	4.6%	28.6%	13.7%	0.0%	
		意欲上昇群	28.8%	23.4%	6.3%	28.4%	12.6%	.5%	
	26. 保護者に子育てに関する情報提供やかかわりの見本を示すことができる	意欲低下群	64.1%	14.5%	3.8%	14.5%	2.7%	.4%	
		意欲上昇群	54.5%	19.8%	4.1%	15.8%	5.9%	0.0%	

(意欲低下群 n=262、意欲上昇群 n=222)



(意欲低下群 n=262、意欲上昇群 n=222)

図表 1-3-9 「保護者支援」に関する項目

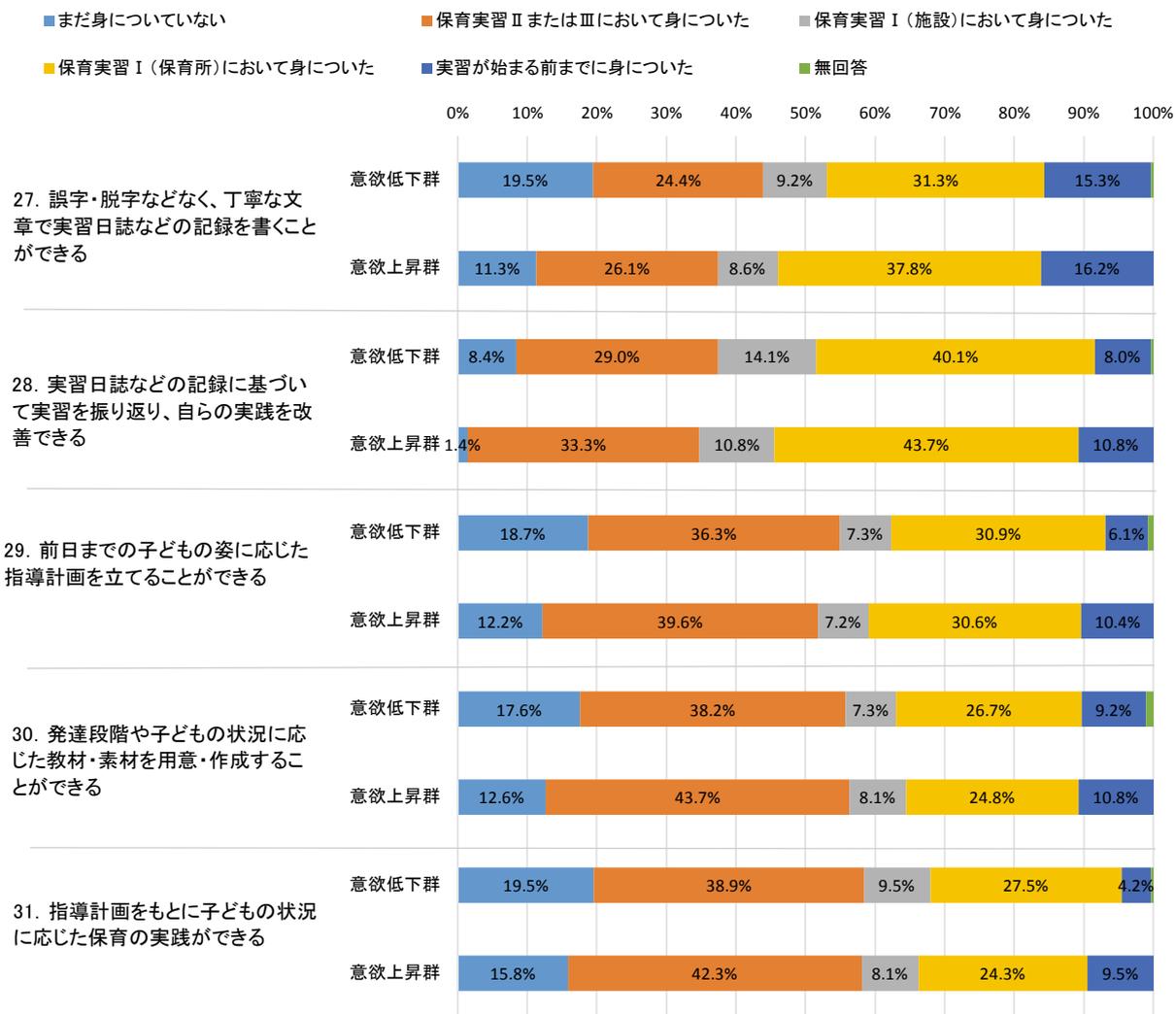
特に差が見られたのは、「26. 保護者に子育てに関する情報提供やかかわりの見本を示すことができる」といった保護者へ情報提供や行動見本を示すといった項目であった。意欲低下群の方が、「まだ身についていない」と回答した学生が10%程度多かった。

(5) 保育の計画・記録に関する項目

図表 1-3-10 「保育の計画・記録」に関する項目

項目		まだ身についていない	保育実習ⅡまたはⅢにおいて身についた	保育実習Ⅰ（施設）において身についた	保育実習Ⅰ（保育所）において身についた	実習が始まる前までに身についた	無回答	
保育の計画・記録	27. 誤字・脱字などなく、丁寧な文章で実習日誌などの記録を書くことができる	意欲低下群	19.5%	24.4%	9.2%	31.3%	15.3%	.4%
		意欲上昇群	11.3%	26.1%	8.6%	37.8%	16.2%	0.0%
	28. 実習日誌などの記録に基づいて実習を振り返り、自らの実践を改善できる	意欲低下群	8.4%	29.0%	14.1%	40.1%	8.0%	.4%
		意欲上昇群	1.4%	33.3%	10.8%	43.7%	10.8%	0.0%
	29. 前日までの子どもの姿に応じた指導計画を立てることができる	意欲低下群	18.7%	36.3%	7.3%	30.9%	6.1%	.8%
		意欲上昇群	12.2%	39.6%	7.2%	30.6%	10.4%	0.0%
	30. 発達段階や子どもの状況に応じた教材・素材を用意・作成することができる	意欲低下群	17.6%	38.2%	7.3%	26.7%	9.2%	1.1%
		意欲上昇群	12.6%	43.7%	8.1%	24.8%	10.8%	0.0%
	31. 指導計画をもとに子どもの状況に応じた保育の実践ができる	意欲低下群	19.5%	38.9%	9.5%	27.5%	4.2%	.4%
		意欲上昇群	15.8%	42.3%	8.1%	24.3%	9.5%	0.0%

(意欲低下群 n=262、意欲上昇群 n=222)



(意欲低下群 n=262、意欲上昇群 n=222)

図表 1-3-11 「保育の計画・記録」に関する項目

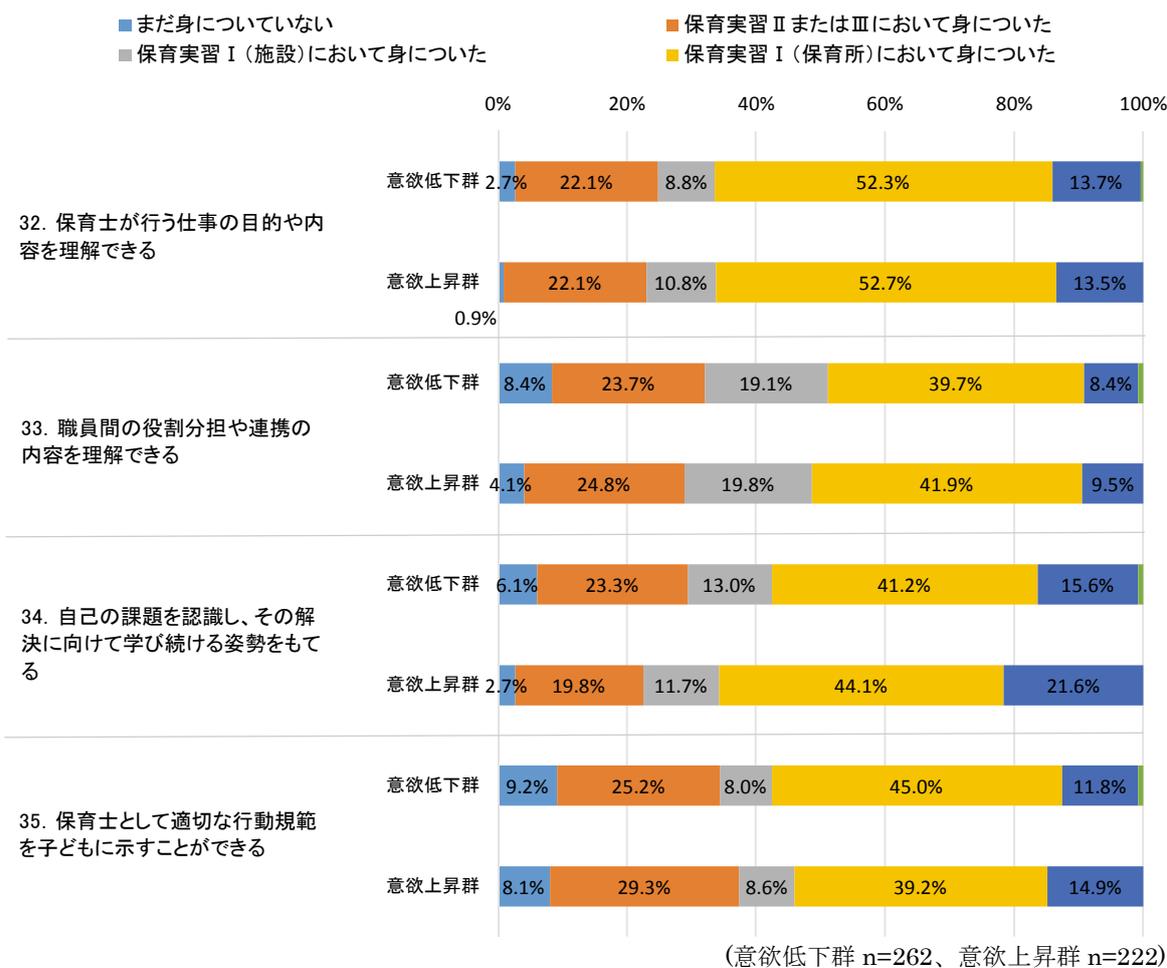
特に差が見られたのは、「27. 誤字・脱字などなく、丁寧な文章で実習日誌などの記録を書くことができる」「28. 実習日誌などの記録に基づいて実習を振り返り、自らの実践を改善できる」といった実習日誌に関する項目であった。意欲低下群の方が、「まだ身についていない」と回答した学生が顕著に多かった。

(6) 保育士役割に関する項目

図表 1-3-12 「保育士役割」に関する項目

項目			まだ身についていない	保育実習 II または III において身についた	保育実習 I (施設) において身についた	保育実習 I (保育所) において身についた	実習が始まる前までに身についた	無回答
保育士役割	32. 保育士が行う仕事の目的や内容を理解できる	意欲低下群	2.7%	22.1%	8.8%	52.3%	13.7%	.4%
		意欲上昇群	.9%	22.1%	10.8%	52.7%	13.5%	0.0%
	33. 職員間の役割分担や連携の内容を理解できる	意欲低下群	8.4%	23.7%	19.1%	39.7%	8.4%	.8%
		意欲上昇群	4.1%	24.8%	19.8%	41.9%	9.5%	0.0%
	34. 自己の課題を認識し、その解決に向けて学び続ける姿勢をもてる	意欲低下群	6.1%	23.3%	13.0%	41.2%	15.6%	.8%
		意欲上昇群	2.7%	19.8%	11.7%	44.1%	21.6%	0.0%
35. 保育士として適切な行動規範を子どもに示すことができる	意欲低下群	9.2%	25.2%	8.0%	45.0%	11.8%	.8%	
	意欲上昇群	8.1%	29.3%	8.6%	39.2%	14.9%	0.0%	

(意欲低下群 n=262、意欲上昇群 n=222)



図表 1-3-13 「保育士役割」に関する項目

保育士役割に関する項目は意欲低下群、上昇群で類似した回答傾向を示していた。

3. 保育士として働きたい意欲と事前事後指導について

保育実習 I（保育所）の事前事後指導では、保育士として働きたいという意欲が入学時よりも上昇している学生は、意欲が低下した学生よりも、「実習の自己課題の立て方」「子どもや保育士の観察のポイント」「実習日誌の書き方」について理解できたという認識をより持っていることがわかった。また、自己の「実習目標と照らし合わせた」また「園の評価と自己評価」からの振り返り・反省をしたうえで「自己課題の整理や明確化」をすることができたという認識をより持っていた。

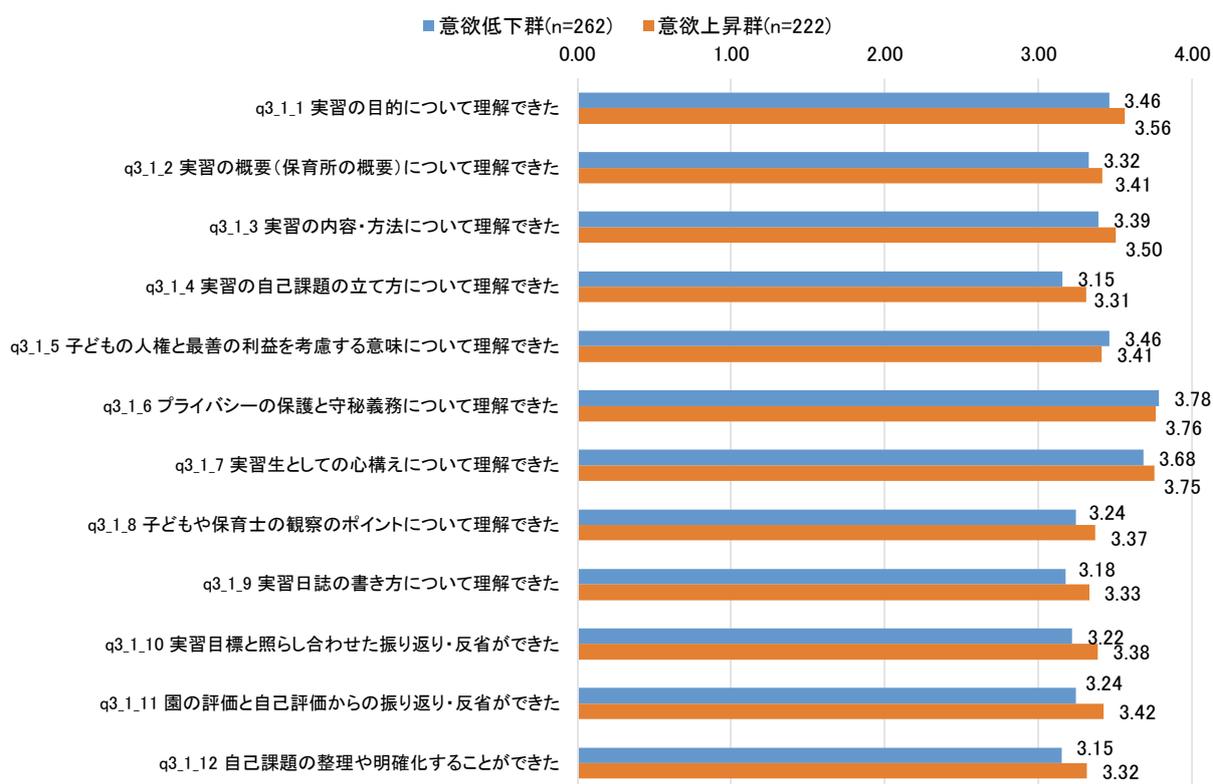
(1) 保育実習 I（保育所）における実習前後の授業について

図表 1-3-14 保育実習 I（保育所）における実習前後の授業について

意欲上昇低下による各項目の t 検定の結果（上段：平均値 下段：標準偏差）

	項目内容	低下群 (222 人)	上昇群 (262 人)	t 値	有意水準
q3_1_1	実習の目的について理解できた	3.46	3.56	-1.86	<i>n.s.</i>
		.62	.57		
q3_1_2	実習の概要（保育所の概要）について理解できた	3.32	3.41	-1.66	<i>n.s.</i>
		.59	.60		
q3_1_3	実習の内容・方法について理解できた	3.39	3.50	-1.93	<i>n.s.</i>
		.64	.62		
q3_1_4	実習の自己課題の立て方について理解できた	3.15	3.31	-2.53	*
		.69	.66		
q3_1_5	子どもの人権と最善の利益を考慮する意味について理解できた	3.46	3.41	.81	<i>n.s.</i>
		.70	.70		
q3_1_6	プライバシーの保護と守秘義務について理解できた	3.78	3.76	.50	<i>n.s.</i>
		.47	.47		
q3_1_7	実習生としての心構えについて理解できた	3.68	3.75	-1.44	<i>n.s.</i>
		.57	.49		
q3_1_8	子どもや保育士の観察のポイントについて理解できた	3.24	3.37	-2.00	*
		.73	.65		
q3_1_9	実習日誌の書き方について理解できた	3.18	3.33	-2.07	*
		.85	.75		
q3_1_10	実習目標と照らし合わせた振り返り・反省ができた	3.22	3.38	-2.60	*
		.76	.63		
q3_1_11	園の評価と自己評価からの振り返り・反省ができた	3.24	3.42	-2.93	**
		.73	.62		
q3_1_12	自己課題の整理や明確化することができた	3.15	3.32	-2.71	**
		.71	.63		

* $p<.05$, ** $p<.01$



図表 1-3-15 意欲の変化別にみた保育実習 I（保育所）の実習前後の授業について

保育士として働きたいと意欲の変化で保育実習 I（施設）の実習前後の授業についてみると、統計的な有意差はみられなかったが保育実習 I（保育所）と同じように、「実習の自己課題の立て方」「子どもや保育士の観察のポイント」「実習日誌の書き方」について理解できたという認識を持つ傾向にあった。また、自己の「実習目標と照らし合わせた」また「園の評価と自己評価」からの振り返り・反省をしたうえで「自己課題の整理や明確化」をすることができたという認識をより持っていた。

（２）保育実習 I（施設）における実習前後の授業について

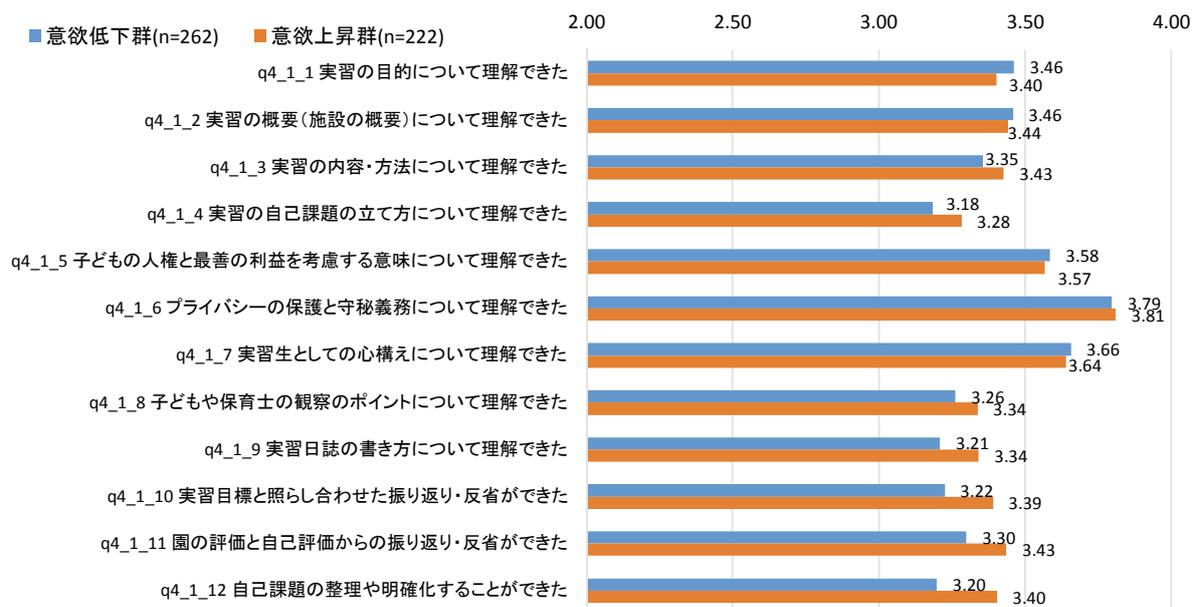
図表 1-3-16 保育実習 I（施設）における実習前後の授業について

意欲上昇低下による各項目の t 検定の結果（上段：平均値 下段：標準偏差）

	項目内容	低下群 (222 人)	上昇群 (262 人)	t 値	有意水準
q4_1_1	実習の目的について理解できた	3.46 .65	3.40 .64	1.03	<i>n.s.</i>
q4_1_2	実習の概要（施設の概要）について理解できた	3.46 .61	3.44 .63	.29	<i>n.s.</i>
q4_1_3	実習の内容・方法について理解できた	3.35 .65	3.43 .66	-1.20	<i>n.s.</i>
q4_1_4	実習の自己課題の立て方について理解できた	3.18 .73	3.28 .66	-1.54	<i>n.s.</i>

q4_1_5	子どもの人権と最善の利益を考慮する意味について理解できた	3.58	3.57	.30	n.s.
		.62	.63		
q4_1_6	プライバシーの保護と守秘義務について理解できた	3.79	3.81	-.36	n.s.
		.46	.42		
q4_1_7	実習生としての心構えについて理解できた	3.66	3.64	.34	n.s.
		.56	.54		
q4_1_8	子どもや保育士の観察のポイントについて理解できた	3.26	3.34	-1.09	n.s.
		.78	.75		
q4_1_9	実習日誌の書き方について理解できた	3.21	3.34	-1.81	n.s.
		.81	.77		
q4_1_10	実習目標と照らし合わせた振り返り・反省ができた	3.22	3.39	-2.62	**
		.72	.65		
q4_1_11	園の評価と自己評価からの振り返り・反省ができた	3.30	3.43	-2.28	*
		.69	.62		
q4_1_12	自己課題の整理や明確化することができた	3.20	3.40	-3.23	**
		.75	.63		

* $p<.05$, ** $p<.01$



図表 1-3-17 意欲の変化別にみた保育実習Ⅰ(施設)の実習前後の授業について

保育実習ⅡまたはⅢの実習前後の授業については、保育士として働く意欲高低によって異なる項目が多くあった。実習前では「保育の表現技術を活かした保育実践について理解できた」という項目でもっとも違いがみられた。

次いで、「保育・支援の全体計画に基づく具体的な計画と実践について」「保育・支援の計画の立て方について(指導案作成について)」において保育士として働く意欲が高くなっていった学生の方が理解できたという認識をより持っていた。また、意欲が高くなっていった学生は「実習以外の教科の内容を実習に結びつけて保育・支援を考えることができる」ようになり、保育学生としてではあるが「観察、記録、自己評価に基づく保育・支援の改善について理解できた」「保育士の専門性

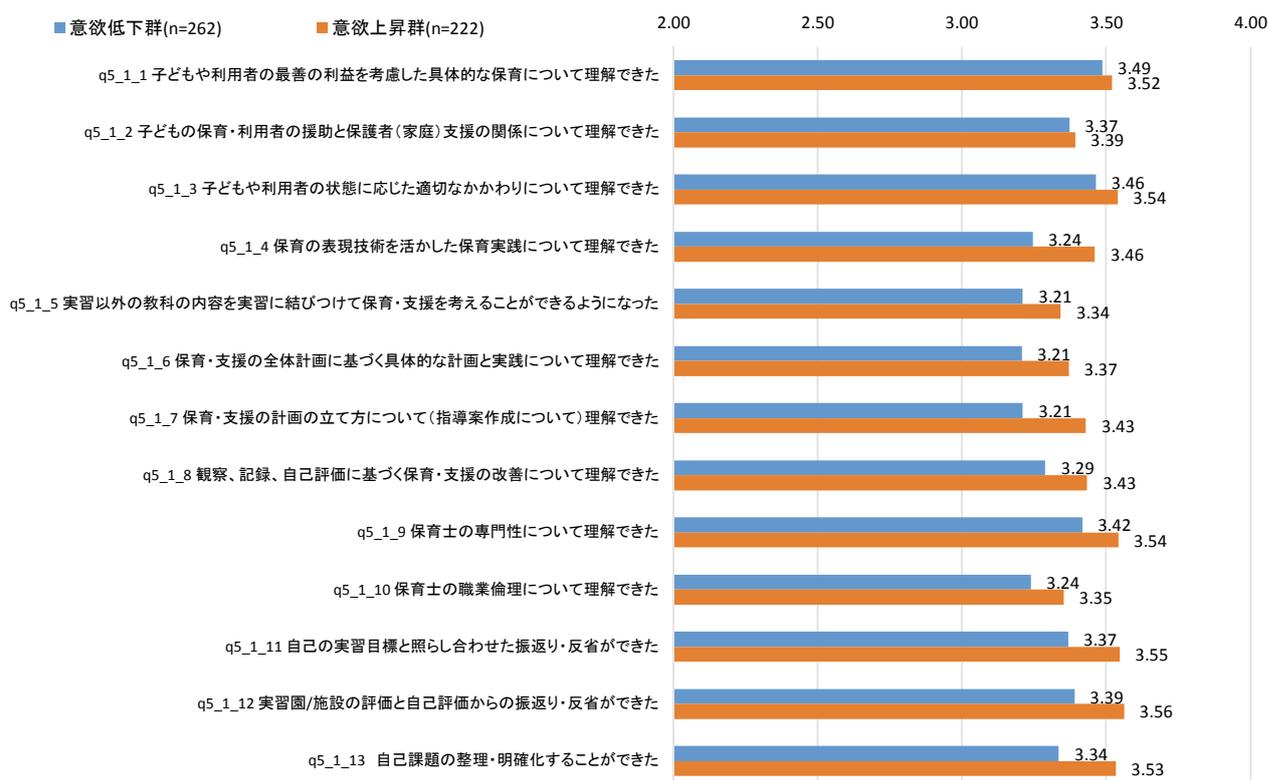
について理解できた」という認識をより持っていた。

(3) 保育実習ⅡまたはⅢにおける実習前後の授業について

図表 1-3-18 保育実習ⅡまたはⅢにおける実習前後の授業について
意欲上昇低下による各項目の t 検定の結果 (上段：平均値 下段：標準偏差)

	項目内容	低下群 (222人)	上昇群 (262人)	t 値	有意水準
q5_1_1	子どもや利用者の最善の利益を考慮した具体的な保育について理解できた	3.49 .57	3.52 .52	-.65	<i>n.s.</i>
q5_1_2	子どもの保育・利用者の援助と保護者(家庭)支援の関係について理解できた	3.37 .65	3.39 .60	-.36	<i>n.s.</i>
q5_1_3	子どもや利用者の状態に応じた適切ななかかわりについて理解できた	3.46 .58	3.54 .53	-1.48	<i>n.s.</i>
q5_1_4	保育の表現技術を活かした保育実践について理解できた	3.24 .73	3.46 .60	-3.51	***
q5_1_5	実習以外の教科の内容を実習に結びつけて保育・支援を考えることができたようになった	3.21 .75	3.34 .70	-1.98	*
q5_1_6	保育・支援の全体計画に基づく具体的な計画と実践について理解できた	3.21 .67	3.37 .62	-2.78	**
q5_1_7	保育・支援の計画の立て方について(指導案作成について)理解できた	3.21 .77	3.43 .67	-3.29	**
q5_1_8	観察、記録、自己評価に基づく保育・支援の改善について理解できた	3.29 .67	3.43 .59	-2.50	*
q5_1_9	保育士の専門性について理解できた	3.42 .69	3.54 .57	-2.19	*
q5_1_10	保育士の職業倫理について理解できた	3.24 .71	3.35 .63	-1.85	<i>n.s.</i>
q5_1_11	自己の実習目標と照らし合わせた振り返り・反省ができた	3.37 .66	3.55 .56	-3.23	**
q5_1_12	実習園/施設の評価と自己評価からの振り返り・反省ができた	3.39 .66	3.56 .54	-3.14	**
q5_1_13	自己課題の整理・明確化することができた	3.34 .69	3.53 .54	-3.50	**

* $p<.05$, ** $p<.01$



図表 1-3-19 意欲の変化別にみた保育実習ⅡまたはⅢの実習前後の授業について

4. 保育士として働きたい意欲と実習日誌について

(1) 保育実習Ⅰ（保育所）における実習日誌の満足度・負担感

図表 1-3-20

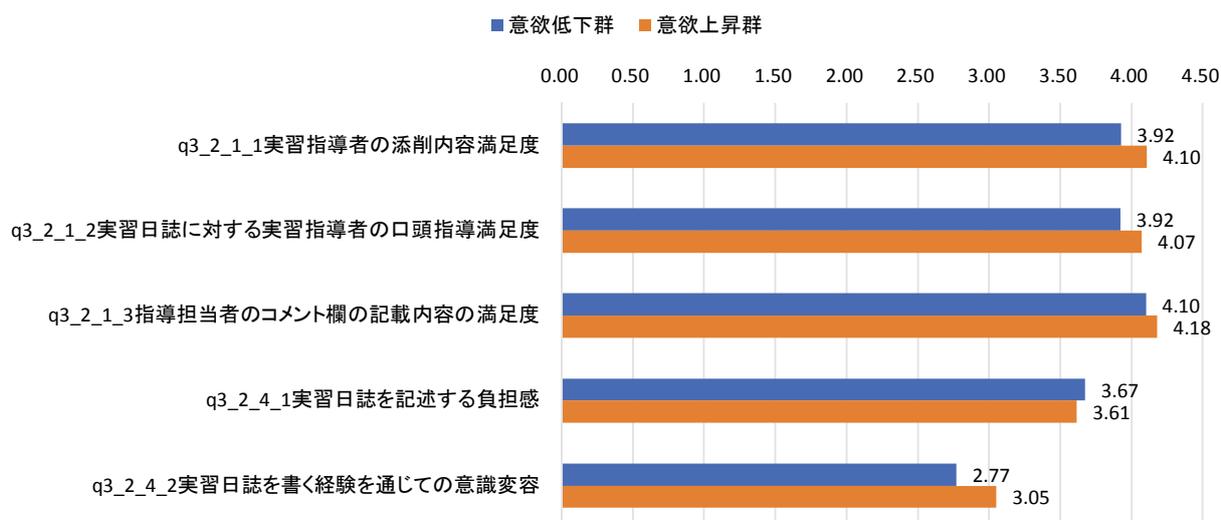
保育実習Ⅰ（保育所）における実習日誌の満足度・負担感 意欲上昇群低下群による各項目の t 検定結果

質問番号	質問項目	群	度数	平均値	標準偏差	t 値	有意確率	有意水準
q3_2_1_1	実習指導者の添削内容は満足のいくものでしたか	意欲低下群	262	3.92	0.87	-2.50	0.01	**
		意欲上昇群	222	4.10	0.69	-2.54		
q3_2_1_2	実習日誌の記述に対して実習指導者の口頭における指導内容は満足のいくものでしたか	意欲低下群	262	3.92	0.83	-2.02	0.58	n.s.
		意欲上昇群	222	4.07	0.77	-2.03		
q3_2_1_3	指導担当者のコメント欄の記載内容は、満足のいくものでしたか	意欲低下群	262	4.10	0.71	-1.21	0.67	n.s.
		意欲上昇群	222	4.18	0.67	-1.21		
q3_2_4_1	実習日誌を書くことに対して負担に思いましたか	意欲低下群	262	3.67	0.55	1.16	0.11	n.s.
		意欲上昇群	222	3.61	0.57	1.16		
q3_2_4_2	実習日誌を書く経験を通じて意識が変わったり、学びが深まったりしましたか	意欲低下群	262	2.77	0.73	-4.45	0.00	**
		意欲上昇群	222	3.05	0.65	-4.50		

q3_2_1_1~3：最小値 1.00，最大値 5.00

* $p < .05$ ** $p < .01$

q3_2_4_1~2：最小値 1.00，最大値 4.00



図表 1-3-21 【保育実習 I 保育所（意欲高低群別）】 実習日誌

保育実習 I（保育所）において意欲上昇群の学生は、意欲低下群の学生よりも実習日誌の指導の満足度や日誌を書いた経験による意識変容がすべての項目で高かった。また、意欲上昇群の学生は、意欲低下群の学生よりも日誌に対する負担感が低い傾向にあったものの大きな差は無かった。

（2）保育実習 I（施設）における実習日誌の満足度・負担感

図表 1-3-22

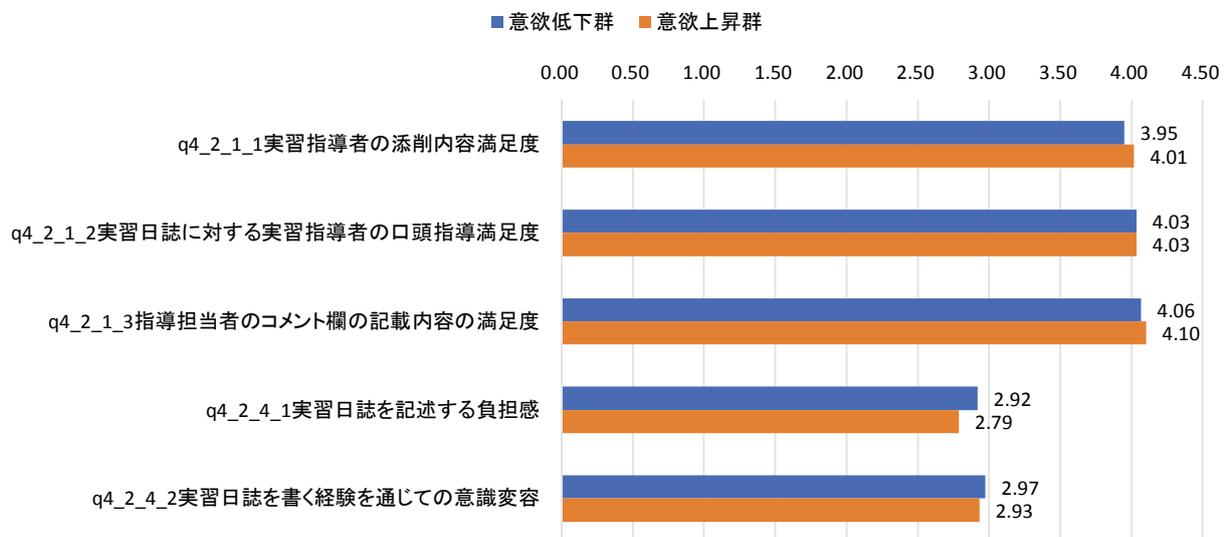
保育実習 I（施設）における実習日誌の満足度・負担感 意欲上昇群低下群による各項目の t 検定結果

質問番号	質問項目	群	度数	平均値	標準偏差	t 値	有意確率	有意水準
q4_2_1_1	実習指導者の添削内容は満足のものでしたか	意欲低下群	262	3.95	0.93	-0.81	0.53	n.s.
		意欲上昇群	222	4.01	0.87	-0.82		
q4_2_1_2	実習日誌の記述に対して実習指導者の口頭における指導内容は満足のものでしたか	意欲低下群	262	4.03	0.93	0.03	0.20	n.s.
		意欲上昇群	222	4.03	1.00	0.03		
q4_2_1_3	指導担当者のコメント欄の記載内容は、満足のものでしたか	意欲低下群	262	4.06	0.84	-0.45	0.78	n.s.
		意欲上昇群	222	4.10	0.83	-0.45		
q4_2_4_1	実習日誌を書くことに対して負担に思いましたか	意欲低下群	262	2.92	0.91	1.53	0.38	n.s.
		意欲上昇群	222	2.79	0.92	1.53		
q4_2_4_2	実習日誌を書く経験を通じて意識が変わったり、学びが深まったりしましたか	意欲低下群	262	2.97	0.74	0.55	0.80	n.s.
		意欲上昇群	222	2.93	0.73	0.55		

q3_2_1_1~3：最小値 1.00，最大値 5.00

* $p < .05$ ** $p < .01$

q3_2_4_1~2：最小値 1.00，最大値 4.00



図表 1-3-23 【保育実習 I 施設（意欲高低群別）】 実習日誌

保育実習 I（施設）において、意欲上昇群の学生は、意欲低下群の学生よりも実習日誌の指導の満足度において若干意識が高かったものの大きな差は無かった。また、日誌に対する負担感や意識変容についても大きな差はなかった。

（3）保育実習 II における実習日誌の満足度・負担感

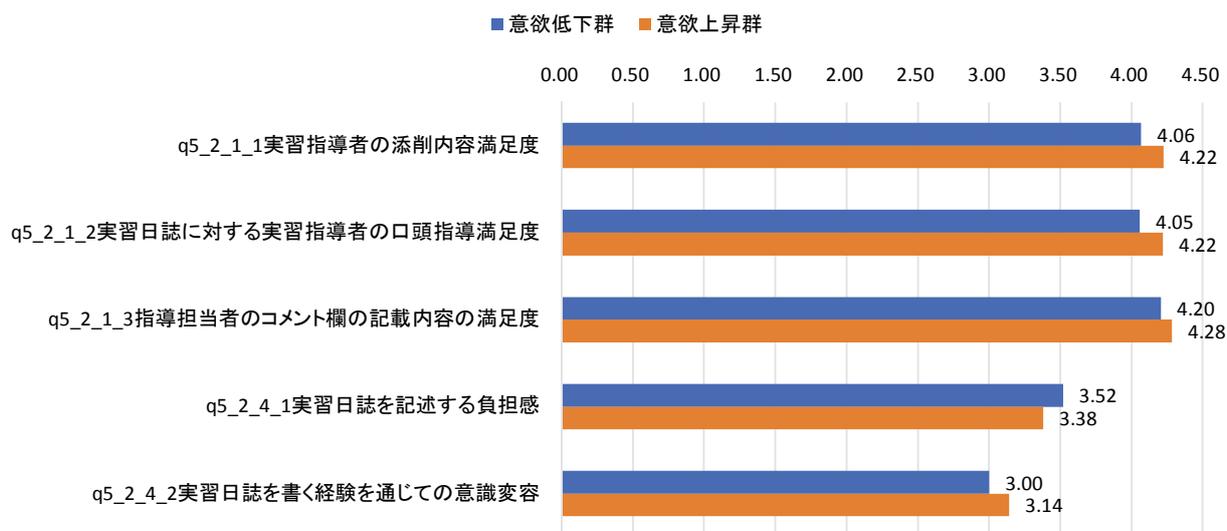
図表 1-3-24 保育実習 II における実習日誌の満足度・負担感 意欲上昇群低下群による各項目の t 検定結果

質問番号	質問項目	群	度数	平均値	標準偏差	t 値	有意確率	有意水準
q5_2_1_1	実習指導者の添削内容は満足のものでしたか	意欲低下群	207	4.06	0.85	-2.10	0.38	n.s.
		意欲上昇群	192	4.22	0.67	-2.12		
q5_2_1_2	実習日誌の記述に対して実習指導者の口頭における指導内容は満足のものでしたか	意欲低下群	207	4.05	0.87	-1.97	0.68	n.s.
		意欲上昇群	192	4.22	0.81	-1.98		
q5_2_1_3	指導担当者のコメント欄の記載内容は、満足のものでしたか	意欲低下群	207	4.20	0.74	-1.08	0.74	n.s.
		意欲上昇群	192	4.28	0.70	-1.09		
q5_2_4_1	実習日誌を書くことに対して負担に思いましたか	意欲低下群	207	3.52	0.67	1.98	0.28	n.s.
		意欲上昇群	192	3.38	0.71	1.97		
q5_2_4_2	実習日誌を書く経験を通じて意識が変わったり、学びが深まったりしましたか	意欲低下群	207	3.00	0.76	-1.91	0.51	n.s.
		意欲上昇群	192	3.14	0.71	-1.91		

q3_2_1_1~3：最小値 1.00，最大値 5.00

* $p < .05$ ** $p < .01$

q3_2_4_1~2：最小値 1.00，最大値 4.00



図表 1-3-25 【保育実習Ⅱ（意欲高低群別）】実習日誌

保育実習Ⅱにおいて、意欲上昇群の学生は、意欲低下群の学生よりも実習日誌の指導の満足度において若干意識が高かったものの大きな差は無かった。また、日誌に対する負担感や意識変容についても大きな差はなかった。

（４） 保育実習Ⅲにおける実習日誌の満足度・負担感

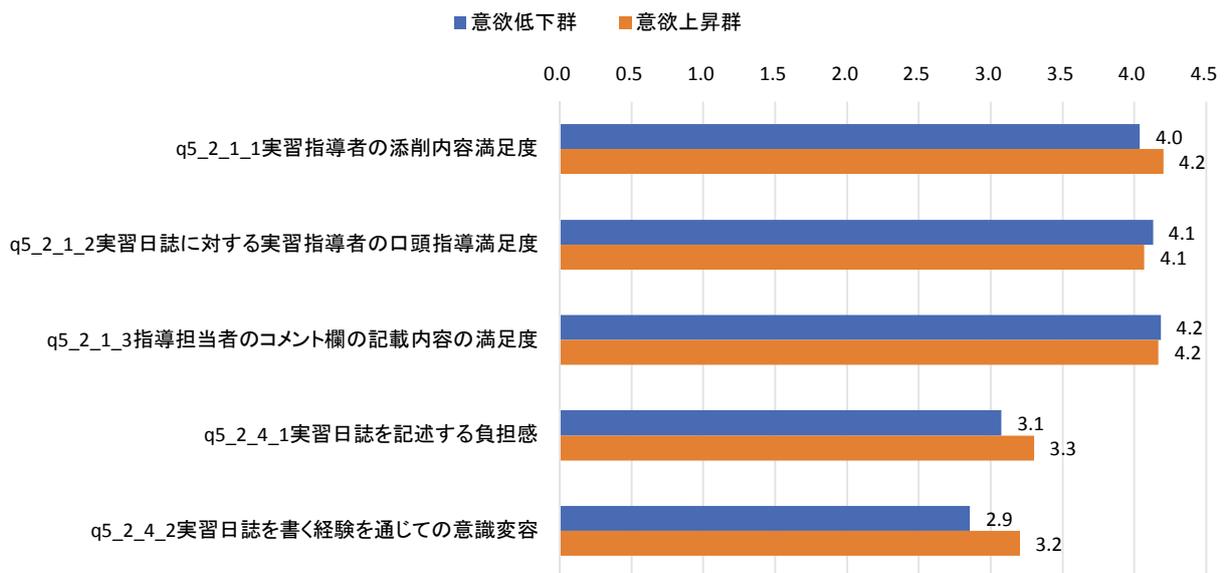
図表 1-3-26 保育実習Ⅲにおける実習日誌の満足度・負担感 意欲上昇群低下群による各項目の t 検定結果

質問番号	質問項目	群	度数	平均値	標準偏差	t 値	有意確率	有意水準
q5_2_1_1	実習指導者の添削内容は満足のいくものでしたか	意欲低下群	55	4.04	0.88	-0.87	0.85	n.s.
		意欲上昇群	30	4.20	0.71	-0.93		
q5_2_1_2	実習日誌の記述に対して実習指導者の口頭における指導内容は満足のいくものでしたか	意欲低下群	55	4.13	0.86	0.32	0.75	n.s.
		意欲上昇群	30	4.07	0.78	0.33		
q5_2_1_3	指導担当者のコメント欄の記載内容は、満足のいくものでしたか	意欲低下群	55	4.18	0.75	0.09	0.86	n.s.
		意欲上昇群	30	4.17	0.75	0.09		
q5_2_4_1	実習日誌を書くことに対して負担に思いましたか	意欲低下群	55	3.07	0.79	-1.20	0.02	*
		意欲上昇群	30	3.30	0.92	-1.15		
q5_2_4_2	実習日誌を書く経験を通じて意識が変わったり、学びが深まったりしましたか	意欲低下群	55	2.85	0.78	-1.89	0.23	n.s.
		意欲上昇群	30	3.20	0.85	-1.85		

q3_2_1_1~3：最小値 1.00，最大値 5.00

q3_2_4_1~2：最小値 1.00，最大値 4.00

* $p < .05$ ** $p < .01$



図表 1-3-27 【保育実習Ⅲ（意欲高低群別）】実習日誌

保育実習Ⅲにおいて、意欲上昇群の学生は、意欲低下群の学生よりも実習日誌に対する負担感において高かったが、その他の満足度や意識変容については大きな差はなかった。

5. 保育士として働きたい意欲と実習中の訪問指導について

ここでは、意欲の上昇・低下群における実習中の訪問指導について、面談形態、指導全般（時間、態度、満足度）、指導内容、訪問指導による意識の変化について尋ねている。

（1）面談形態について：保育実習Ⅰ

<保育所>

図表 1-3-28 保育実習Ⅰ（保育所）訪問指導における面談形態について【複数回答】（％）

	項目内容	意欲上昇群 (222人)	意欲低下群 (262人)	有意水準
q3_2	学生と訪問指導者との二者面談	83.8	80.2	<i>n.s.</i>
	訪問指導者と指導担当者との二者面談	12.6	12.2	<i>n.s.</i>
	学生と訪問指導者と指導担当者の三者面談	11.7	16.0	<i>n.s.</i>

<施設>

図表 1-3-29 保育実習 I（施設）の訪問指導における面談形態について【複数回答】（%）

q3_2	学生と訪問指導者との二者面談	83.8	87.8	<i>n.s.</i>
	訪問指導者と指導担当者との二者面談	5.9	7.6	<i>n.s.</i>
	学生と訪問指導者と指導担当者の三者面談	14.9	10.3	<i>n.s.</i>

<実習ⅡまたはⅢ>

図表 1-3-30 保育実習ⅡまたはⅢの訪問指導における面談形態について【複数回答】（%）

	項目内容	意欲上昇群 (222人)	意欲低下群 (262人)	有意水準
q3_2	学生と訪問指導者との二者面談	85.6	82.8	<i>n.s.</i>
	訪問指導者と指導担当者との二者面談	11.7	11.1	<i>n.s.</i>
	学生と訪問指導者と指導担当者の三者面談	9.0	13.7	<i>n.s.</i>

訪問指導の面談形態と意欲の上昇・下降に関しては、カイ二乗検定の結果、有意な差が認められなかった。

(2) 訪問指導全般について

図表 1-3-31 保育実習 I（保育所）における訪問指導について
意欲上昇低下群による各項目の *t* 検定の結果（上段：平均値, 下段：標準偏差）

	項目内容	意欲上昇群	意欲低下群	<i>t</i> 値	有意水準
		(222人)	(262人)		
q3_2_3	訪問指導の時間	3.14	3.13	-0.16	<i>n.s.</i>
		0.69	0.69		
q3_2_4	訪問指導時の態度	3.24	3.23	-0.22	<i>n.s.</i>
		0.7	0.72		
q3_2_5	訪問指導・助言内容	3.08	3.1	-0.24	<i>n.s.</i>
		0.74	0.78		

図表 1-3-32 保育実習Ⅰ（施設）における訪問指導について
 意欲上昇低下群による各項目の t 検定の結果（上段：平均値,下段：標準偏差）

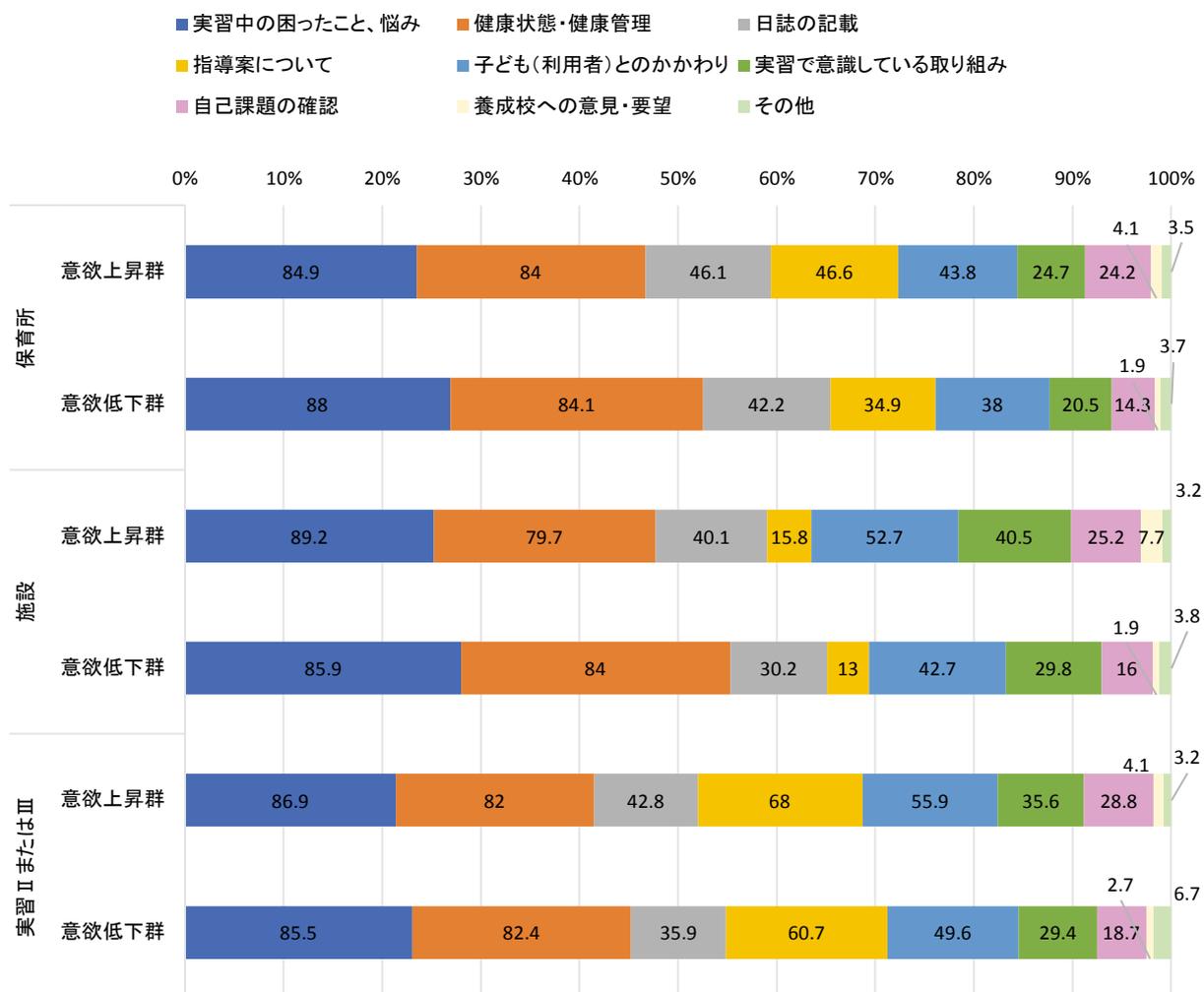
	項目内容	意欲上昇群	意欲低下群	t 値	有意水準
		(222人)	(262人)		
q3_2_3	訪問指導の時間	3.31	3.27	-1.38	n.s.
		0.69	0.74		
q3_2_4	訪問指導時の態度	3.34	3.26	-1.2	n.s.
		0.69	0.73		
q3_2_5	訪問指導・助言内容	3.27	3.2	-1.0	n.s.
		0.75	0.76		

図表 1-3-33 保育実習ⅡまたはⅢにおける訪問指導について
 意欲上昇低下群による各項目の t 検定の結果（上段：平均値,下段：標準偏差）

	項目内容	意欲上昇群	意欲低下群	t 値	有意水準
		(222人)	(262人)		
q3_2_3	訪問指導の時間	3.21	3.11	-1.52	n.s.
		0.68	0.76		
q3_2_4	訪問指導時の態度	3.3	3.21	-1.37	n.s.
		0.68	0.77		
q3_2_5	訪問指導・助言内容	3.19	3.15	-0.74	n.s.
		0.75	0.81		

訪問指導における時間・態度・助言内容に関して、意欲の上昇・低下に関しては t 検定の結果、有意な差が認められなかった。

(3) 訪問指導の内容（内訳）【複数回答】



図表 1-3-34 訪問指導の内容

意欲の上昇・低下群との関連をみたところ、保育実習Ⅰ（保育所）では、「自己課題の確認」、「指導案について」。保育実習Ⅰ（施設）では、「自己課題の確認」、「実習で意識している取り組み」、「日誌の記載」、「利用者とのかかわり」、「養成校への意見・要望」。

保育実習ⅡまたはⅢでは、「自己課題の確認」において、意欲低下群より意欲上昇群の割合が高かった。

実習訪問時の指導内容が、意欲に影響する可能性が示唆された。特にすべての実習訪問で共通であった指導内容は、「自己課題の確認」であった。自己課題を確認されることで、より実習の学びが深化していくことが予測できる。

また施設実習においては、有意差が多く認められた。これは多様な施設種別での実習であることから、子ども理解よりも利用者理解や、かかわり方の難しさ、施設による指導環境の違い、日誌の形式の違い等、学生が、実習中に訪問指導での教員による助言をより多く求めている可能性が考えられる。

(4) 訪問指導による意識の変化について

図表 1-3-35 訪問指導による意識の変化について

項目内容		意欲上昇群	意欲低下群	t 値	有意水準
意識の変化	保育所	2.43	2.45	0.20	n.s.
		0.79	0.79		
	施設	2.51	2.43	-1.05	n.s.
		0.81	0.8		
	IIまたはIII	2.52	2.37	-1.07	n.s.
		0.82	0.82		

訪問時による意識の変化と意欲の上昇・下降との差は認められなかった。

6. 保育士として働きたい意欲と実習施設の保育士による指導について

保育士として働く意欲が入学時より上昇した学生と、入学時よりも低下した学生とで、実習施設の保育士による指導の満足度について比較を行った。

(1) 保育士として働きたい意欲別にみた実習施設指導の満足度について

図表 1-3-36 保育士として働く意欲別にみた実習施設指導の満足度

	意欲群	平均値	標準偏差	t 値	有意確率	有意水準
保育実習 I (保育所)	低下群	4.16	.97	-1.790	.079	n.s.
	上昇群	4.31	.78			
保育実習 I (施設)	低下群	4.19	.85	.288	.773	n.s.
	上昇群	4.17	.94			
保育実習 II または III	低下群	4.21	.98	-2.67	.008	**
	上昇群	4.42	.78			

**p<.01

保育士として働く意欲による満足度の違いは、保育実習 I (保育所) と保育実習 I (施設) では見られなかったが、保育実習 II または III では違いが見られた。保育士として働きたいという意欲が上昇した学生は、意欲が低下した学生よりも実習先の指導の満足度が高かったことがわかった。

7. 保育士として働きたい意欲と指導実習について

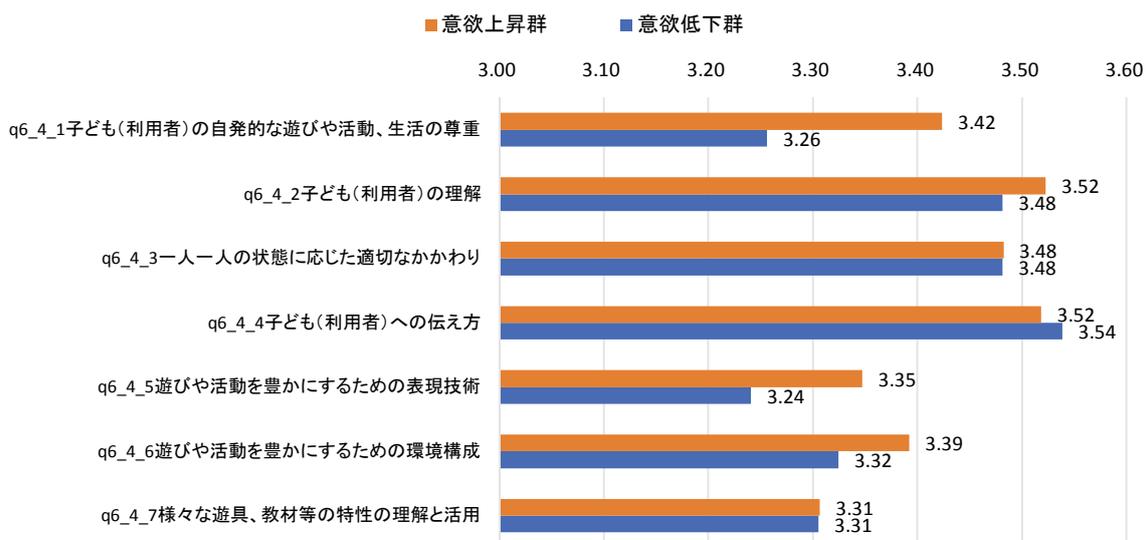
(1) 意欲が低下した群と、意欲が上昇した群の、指導実習を通した学びの認識の比較

図表 1-3-37 意欲上昇低下群による各項目の t 検定結果

質問番号	質問項目		度数	平均値	標準偏差	t 値	有意確率	有意水準
q6_4_1	子ども（利用者）の自発的な遊びや活動、生活の尊重	意欲低下群	262	3.26	0.59	-3.02	0.01	*
		意欲上昇群	222	3.42	0.62	-3.01		
q6_4_2	子ども（利用者）の理解	意欲低下群	262	3.48	0.57	-0.79	0.76	n.s.
		意欲上昇群	222	3.52	0.58	-0.79		
q6_4_3	一人一人の状態に応じた適切なかわり	意欲低下群	262	3.48	0.61	-0.02	0.91	n.s.
		意欲上昇群	222	3.48	0.63	-0.02		
q6_4_4	子ども（利用者）への伝え方	意欲低下群	262	3.54	0.56	0.38	0.28	n.s.
		意欲上昇群	222	3.52	0.61	0.38		
q6_4_5	遊びや活動を豊かにするための表現技術	意欲低下群	262	3.24	0.64	-1.81	0.41	n.s.
		意欲上昇群	222	3.35	0.65	-1.81		
q6_4_6	遊びや活動を豊かにするための環境構成	意欲低下群	262	3.32	0.64	-1.13	0.40	n.s.
		意欲上昇群	222	3.39	0.67	-1.13		
q6_4_7	様々な遊具、教材等の特性の理解と活用	意欲低下群	262	3.31	0.66	-0.02	0.70	n.s.
		意欲上昇群	222	3.31	0.65	-0.02		

* $p < .05$

指導実習を通しての学び



図表 1-3-38 意欲上昇低下群による各項目の平均値

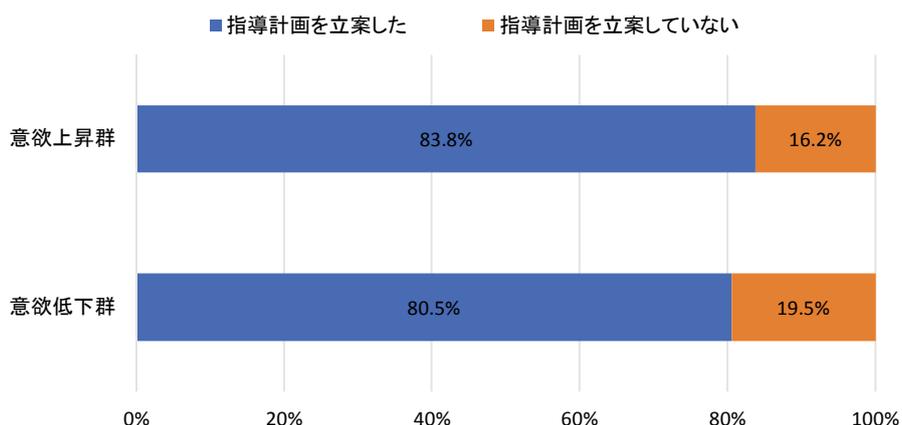
指導実習を通して、意欲上昇群の学生の方が意欲低下群の学生よりも、ほとんどの項目において学べた認識が高かった。中でも「子ども（利用者）の自発的な遊びや活動、生活の尊重」について、意欲上昇群の学生の方が学べたと認識している傾向があった。「子ども（利用者）への伝え方」については、意欲低下群の学生の方が学べたと認識が高かったが大きな差は無かった

（２）指導実習において印象に残る活動展開と、意欲の低下群上昇群との関連

図表 1-3-39 指導計画の経験における意欲の低下群・上昇群の割合

	意欲低下群		意欲上昇群	
	人数	割合	人数	割合
指導計画を立案した	249	80.5%	214	83.8%
指導計画を立案していない	13	19.5%	8	16.2%

指導計画の立案



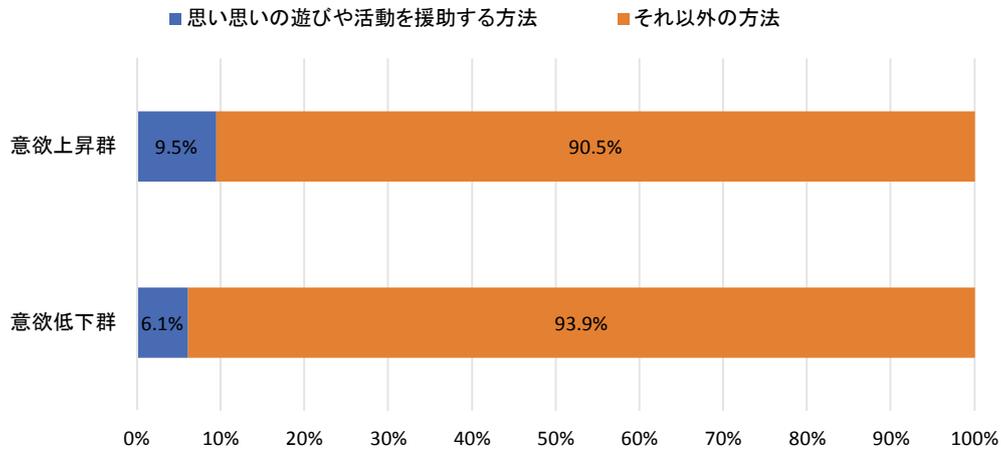
図表 1-3-40 指導計画の経験における意欲の低下群・上昇群の割合 (%)

意欲が低下した学生と上昇した学生とで比較すると、いずれも約 8 割の学生が指導案を立案しての実践を行っているが、意欲が上昇した学生の方が指導計画を立案した割合が多かった。

図表 1-3-41 指導実習内容における意欲低下群・上昇群の割合①

	意欲低下群		意欲上昇群	
	人数	割合	人数	割合
思い思いの遊びや活動を援助する方法	16	6.1%	21	9.5%
それ以外の方法	246	93.9%	201	90.5%

思い思いの遊びや活動を援助



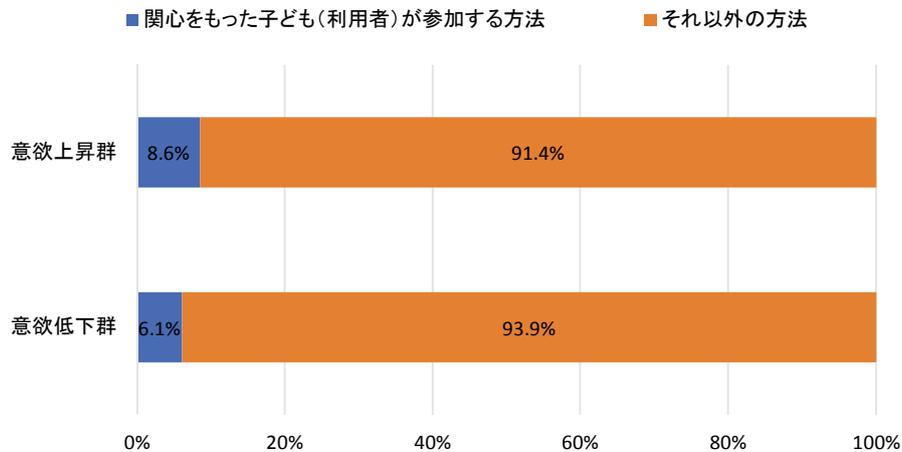
図表 1-3-42 指導実習内容における意欲低下群・上昇群の割合① (%)

思い思いの遊びや活動を援助する方法で活動を行った学生は、意欲低下群・上昇群共に1割未満と少ないが、意欲上昇群の方が低下群に比べてこのような方法で指導実習を行った学生の割合が多かった。

図表 1-3-43 指導実習内容における意欲低下群・上昇群の割合②

	意欲低下群		意欲上昇群	
	人数	割合	人数	割合
関心をもった子ども(利用者)が参加する方法	16	6.1%	19	8.6%
それ以外の方法	246	93.9%	203	91.4%

関心をもった子ども(利用者)が参加する方法



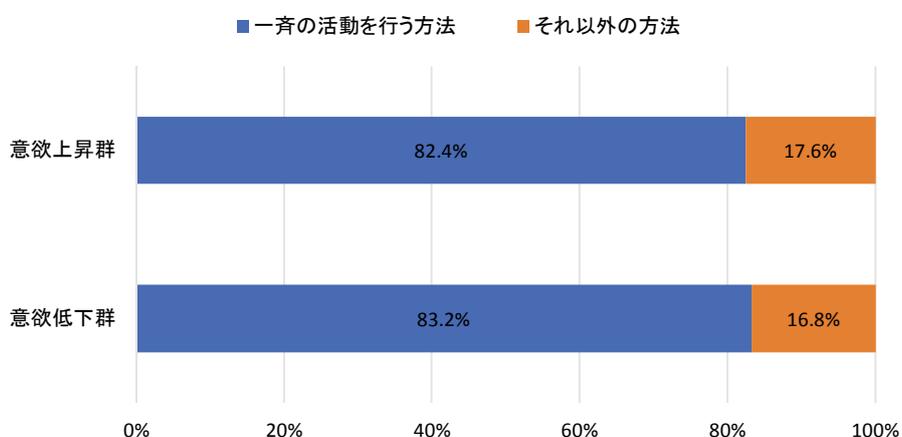
図表 1-3-44 指導実習内容における意欲低下群・上昇群の割合② (%)

関心をもった子ども（利用者）が参加する方法で活動を行った学生は、意欲低下群上昇群共に 1割未満と少ないが、意欲上昇群の方が低下群に比べてこのような方法で指導実習を行った学生の割合が多かった。

図表 1-3-45 指導実習内容における意欲低下群・上昇群の割合③

	意欲低下群		意欲上昇群	
	人数	割合	人数	割合
一斉の活動を行う方法	218	83.2%	183	82.4%
それ以外の方法	44	16.8%	39	17.6%

一斉の活動として行う方法



図表 1-3-46 指導実習内容における意欲低下群・上昇群の割合③ (%)

一斉の活動として行う方法で活動を展開した学生は、意欲低下群上昇群共に約 8 割と多い。意欲上昇群の方が低下群に比べてこのような方法で指導実習を行った学生の割合が僅かに少なかったが、大きな差はなかった。

指導実習で特に印象に残った実践の活動展開別では、意欲上昇群の方が意欲低下群より「思い思いの遊びや活動を援助する方法」と「実習生が活動を提案し、関心をもった子どもまたは利用者だけが参加する方法」での活動を行った学生の割合が多い。また、「実習生が活動を提案し、一斉の活動として行う方法」での活動を行った学生の割合は、意欲上昇群低下群での大きな差は無いという結果であった。

一方、「指導計画を立案していない」学生の割合は、意欲上昇群より低下群の方が多く、指導計画を立案しての意欲上昇に関わる可能性が示唆された。

8. 保育士として働きたい意欲と保育士適性について

(1) 保育士として働きたい意欲における低下群と上昇群による比較

1) 入学時、実習後の保育士適性

「保育士の適性」については、Ⅱ-8-(2)-1)において実施した因子分析の結果において抽出された2因子(対人力因子、協働因子)を使用し保育士として働きたい意欲との関連で分析を行った(図表1-2-123参照)。

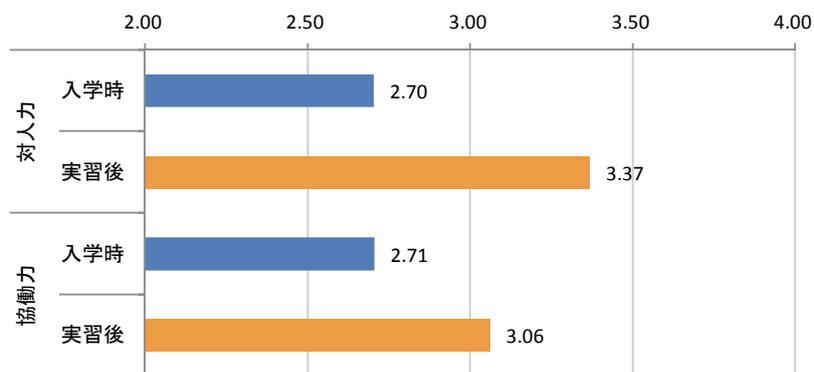
図表 1-3-47 保育士適性 2 因子の意欲低下群と上昇群の *t* 検定結果

因子	意欲低下群 n=262		意欲上昇群 n=222		<i>t</i> 値	有意確率	有意水準	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差				
入学時	対人力	2.70	0.45	2.61	0.48	2.09	.037	*
	協働力	2.71	0.58	2.64	0.58	1.17	.245	<i>n.s.</i>
実習後	対人力	3.37	0.50	3.47	0.44	-2.46	.014	*
	協働力	3.06	0.57	3.23	0.48	-3.57	.000	***

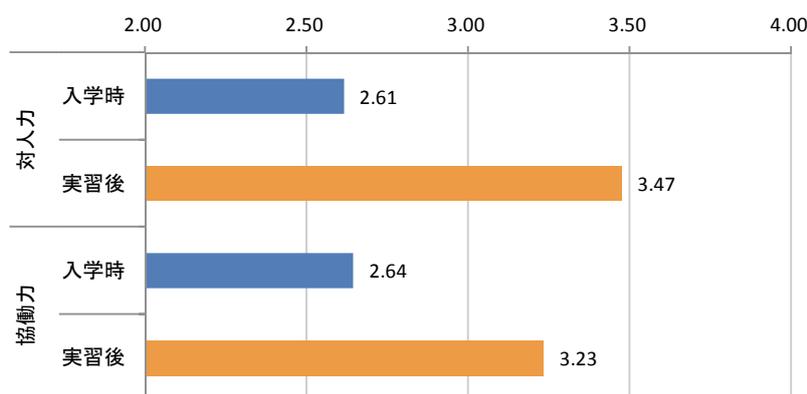
+*p*<.10 **p*<.05 ***p*<.01 ****p*<.001

入学時の保育士適性の2因子では、「対人力」は意欲低下群の方が、意欲上昇群よりも有意に高かったが、実習後は、「対人力」「協働力」ともに、意欲上昇群の方が、意欲低下群よりも有意に高かった。

2) 保育士適性の成長



図表 1-3-48 意欲低下群の保育士適性因子の成長 (n=262)



図表 1-3-49 意欲上昇群の保育士適性因子の成長 (n=222)

保育士適性の2因子についての実習を通じた成長としては、意欲低下群では、「対人力」($t(261)=-28.32, p<.001$), 「協働力」($t(261)=-11.16, p<.001$)ともに、実習後に有意に上昇していた。意欲上昇群でも、「対人力」($t(221)=-30.86, p<.001$), 「協働力」($t(221)=-18.86, p<.001$)ともに、実習後に有意に上昇していた。意欲の変化にかかわらず、実習後の方が身についていると感じており、実習経験を通して、保育士適性の成長を実感していた。さらに、意欲上昇群の学生の方が入学時と実習後の値の変化が大きく、実習を通して保育士適性について成長感をより多く感じていることが示唆された。

9. 養成校の授業（講義・演習等）での学びの中で、特に実習で役に立ったと思われる学びについて。（自由記述）

回答全体としては、実習日誌、指導案、ピアノ、手遊び等に関する回答が多かった。加えて、「保育士として働きたい意欲」の低下群上昇群を比較検討した。

(1) 回答数

意欲低下群 262 中、75 の回答（特になし、等を除く）が得られた。回答率は 28.6%である。意欲上昇群 222 中、73 の回答（特になし、を除く）が得られた。回答率は 32.9%である。意欲上昇群の方が回答率が高いものの、いずれも 30%前後の回答が得られている。

(2) 多く見られた記述内容

意欲低下群、上昇群それぞれの各回答に 5 回以上見られた用語を図表 1-3-50 に示す。

図表 1-3-50 記述内容

意欲低下群		意欲上昇群	
日誌	14	指導案	10
指導案	10	日誌	9
ピアノ	8	ピアノ	9
発達	8	手遊び	8
手遊び	8	造形	5
造形	5		

意欲低下群、上昇群共に、5 回以上見られた言葉はほぼ共通しており、実習に役に立ったと思われる学びはあまり違いがないことが分かる。意欲低下群にのみ 5 回以上見られる「発達」という言葉も、意欲上昇群で 4 回見られている。

「日誌」「指導案」は主にその書き方が役に立ったという記述が多い。例えば、また、「ピアノ」「手遊び」「造形」は「実践」「表現」「技術」などの言葉と共に記されるものもあり、表現技術の中でも学生が行うことを指していると考えられる。いずれにしても、実習で自身が行うことの具体的な方法について、実習に役に立ったと認識していることが分かる。

(3) 意欲低下群、上昇群を比較しての差異

両群に多く見られた「日誌」「指導案」の書き方については、図表 1-3-50 にあるように、意欲低下群では「日誌の書き方」が役に立ったという記述が特に多く見られ、事前に学んでおく必要性が高いと認識していると考えられる。

また、「発達」についても、意欲低下群の方が多く見られ、子どもの発達についての学びが実習で生かされたと認識していることが考えられる。記述としては、「子どもの発達について」という表記がいずれの群にも共通している。相違点としては、意欲低下群では「年齢ごとの発達」「年齢別発達」など、子どもの年齢と結び付けた表現が見られる一方、意欲上昇群では「子どもの発達過程」という表現が見られ、その捉え方の違いが示唆された。

(4) 意欲低下群、意欲上昇群の特徴

上述以外の記述内容に焦点を当てて、それぞれの特徴的な内容を記す。

意欲低下群では、実習で生かせる態度に関する記述が特徴として挙げられる。次のような内容の記述である。「なんでも挑戦して、経験することの大切さ」「積極性」「自分で動くことができる行動力」等。また、「実際に体験しないと分からない」「役に立たなかった」等、授業等での学びと実習との関連性を感じられていない記述も見られた。

意欲上昇群では、特に他者との意見交換やグループでの取り組みが、実習に役に立ったという記述が特徴的であった。「グループで話し合ったことは、様々な意見が聞けるので、勉強になりました。」「自分で考え、みんなの前で発表する力。また、みんなで協力し一つのものを作り上げていくこと。」等である。自分と異なる意見を受け入れ、多角的に考えたり、重ね合わせたりすることの意義を認識していると考えられる。_加えて、「先生や先輩の現場での話を聞く。」「保育士の先生や現場の声を聞くというものはとても実習で役立った」という記述もあり、同様に他者の話を聞こうとする姿勢や、その意義を認識していることが伺える。また、「乳児保育、社会的養護など、子ども理解のための学び全部が役に立っている」「保育を専攻し、学んできたこと自体が今思うと役に立ったのではないかと思います。」といった、授業等での学びが実習と関連し合っていると感じている記述が見られた。

10. まとめ

指定保育士養成施設の在学学生を対象とした質問紙調査（以下学生調査）の結果について、まず、入学時と実習後で「保育士として働きたい意欲」が上昇した学生と低下した学生を比較することを中心に総括し、その要点を整理すると以下の通りとなる。

第一に、学生の「保育士として働きたい意欲」は、全体として入学時と比較し実習後に低下していた。また、「保育士として働きたい意欲」は、2年制養成の学生が4年制養成の学生よりも高い、という点も明らかになり、これらの要因については今後さらに調査、検討が必要であると思われる。

第二に、学生の「保育士としての適性」は、2年制養成、4年制養成を問わず、入学後と比較し実習後に上昇していた。そして、「保育士として働きたい意欲」上昇群の学生は、「保育士としての適性」低下群の学生より上昇しており、意欲が学生の保育士適性に関する成長感に大きく影響していることがわかった。

第三は、実習における学びについてである。実習後の意欲が上昇している学生ほど、実習における学びの獲得が大きいことが明らかになり、養成校が学生の「保育士として働きたい意欲」が上昇する環境を整えることが、学びの深まりにつながることを示唆された。

第四は、実習前後の授業についてである。実習後に意欲が上昇した学生は、「自己課題の整理や明確化」「実習以外の教科の内容を実習に結びつけて保育・支援を考えることができる」など、自分の学びを客観的に振り返り、他教科での学びとの関連の中で学びを深めていることがわかった。

第五は、実習日誌の作成についてである。保育実習Ⅰ（保育所）において、実習後に「保育士として働きたい意欲」が上昇している学生は、日誌作成の負担感が低く、日誌作成に関する指導に満足している傾向がみられた。しかし、保育実習Ⅰ（施設）、保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲについては、意欲の上昇、低下による違いはほとんど見られなかった。実習先の種別（保育所か施設か）の違い、実習回数等が、意欲以外の要因として関係していることが考えられる。

第六は、訪問指導についてである。訪問指導の実態と、「保育士として働きたい意欲」の上昇、低下については関連が見られなかった。訪問指導が、学生の意欲の変化に直接的な影響を及ぼしていないことがうかがえる。

第七は実習施設の保育士による指導についてである。保育実習初期の段階である保育実習Ⅰ（保育所）と保育実習Ⅰ（施設）では、保育士による指導への満足度と「保育士として働きたい意欲」の間に関係は見られなかったが、実習経験が積み重なった「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」では、意欲が上昇した学生は、実習先の指導への満足感が高かった。保育士になる意欲が高い学生ほど、実習における学びへの意欲も高いことが予想され、実習中の学びの環境を保障するという点で、実習施設の保育士が果たす役割は大きいといえよう。

第八は指導実習についてである。全体として、「保育士として働きたい意欲」が上昇している学生の方が、学べた認識が高かった。特に、保育実践上、重要な点である「子ども（利用者）の自発的な遊びや活動、生活の尊重」について、意欲上昇群の学生の方が学べたと認識している傾向があった。

次に、その他の項目の中で、養成校における今後の実習指導を考える上で、関連が深いと思われるものは以下の通りである。

まず、実習における学びに関して、「遅刻や早退、欠勤などせず、実習できる」「言葉づかい、挨拶、服装など、保育士としての基本的な態度が身につく」等の、実習マナーに関する学びについて、多くの学生が、実習前にすでに獲得済みと回答していた。実習事前事後指導における、教授内容を考えるとき、実習マナーに関する内容をどの程度組み込むか、という点において、この結果は示唆的である。

次に、実習における学びに関して、保護者支援に関する項目に関して、学びが十分でない学生が多く、特に「保護者に子育てに関する情報提供やかかわりの見本を示すことができる」という項目についても「まだ身につけていない」と回答した学生が半数を超えていた。加えて、「まだ身につけていない」と回答した学生は、4年制養成の学生に多く、養成期間の長さがこの項目の学びの獲

得に直結するのではなく、時間をかけて学ぶことで学びのハードルが上がる側面があることがうかがえる。保育士による保護者支援、子育て支援の重要性が指摘される中、この点に関して保育実習を通して十分に学べていない状況は、課題の一つといえよう。

本調査全体を通じて、「保育士として働きたい意欲」は入学後に比べ実習後にやや低下しているものの、「保育士としての適性」については実習後に上昇していることがわかり、2年制養成、4年制養成を問わず、実習を通して学生が成長感を感じていることが明らかになった。4年制養成の学生の意欲が2年制養成の学生に比べて低かった点については、一部の内容（保護者支援等）に関して、学びが不十分と感じる傾向が4年制養成の学生に見られたことを、要因の一つと考えられる。しかし、他の要因も考えられ、さらに調べる必要があるだろう。

また、今回の調査における「保育士としての適性」とは、学生自身が成長感を感じることであり、客観的な指標で学生の保育士としての適性を測るものではない。つまり、学生が自分では成長したつもりであっても、そのことと保育士としての適性の上昇は、必ずしもイコールではない。この点を考慮した調査が、今後必要となるだろう。

さらに、今回の調査は、入学時と実習後という時点での学生の変化を調べたものである。保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（施設）、保育実習ⅡあるいはⅢと、最低でも3回の実習を経ている間の、学生の意欲の上昇、低下に関しては今回の調査では踏み込めていない。入学時の意欲が、数回のアップダウンを経て、実習後の意欲につながる可能性は十分に考えられるため、この点についても今後の課題としたい。